

ふじの教育

令和6年度

2024

富士市教育委員会

目 次

・富士市の位置……………	1
・富士市のすがた……………	2

I 令和6年度 教育行政の方針及び施策

1 教育行政の方針……………	3
2 施策……………	5
(1) 方針1……………	5
(2) 方針2……………	11
(3) 方針3……………	20

II 教育委員会と事務局概要

1 教育長・教育委員……………	27
2 歴代教育委員等……………	28
3 令和5年度教育委員会会議及び 教育委員研修実績……………	29
4 教育委員会の自己点検・評価……………	32
5 教育委員会行政組織機構……………	33

III 令和6年度教育予算

1 歳出当初予算額……………	35
2 一般会計歳出予算と教育費予算……………	35
3 教育費当初予算額内訳……………	36
4 職員数……………	38
5 教育費決算額の推移……………	38
6 教育施設整備事業予算……………	38

IV 主要事業

1 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

(1) ふじの教育懇談会……………	39
(2) 施設整備事業……………	39

2 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を育成する学校教育

(1) 小・中学校……………	40
(2) 特別支援学校……………	62
(3) 高等学校……………	62

【(関連事業) 幼稚園】…………… 67

3 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

(1) 社会教育……………	69
(2) 図書館……………	74
(3) 少年教育……………	78
(4) 青年教育……………	81
(5) 青少年教育センター……………	83
(6) 青少年相談センター……………	85
(7) 少年自然の家……………	90
(8) 文化財の保護……………	95
(9) 博物館……………	103
(10) 教育文化スポーツ奨励賞……………	109

V 資料編

1 富士市教育行政のあゆみ(略記)……………	110
2 富士市教育委員会委嘱の各種名簿……………	117
3 富士市の社会教育関係団体一覧表……………	124



市 章



市民の木 くすの木



市民の花 バラ

富士市民憲章

富士に生きるわたくしたちは
歴史と伝統をうけつぎ 明日にむかつて
豊かな産業と文化のまちづくりをすすめるため

一、富士山のように 広く

思いやりの心をもち たがいに助け合います

一、富士山のように 美しく

自然を愛し きれいな環境をつくります

一、富士山のように 高く

教養を深め 視野のひろい市民となります

一、富士山のように たくましく

働くよろこびをもち 健康な家庭をつくります

一、富士山のように 強く 正しく

きまりを守り 平和で安全な社会をつくります

(昭和五十八年十一月一日制定)

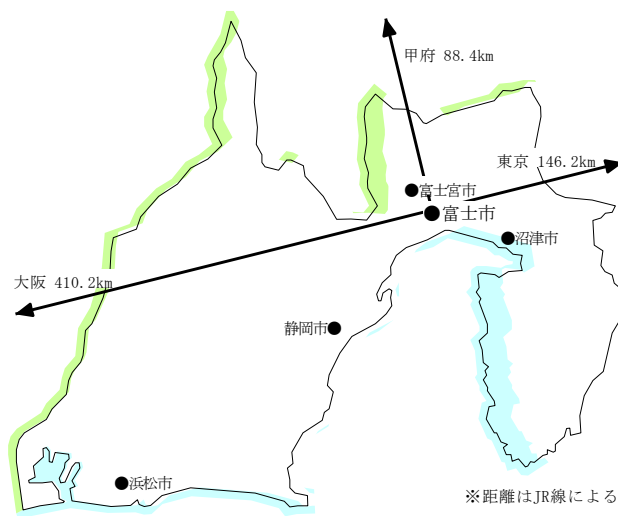
富士市の位置

富士市は、「世界遺産 富士山」の広大な南麓に位置し、標高 3,680mの富士山 9 合目付近から南へ進むにつれ低くなり、日本最深の駿河湾に続いています。市の西部には、日本 3 大急流の一つである富士川が流れています。

鉄道は、東海道本線と東海道新幹線が東西を結び、身延線が富士駅を起点に山梨県までを結んでいます。また、市街地と市の東部地区を結ぶ岳南電車が吉原駅を起点に運行しています。

道路は、日本の東西を結ぶ大動脈である東名高速道路、新東名高速道路、国道 1 号が通り、これらが南に位置する田子の浦港や北の山梨方面へ続く国道 139 号に接続し、日本の物流において重要な役割を担っています。

県庁所在地の静岡市街へは約 34km、また、東京まで約 146km、大阪まで約 410km の位置にあります。西は静岡市（政令指定都市）と富士宮市、東は沼津市、長泉町、裾野市、御殿場市と接しています。



広がり	東西	23.2 km
	南北	27.1 km
面積	244.95 km ²	
人口	247,077 人	
世帯数	111,435 世帯	

令和 6 年 5 月 1 日現在



富士市のすがた

「田児之浦從 打出而見者 真白衣
不尽能高嶺爾 雪波零家留」と、万葉の
歌人、山部宿禰赤人にうたわれた富士
市・・・

富士市の起こりは古く、6千年ないし
7千年前から人類が住んでいたことが、
市内に点在する縄文時代の遺跡、古墳群
等によって分かります。



歌川広重 『東海道五十三次』 吉原 左富士

鎌倉時代に、源頼朝は要路政策により、現在の田子の浦港の東に「見付」をつくり
ました。

その後も「見付」は吉原湊（現田子の浦港）を控えた交通の要衝として、戦国大名
（今川氏、北条氏、武田氏）の保護を受け、大変にぎわいました。「見付」が「吉原」
と改称されたのは4百年くらい前と推定されております。江戸時代には東海道五十三
次の宿場「吉原宿」として、景勝「左富士」とともに旅人の心を癒してきました。

明治維新とともに、地域の経済及び生活条件も大きく変わり、「吉原宿」は宿場と
しての使命をなくし、衰退のきざしを見せました。そこで先覚者たちは植樹、茶業、
養蚕、あるいは「駿河半紙」の伝統を生かし、製紙業を興しました。中でも製紙工業
は富士山麓から湧き出る豊富な地下水と富士山麓の森林資源によって発達し、全国一
の“紙の都”といわれるまでに成長しました。

都市形態も、昭和4年以降数回にわたる隣接町村との合併を重ね、昭和41年11月
1日に吉原市、富士市、鷹岡町が合併し、新生「富士市」が誕生しました。また、平
成20年11月1日に富士川町と合併し、現在静岡県で第3の人口を有する市となっ
ています。現在、人口は247,077人（令和6年5月1日現在）、事業所数は11,310事
業所（令和3年経済センサス活動調査）、年間製造品出荷額等は1兆3,550億8,292
万円（令和3年経済センサス活動調査・従業員数4人以上）で、県内第5位の工業都
市として発展を続けております。

I 令和6年度 教育行政の方針及び施策

1 教育行政の方針

【第二次富士市教育振興基本計画 基本目標】

あす ひら 明日を拓く 輝く「ふじの人」づくり

富士市教育委員会では、「第二次富士市教育振興基本計画（令和4年度～令和13年度）」に基づき、富士市民憲章の「共助・環境・学び・健康・平和」の精神を兼ね備えた「ふじの人」を育成するため、基本方針「一緒に学ぶ一学生ぶ」に沿い、教育施策を推進してまいります。

令和6年度は、いよいよ市内全小・中学校において、小中一貫教育とコミュニティ・スクールを完全実施いたします。義務教育9年間をつなぐ「たての接続」と、コミュニティ・スクールをはじめとした「よこの連携」を網目のように巡らせ、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に努めます。

また、その他の各種事業においても、市民一人一人のウェルビーイングを目指し、一層の充実を図ってまいります。

方針1 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

1 新たな時代に対応する取組の推進

- ・次期 ICT 環境整備への着手
- ・小中一貫教育の全校実施による9年間切れ目なく質の高い教育活動の推進と取組の検証
- ・幼保こども園等と小学校の連携推進のための研究指定校や園小連携部会を通じた研究の推進
- ・コミュニティ・スクールの全校導入等による、地域の特色を生かした教育活動の推進
- ・「部活動地域連携及び地域移行」を視野に入れた協議会の開催とモデル事業の実施
- ・「キズナ学習」を核とした青少年体験交流事業の実施
- ・文化財の計画的な保存・活用の推進

2 誰一人取り残さない社会を目指した教育の充実

- ・各教科等におけるESD（持続可能な開発のための教育）の推進
- ・市立高校「究タイム」における、SDGsに関連付けたテーマ設定と課題解決の実践
- ・特別支援教育学習相談員による、通常学級に在籍する特別な支援を要する子どもへの支援の充実
- ・支援を要する児童生徒が自校で通級指導を受けられるようにするための、担当教員の増員と環境整備
- ・特別支援サポート員の増員による、子どもへの支援の充実
- ・特別支援学級（自閉・情緒学級）の新設（今泉小・鷹岡小・青葉台小・元吉原中・吉原北中）
- ・外国人児童生徒への、在籍学校や国際教室（吉原小・富士見台小・田子浦小）における日本語指導や教科指導の充実
- ・学びのセーフティネットの強化による、児童生徒の不安や悩みに寄り添った相談業務の充実
- ・社会的自立を支援するため、臨床心理士等の専門職を生かした、個に応じた支援や学びを提供する「ステップスクール・ふじ」の充実
- ・若者相談窓口「ココ☆カラ」による社会生活を営む上で困難を抱える若者及びその保護者等への継続的な支援

3 安全・安心で充実した教育環境の提供

- ・誰もが利用できるバリアフリー対応のトイレの設置（吉永第二小、吉原第三中ほか）、及び斜行型階段昇降機設置による段差解消の実施（大淵中）
- ・児童生徒用トイレの洋式化・乾式化の計画的な実施（今泉小、吉原第一中ほか）
- ・校舎や屋内運動場等の長寿命化改修の実施（大淵第一小、元吉原中ほか）
- ・小中学校における対象となる特別教室への空調設備設置の完了
- ・遠距離通学をしている子どもたちへの通学支援（スクールタクシー等）の実施
- ・武道に取り組める環境を確保するため、武道場建設工事の着工（岳陽中）

方針2 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

1 豊かな心の育成

- ・一人一人の個性が尊重され、安心して自分の意見を自由に表明することができる環境づくりの推進
- ・スクールソーシャルワーカー（SSW）やスクールカウンセラー（SC）との連携による生徒指導体制の充実
- ・「はっとデジタル相談・ふじ」の活用等、児童生徒支援のための学校と関係機関の連携推進の強化
- ・情報モラル教育や人権教育の充実と多様な価値観を認め合う「考え、議論する道徳」の推進

2 確かな学力の向上

- ・子どもが自ら問いをつくり、自分らしさを発揮しながら課題を解決していく資質・能力を育む授業実践
- ・個別最適な学びと協働的な学びを中心とした授業研究（研究指定校：岳陽中）
- ・園小の切れ目ない接続の在り方研究（研究指定校：富士川第一小）
- ・特別支援教育の充実を目指す研究（研究指定校：吉原北中、鷹岡小）

3 健やかな体づくり

- ・基本的な生活習慣や心身の健康の保持増進を目指す取組の推進
- ・外部の専門的指導者の招聘による、スポーツの魅力を体感できる体育（保健体育）の授業改善の推進
- ・休み時間等での運動を奨励し、日常的に体を動かすことを楽しむ子どもたちの育成
- ・自助・共助の意識を高め、実践力を高める防災教育・安全教育の推進

4 頼もしい教職員の育成

- ・富士市子どもの権利条例に基づく、人権を尊重した教育環境づくりの研修の推進
- ・不祥事根絶研修の継続実施による、コンプライアンス（法令順守）意識と実践力の向上
- ・子どもの特性に合わせた生徒指導力やICT教育データ活用力等、新しい時代に対応するとともに、キャリアステージに応じた研修機会の充実
- ・教職員の時間外業務等時間の適切な把握・管理と働き方改革による、心身ともに健康で魅力ある教職員の育成
- ・共同学校事務室による取組の充実と、学校事務の効率化による教職員の業務改善の推進

5 未来を切り拓く生徒を育成する市立高校

- ・タブレット端末等を生かし、「究タイム」及び各教科を通じた、主体的・対話的で深い学びの実践
- ・ウェルビーイングの視点を意識したキャリア教育や探究学習を通じた、生徒の夢実現への支援
- ・アジア圏を研修地とした海外探究研修の実施
- ・「市役所プラン」など、地域住民や地元事業所、市役所等と連携した学習の推進
- ・教員の多忙化解消及びテスト結果の有効活用のため、テスト自動採点支援システムの導入

方針3 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

1 人生100年時代を豊かに生きる学びの推進

- ・新しい趣味の発見や仲間づくり、教養を深めるため、まちづくりセンター等を会場とした幅広い世代への多様な学びの提供
- ・地域の資源や魅力を知ることによる、地域の課題に自ら行動することにつながる学習機会の充実
- ・子どもの居場所づくりや体験学習の機会の提供等を目指す「放課後子ども教室×少年教育講座」の実施
- ・地域・家庭と学校との連携・協働を推進していく地域学校協働活動の在り方についての検討
- ・青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」を長野県で実施

2 市民の学びの場である図書館の充実

- ・移動図書館サービスや電子図書館の利用促進による、読書機会の提供の拡大と利便性の向上
- ・乳幼児からの読書活動の支援として、出産を待つ保護者への読み聞かせ講座の開催
- ・乳幼児とその保護者の図書館利用促進のための託児サービスの開始
- ・ボランティアの技術向上のため定期的なスキルアップ講座等の開催

3 ところ豊かな市民文化の創造

- ・市指定史跡「千人塚古墳」整備工事及び石室内発掘調査の実施
- ・国指定史跡「浅間古墳」の保存活用計画の策定及び文化財シンポジウムの開催
- ・国登録有形文化財「旧順天堂田中歯科医院」移築復原事業実施設計の実施
- ・国重要文化財「古谿荘」の修復事業への継続支援
- ・第61回企画展「將軍綱吉の時代と富士」をはじめとする展示会及び各種体験講座の開催
- ・竪穴式復元住居の茅葺き屋根修繕共同作業の開催

2 施策

第二次富士市教育振興基本計画で掲げる方針に基づき行う本年度の取組について記載しています。

【方針1】 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

【方針2】 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

【方針3】 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

(1)方針1 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

〔施策の柱1〕 新たな時代に対応する取組の推進

本年度は、第二次富士市教育振興基本計画（令和4年～令和13年度）に基づく教育行政の実施3年目となります。今日の教育を取り巻く環境においては、Society5.0¹時代の到来や、誰一人取り残さない教育の実現を目指した教育機会の確保、少子化による児童生徒数の減少等、適切に対応すべき喫緊の課題が山積しています。

新たな時代を生き抜く子どもたちには、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓き、ウェルビーイング²の創り手となることが求められています。これらの教育を取り巻く環境の変化や、求められる資質・能力の育成に対応し、子どもたちにとって豊かな学びに直結する、新たな時代に対応する教育の土台ともいべき基盤づくりを推進していきます。

GIGA スクール構想³がスタートして3年が経過し、小・中学校ではICTを効果的に活用した授業の実践や研究に取り組んでまいりました。この取組を生かして、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、子ども一人一人が主体となった授業づくりを目指していきます。

学びの連続性を意識した教育の推進においては、全ての中学校区で小中一貫教育⁴を実施し、小中学校の児童生徒・教職員の協働活動を通して、各中学校区の特色ある教育活動を推進します。また、9年間切れ目なく質の高い教育活動の推進を目指すため、各種研修会等で、教職員への周知を図ります。さらに、園小連携⁵をよりよく図るため、研究指定校や園小連携部会における取組を通じて、接続期における支援策等について研究を進めます。

学校と地域の連携・協働に関する取組では、新たに中学校6校に学校運営協議会を設置し、市内全小中学校をコミュニティ・スクール⁶とします。保護者や地域住民の声を積極的に生かして、特色ある「地域とともにある学校づくり」を一層推進し、学校と地域が共に発展していくことを目指します。

義務教育9年間をつなぐ「たての接続」とコミュニティ・スクールをはじめとした「よこの連携」が全ての校区に網目のように広がり、児童生徒が多様な人々とつながることで、豊かな心の醸成や学びの充実が図られるよう、努めてまいります。

部活動では、「富士市中学校部活動ガイドライン⁷」に基づいた適正な部活動運営に努めるとともに、「部活動の地域連携及び地域移行」を視野に入れ、子どもたちにとって持続可能で望ま

¹ サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、国の第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

² 個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念のこと。

³ 児童生徒1人1台端末、及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させるための構想。

⁴ 小・中学校同士で情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す小中連携教育のうち、小・中学校で目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を行う教育。

⁵ 幼稚園・保育園・認定こども園等の就学前教育・保育機関と、小学校による、子どもの一貫した教育を進めるための連携。

⁶ 学校と地域住民、保護者の協働による学校運営が可能となる「地域と共にある学校」を実現するための仕組み。

⁷ 中学校の部活動において、教育的価値を大切にしながら、時代や社会の流れに合ったこれからの部活動の在り方について見直しを図るため、富士市部活動在り方委員会において策定した。

しい部活動の在り方を検討してまいります。

更に、青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」や、文化財の計画的な保存活用についても、更なる発展を目指し、推進してまいります。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】 Society5.0に対応する教育の充実 ・指導主事や外部講師、ICT 支援員等による様々な研修の機会（校内研修、アフター 5 講座⁸等）において、教職員の資質能力向上を目指す。 ・指導主事訪問等を通して、個別最適で協働的な学びを実現するための授業づくりの視点を示し、各校での実践や授業改善につなげる。 ☆GIGA タブレットの次期更新に向けた準備を開始する。
【指標に関する取組】 <u>多様なニーズに対応した情報教育研修会の充実</u> 【指標】 教員の ICT 活用指導力の状況において、「できる」「ややできる」と回答した教員の割合 【R5 実績/ R6 目標/R8 目標】 85.9%/ 92% /100%
【施策②】 学びの連続性を意識した教育の推進 ☆小中一貫教育の全校実施とその取組の検証方法の検討をする。 ・小中合同研修や市主催の各種研修会等において、本市の目指す小中一貫教育について説明をすることで、教職員の理解を深める。 ・児童生徒・教職員の協働活動や小中合同行事等、施設分離型での取組内容やその成果を広報し、小中一貫教育推進につなげる。 ・小学校において幼児期の育ちを生かした授業づくりを研究する。
【指標に関する取組】 <u>教職員同士の協働による、連続性や系統性のある学習支援や生徒支援の充実</u> 【指標】 小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる連携推進員の割合 【R5 実績/ R6 目標/R8 目標】 97.6%/ 100% /100% 【追加指標】 小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる教職員の割合 【R5 実績/ R6 目標/R8 目標】 88%/ 92% /100%



ICT を効果的に活用した授業の実践



幼児期の育ちを生かした授業づくり

⁸ 急速な社会変化と教職員のニーズに対応する自主参加型研修。

【施策③】地域とともにある学校づくり

☆中学校6校を新たにコミュニティ・スクールに指定し、市内全小中学校において地域とのつながりを強化する。

- ・地域の声をより学校づくりに生かし、子供の地域行事やボランティア活動への参画、協働活動の促進等について研究を進める。
- ・CSディレクター⁹定例会を開催し、地域と学校がよりよくつながっていくよう地域の特色に応じた取組等の情報共有をし、協議会の円滑な運営や地域と学校の連携・協働の在り方について研究をする。
- ・市立高校学校運営協議会を開催し、地域住民や保護者等の声を学校運営に活かす。
- ・市立高校では、「人工芝で遊ぼう」や「学校で学ぼう！遊ぼう！」など学校施設を活用した地域交流事業を行う。

☆部活動の地域移行・地域連携の動きをさらに推進するため、協議会を開催する。

☆いくつかのスポーツ団体や文化活動団体に委託し、部活動の地域移行・地域連携のモデル事業を実施する。

【指標に関する取組】

コミュニティ・スクールの充実

【指標】コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まったと回答した学校の割合

小学校【R5実績/ R6目標/R8目標】100%/100%/100%

中学校【R5実績/ R6目標/R8目標】56.3%/70%/100%

その他の事業

- ・教育委員研修（今日的な課題研究、学校・教育施設等の視察）の実施
- ・教育委員会広聴事業「ふじの教育懇談会」の実施
- ・「キズナ学習」を核とした青少年体験交流事業の実施（詳細はP20・P22）
- ・文化財の計画的な保存・活用の推進（詳細はP25～P26）



学校運営協議会の様子



子どもの地域行事やボランティア活動への参画

⁹ コミュニティ・スクールの運営や学校種間の調整、分野横断的な活動の総合調整など統括的な立場で調整等を行う地域人材。

〔施策の柱2〕 誰一人取り残さない社会を目指した教育の充実

私たちを取り巻く社会情勢や教育環境は、急速な情報化、技術進歩の中、より良い社会や学びを他者との協働の中で創り出す時代へと移り変わってきました。そのような中、誰もが未来を拓く力を身に付けられる、誰一人取り残さない社会を目指した質の高い教育が求められています。

そこで、SDGs¹⁰未来都市である本市では、輝く未来を拓く人を育むためのESD¹¹の推進を図るため、民間企業と共同で「子ども社会体験科『しくみ～な¹²』」を試験的に導入し、社会の仕組みを体系的に学ぶ学習活動を通して、「自分と社会の幸せを両立ししなやかに生きる力」、「地域社会・経済の担い手となる意欲」などを育てていきます。令和6年度は異なる学校の職員が4回程度集まり、共同で富士市型のカリキュラムを作成し、いくつかの学校で実践します。

特別支援サポート員¹³や生徒指導サポート員¹⁴を学校の規模や児童生徒の状況を考慮して配置するとともに、「特別支援教育センター」を拠点に、子どもや保護者の困り感に寄り添った早期支援、早期対応を行っていきます。さらに、特別支援教育の専門研修の実施及び専門職や関係機関との連携、巡回学習相談の充実等により、子ども一人一人の特性に応じた教育的支援を行います。令和8年度から通級指導教員が基礎定数化¹⁵されることを見据え、担当教員が該当児童生徒の在籍校を訪問し、在籍校で指導を受けられる児童生徒の割合を計画的に増やしていきます。

さらに、多様性を大切にする社会意識の高まりや、外国人児童生徒数の増加に伴い、外国人児童生徒の在籍校での支援を充実させるとともに、令和5年度新規開設した田子浦小国際教室の開級日を週2日から4日に増やし、支援を希望する児童生徒への個別指導を行うことで、個に応じたきめ細かな日本語指導や教科指導を行っていきます。

近年、困難を抱える子どもや青少年の数は増加の一途をたどっています。多岐にわたる悩み事の解消に向けて、学びのセーフティネットの充実を図るとともに、「ステップスクール・ふじ」において、児童生徒が心穏やかに過ごせる時間と居場所の提供を心掛け、若者相談窓口「ココ☆カラ」においてはニート・ひきこもり・不登校などの社会生活を営む上で困難を抱える若者及びその保護者等を支援していくなど、これからも子どもや青少年、一人ひとりの思いや立場を十分に尊重し、寄り添いながら、自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立していけるよう、個に応じた適切で細やかな支援をしていきます。

各施策の重点事業（☆新規事業）

【施策①】SDGs 達成に向けた取組の推進

- ・各教科等における ESD の推進を図る。
- ・研修会等において各教科等における ESD 実践の情報共有、研修の機会を確保する。
- ・学校と地域の連携強化を推進する。
- ・民間企業と共同で、社会の仕組みを体系的に学ぶ「子ども社会体験科『しくみ～な』」を試験的に導入する。
- ・学校図書館における SDGs 関連の資料を整備する。
- ・市立高校2年次後半の課題解決型学習「究タイム」において、生徒一人一人が SDGs に関連付けたテーマを設定して、課題解決に取り組む。

【指標に関する取組】

SDGs の達成に向けた教育活動の充実

【指標】「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合

小学校【R5 実績/ R6 目標/R8 目標】73.9%/80%/90%

中学校【R5 実績/ R6 目標/R8 目標】58.2%/65%/80%

¹⁰ SDGs とは持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のこと。2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際社会共通の目標。

¹¹ ESD は Education for Sustainable Development の略で、「持続可能な開発のための教育」のこと。

¹² 学内授業と学外体験施設での社会活動を通して世の中の仕組みを学習すること。

¹³ 通常学級で特別な支援を必要とする児童生徒の対応にあたる特別支援教育サポート員と、特別支援学級に配置される特別支援学級サポート員のこと。看護師資格や介助員の資格を持ったサポート員も含む。

¹⁴ 主として中学校に配置されるサポート員。不登校生徒の対応や通常学級で困り感を持っている生徒の対応などにあたる。

¹⁵ 平成 29 年から令和 8 年度までの 10 年間で段階的に通級による担当教員を該当児童生徒 13 人に 1 人とする施策。

【施策②】特別支援教育の充実 ☆通級指導教室の増級（発達支援：吉原第一中学校、今泉小学校（教育プラザ内）言語：富士見台小学校）とサテライト校¹⁶の設置（小中合わせて12校） ☆特別支援学級担任、通級指導教室担当者を対象とした研修を実施する。 ・小中学校の教員を対象に、特別支援教育に関する研修を実施し、理解を深める。 ・特別支援教育学習相談員¹⁷（巡回学習相談員）を配置し、通常学級に在籍する特別に支援が必要な児童生徒の特性に応じた教育的支援の充実を図る。 ・特別支援サポート員の計画的な配置による個別支援体制の充実を図る。 ・特別支援教育センターの小1支援や、低学年における読み書き支援の充実を図る。 ・特別支援学級の新設（自閉・情緒学級：今泉小学校、鷹岡小学校、青葉台小学校、元吉原中学校、吉原北中学校）
【指標に関する取組】 特別支援サポート員の研修の充実 【指標】特別支援サポート員等の研修満足度（5段階評価の平均値） 【R5実績/ R6目標/R8目標】3.9/4.0/4.1
【施策③】外国人等の児童生徒への支援 ・外国人児童生徒が安心して学校生活を送り、中学校卒業後の進路選択に希望が持てるよう、特に日本語指導の必要な児童生徒への支援の充実を図る。 ・初期支援、訪問支援や国際教室での支援の質を向上させるため、支援員の研修を進める。 ☆令和5年度新規開設した田子浦小国際教室の開級日を週2日から4日に増やし、支援を希望する児童生徒への個別指導を充実させる。
【指標に関する取組】 個に応じた日本語指導、学習指導の充実 【指標】日本語指導が必要な児童生徒に対する「特別の教育課程」実施の割合 【R5実績/ R6目標/R8目標】69.4%/70%/70%
【施策④】学びのセーフティネットの充実 ・「ほっとデジタル相談・ふじ」の運用による、相談業務の充実を図る。 ・「ステップスクール・ふじ」では、様々な理由により学校に行けない子どもたちや登校しにくい子どもたちに、時間と場所を提供し、集団生活やカウンセリングを通して、社会的に自立していくための支援を行う。
【指標に関する取組】 「ステップスクール・ふじ」の相談業務や運営の充実 【指標】ステップスクール・ふじを利用した中学3年生のうち、自分なりの進路が見いだせた割合 【R5実績/ R6目標/R8目標】100%/100%/100% 【追加指標】富士市内の不登校児童生徒のうち、ステップスクール・ふじを利用した児童生徒の割合 【R5実績/ R6目標/R8目標】13.7%/30%/30%
その他の事業
・カウンセリング講座、保護者教室、合同相談会の開催
・富士市若者相談窓口「ココ☆カラ」の運営
・困難を抱える若者やその家族を支援する人材「若者サポーター」の育成

¹⁶ 通級指導教室担当教員が、巡回指導をする学校。

¹⁷ 子ども一人一人のニーズを把握し、必要とする支援の内容と方法を明らかにするために、担任、特別支援教育コーディネーター、保護者など、子どもの支援を実施する者の相談を受けたり、助言したりする役割を担う。

〔施策の柱3〕 安全・安心で充実した教育環境の提供

現在、建築後30年が経過する学校施設の建物は全体の8割を占めるまでに至り、老朽化への対応が喫緊の課題となっています。

このような状況から、財政負担を平準化し、中長期的な維持管理費の削減を図るため、「富士市学校施設長寿命化計画¹⁸」に基づき、長寿命化改修を確実に進めているところであります。

本市の学校施設長寿命化の実施計画も策定後3年が経過していることから、次期計画のための見直しも行いながら、本年度も引き続き、校舎の屋上防水、外壁改修、トイレ改修、校舎内部改修及び屋内運動場のリニューアル改修などの長寿命化改修を進めていきます。

また、誰もが安全に安心して学校施設を利用できるように、段差解消のためのスロープ整備やバリアフリートイレの設置なども進めていくとともに、児童生徒の学習環境をより早期に改善するために、昨年度からの対象となる特別教室への空調整備について、3年間の整備計画を1年間前倒して、今年度中に整備を完了させます。

さらに、他の中学校と同様に武道に取り組める環境を確保するために、岳陽中学校において多目的室を備えた武道場整備に着手します。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】安全・安心な学校施設整備の充実 ・小中学校の対象となる特別教室への空調設備を設置する。 ・避難場所である学校の屋内運動場にバリアフリートイレの設置をする。 ・児童生徒用トイレの洋式化、乾式化、非接触型水栓の設置等の改修を行う。
【指標に関する取組】 <u>トイレの洋式化やバリアフリートイレの設置推進</u>
【指標】バリアフリートイレの設置率 【R5実績/ R6目標/R8目標】73.2%/80%/80%
【施策②】より良い教育環境の維持・整備 ・校舎や屋内運動場の屋上・屋根防水や外壁改修を行う。 ・教室の床・壁・天井などの内部改修を行う。 ・学校の適正規模・適正配置について検討を行う。
【指標に関する取組】 <u>学校施設ごとの長寿命化計画に基づいた施設の維持改修</u>
【指標】長寿命化計画の進捗率 【R5実績/ R6目標/R8目標】47.2%/67%/100%
その他の事業
☆武道に取り組める環境を確保するため、武道場建設工事の着工（岳陽中）
・遠距離通学をしている子どもたちへの通学支援（スクールタクシー等）の実施

¹⁸ 学校施設の長寿命化に必要な改修等の内容、時期、費用等を示し、長期的な財政負担の軽減・平準化を図り、施設整備を実施するための計画。

(2)方針2 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

〔施策の柱1〕 豊かな心の育成

子どもたちが、自分らしい考えや思いをもち、自信をもって課題解決に向かうことができるように、各学校では「みんなが学びの主人公」となる授業を目指し、日々、授業改善を進めています。また、「富士市子どもの権利条例¹⁹」に基づき、授業中はもちろん、学校生活全体を通して、一人ひとりの個性が尊重され、安心して自分の意見を自由に表明することができる環境づくりに努めることで、子どもたちの自己肯定感を高めていきます。

持続可能な社会の担い手を育成するため、民間企業の協力を得ながら総合的な学習の中でキャリア教育²⁰を推進する等、社会の仕組みや人とのかかわりについて体験的に学ぶ活動を行っています。

特別支援教育においては、障害の有無に関わらず共に学ぶインクルーシブ教育の充実を図るため、特別支援学校や特別支援学級と様々な形で交流を行います。色々な立場の人と触れ合う環境をつくり、子どもたちの相手を思いやる豊かな心を育てていきます。

GIGA スクール構想では、配備されたタブレット端末の効果的な活用を推進する中で、情報モラル教育の充実を図り、ネット上であっても他者の人権を尊重しようとする態度を育てていきます。また、全ての児童生徒に貸与されている端末を使って気軽に悩みを相談できる「ほっとデジタル相談・ふじ」を活用し、子どもたちの悩みや不安を幅広くキャッチし、関係機関が連携して対応していくことで、子どもたちが安心して学校生活が送れるようにしていきます。加えて、多様な価値観の存在を認め合う「考え、議論する道徳」の授業を推進していきます。

また、令和4年12月に改訂された「生徒指導提要」をもとに、いじめ²¹の未然防止に向けた学校体制の強化やいじめの定義の周知徹底など、いじめ問題への対応を充実させていきます。

教職員が子どもの行動の意味や心情を把握することにとどまらず、発達段階や生活環境、必要としている支援も理解し、その子のよさや可能性を引き出そうとする「子ども理解」を深め、学年・学級で「居場所づくり」「絆づくり」に努め、子ども一人一人に寄り添い、チームで対応することで、生徒指導上の諸問題を未然に防止します。また、問題が起こった際に、スクールソーシャルワーカー²²（以下SSW）及び生徒指導アドバイザー²³等を有効に活用し、不登校や問題行動等のケースに応じた組織的かつ迅速・丁寧な対応ができる体制を整えます。

¹⁹ 全ての子どもが命を守られ、自分らしく生き、成長し、及び発達していくことができるよう、子どもの権利を保障するとともに、子どもにやさしいまちづくりを推進するために、令和4年4月に富士市で施行された条例。

²⁰ 子供・若者が、社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育。

²¹ 当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。

²² いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待等生徒指導上の課題に対応するため、社会福祉の視点から問題を抱えた児童生徒本人に対する指導や、関係機関とのネットワークの構築、連携、調整等、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけながら支援をする職員。

²³ いじめ、不登校等の生徒指導上の諸問題に対し、学校がチーム体制で対応するための組織づくりのアドバイスをを行う職員。

各施策の重点事業（☆新規事業）	
【施策①】個性を尊重する人間関係づくり	
・教職員の「子ども理解」を進め、子どもの思いに寄り添い、それぞれの個性が尊重され、一人一人の居場所がある環境づくりを推進する。 ・生徒指導上の諸問題を解決するための体制の構築をより一層推進する。 ・「ほっとデジタル相談・ふじ」の活用等、学校と関係機関との連携の強化を図る。	
【指標に関する取組】 <u>学校訪問等を通じた、「子ども理解」の重要性に係る教職員への周知</u>	
【指標】 「自分には良いところがあると思う」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した子どもの割合	
小学校【R5実績/	R6目標/R8目標】82.2%/85%/90%
中学校【R5実績/	R6目標/R8目標】75.5%/80%/85%
【施策②】人権感覚の醸成と道徳的実践力の育成	
・「考え、議論する道徳」の授業の在り方について、研修を充実する。 ・情報モラル教育、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育成する人権教育の充実を図る。	
【指標に関する取組】 <u>教育活動全体を通じた計画的・組織的な人権教育と道徳教育の推進</u>	
【指標】 「人が困っているときは、進んで助けている」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した子どもの割合	
小学校【R5実績/	R6目標/R8目標】90.9%/92%/100%
中学校【R5実績/	R6目標/R8目標】84.9%/88%/100%



「考え、議論する道徳」の授業の在り方についての研修

〔施策の柱２〕 確かな学力の向上

小中学校では、社会に開かれた教育課程²⁴や確かな学力の育成、体験活動や ICT を活用した学習活動の充実等、学習指導要領に基づいた実践を進めます。

授業では、「単元」というまとまりの中で、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性」の育成を目指します。このために、教師は令和 6 年度の指導の重点（詳細は P 45～P 46）として掲げられている「『子どもと教材をつむぐ』単元を構想する」「『見取り』を生かし、仕掛ける」「『学びの実感』を次へつなぐ」ことを意識した授業づくりを推進します。特に、主体的に学びに向かう力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び²⁵」の視点に立ち、子どもが自ら問いを持ち、対話を通して課題を解決しながら、学ぶ意義や楽しさを実感できるようにします。そこで、新たに中学校 1 校を個別最適な学びについて研究を行う研究指定校に指定し、子どもがその子らしく学び進められる授業の在り方等について研究を進めていきます。

幼児教育から小中学校教育において、学びの連続性を意識した教育を推進するため、全中学校区において、各学校区の特色にあった小中一貫教育を推進するとともに、地域の小学校の校長と保育園、幼稚園、こども園の園長による定期的な懇談会の実施、研究指定校における園小連携に関する研究成果の共有などを通し、園小連携を推進していきます。

また、近年、特別な支援を必要とする子どもの割合が増加しており、特別支援教育に関する専門的知識や対応等の研修を推進する必要性が高まっています。そこで昨年度からの特別支援教育研究指定校における実践研究の成果を共有するとともに、新たに小学校 1 校を研究校に指定し、特性により集団での学習が困難な子どもであっても、その子にあったペースや環境で学習を進めながら、全ての子どもが学力を伸ばしていけるような研究を進めていきます。

これらの取組を通して、子どもが学びの主人公として、自ら問いを持ち主体的に課題の解決に向かう経験を積み重ねることによって、資質・能力が確実に身に付くよう努めます。

各施策の重点事業（☆新規事業）	
【施策①】 主体的に学びに向かう力の育成	
・ 子どもが自ら問いをつくり、自分らしさを発揮しながら課題を解決していく資質・能力を育む授業実践を行う。 ・ 主体的・対話的で深い学びのある、子どもの視点に立った授業づくりを行う。 ・ 知識・技能を活用し、一人一人が学びの実感を得られる授業づくりを行う。	
【指標に関する取組】	
<u>校内研修や学校訪問等による授業改善の推進</u>	
【指標】 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合	
小学校【R5 実績/	R6 目標/R8 目標 79.9%/85%/90%
中学校【R5 実績/	R6 目標/R8 目標 77.2%/85%/80%
【施策②】 習得、活用、探究による学びの深化	
☆令和 6 年度指定の学習指導研究校において、特別支援の子どもたちが適応しやすい学習指導（鷹岡小）や、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実（岳陽中）について研究を行う。 ☆令和 5 年度指定の園小連携研究校（富士川第一小）、特別支援教育研究校（吉原北中）	
・ ICT を効果的に活用するなど、学びの個別最適化を図り、習得・活用・探究という学びの過程の中で「深い学び」を実現する。	
【指標に関する取組】	
<u>習得・活用及び探究を意識した単元構想・授業づくりの推進</u>	
【指標】 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」に「よく行った」と回答した学校の割合	
小学校【R5 実績/	R6 目標/R8 目標 34.6%/40%/50%
中学校【R5 実績/	R6 目標/R8 目標 25.0%/45%/60%

²⁴ 学校が社会と連携・協働した教育活動を充実させるためのカリキュラムのこと。

²⁵ 学習指導要領において示された、授業において、子どもが学習内容を深く理解し、資質・能力を育成するために「どのように学ぶか」という具体的な学びの姿のこと。

〔施策の柱3〕 健やかな体づくり

子どもたちが、健康や食の大切さを認識し、生涯にわたり心身ともに健康な生活を送るために、「バランスのとれた食事」、「十分な休養と睡眠」、「適度な運動習慣」といった基本的な生活習慣の確立を図ることは極めて重要です。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により運動の機会が増加することが見込まれますが、インターネット、ゲームなどのICT機器の利用増加に伴い、家庭での運動の機会の減少による体力や視力の低下は、依然として課題となっています。課題を解決するために家庭・学校医などと連携し、小・中学校で継続的な指導ができるよう支援していきます。

食物アレルギーをはじめ、アレルギーを持つ子どもは年々増加しています。子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、養護教諭、栄養教諭等をはじめ学校が一体となって対応していく支援をするとともに、保護者と連携しながら子どもたちの発達段階に応じた自己管理能力の育成に努めていきます。

また、体育の授業の指導方法の改善、運動会等の体育的行事の充実、外遊びの奨励、施設や用具の整備等により、運動が好きな子どもの育成を目指し、体力・運動能力の向上を図ります。

近年、不審者の出没や交通事故等、子どもが関係する事件・事故が頻発しています。さらに、南海トラフ巨大地震や富士山噴火等、自然災害の発生も懸念されています。このような状況から、自らの命を守るための知識や判断力を身に付けさせることや、子どもたちの発達段階や地域の実態を踏まえた「自助・共助・公助」の意識を高め、安全について自ら考え、主体的に行動する力を養うなど、防災教育や安全教育の充実を図ります。

各施策の重点事業（☆新規事業）	
【施策①】生活習慣を整えられる子どもの育成	
・ 基本的な生活習慣や心身の健康の保持増進を目指す取組を推進する。 ・ 各種健康診断結果を活用して課題となる事項を見だし、より効果的な取組を行う。 ・ 学校保健委員会等を活用し、家庭や地域、学校医等の関係機関と連携した取組を推進する。 ・ 栄養バランスのとれた食事の大切さを子どもたちが認識できるよう、食に関する教育の充実を図る。 ・ 「学校生活アレルギーマニュアル」を活用し、アレルギー疾患の子どもへの対応を学校全体で行う。	
【指標に関する取組】	
健康指導の充実	
【指標】毎日、同じぐらいの時刻に寝ていると答えた子どもの割合	
小学校【R5実績/	R6目標/R8目標】80.4%/84%/85%
中学校【R5実績/	R6目標/R8目標】73.4%/78%/80%

【施策②】スポーツを楽しむ子どもの育成

- ・計画訪問等の指導において、ICTを活用する等、各校の体育（保健体育）の授業改善を促す。
- ・外部の専門的指導者を招聘し、体育（保健体育）の授業改善を促す。
- ・子どもたちが日常的に体を動かす楽しさを感じられるよう、休み時間等での運動を奨励する。
- ・新体力テストや全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を基に、本市の子どもたちの状況を分析し、各校の取組に生かす。
- ・「富士市安全指導指針」等に基づき、体育的行事や授業、プールの使用において安全に運動できる環境を整える。
- ・「富士市中学校部活動ガイドライン」を遵守した、各校における適切な部活動運営を推進する。
- ・中学校に部活動指導員を配置し、効果的な活用方法を研究し、指導員研修を行う。

【指標に関する取組】

体育の授業づくりの支援と運動環境の整備

【指標】「運動やスポーツをすることが好きだ」に「好き」「やや好き」と回答した子どもの割合

小学校【R5実績/ R6目標/R8目標】89.2%/95%/95%

中学校【R5実績/ R6目標/R8目標】80.4%/90%/95%

【施策③】自ら命と体を守るための安全教育の充実

- ・歩行者及び自転車の利用者として必要な知識と技能を習得し、道路や交通の状況に応じて、危険を予測、回避できる意識及び能力を高める。
- ・犯罪被害の原因や防止方法について理解し、直面する防犯上の課題に対して、適切な行動を選択できるようにする。
- ・自然災害の危険性を理解し、日頃から災害に対する備えや災害状況に応じた適切な判断について学習することにより、自らの安全を確保するための行動をできるようにする。
- ・周囲の人々と助け合うとともに、小学校高学年以上においては、ボランティア活動等に積極的に参加し、地域に貢献できる子どもの育成を図る。
- ・「危機管理マニュアル」の内容を教職員に周知徹底し、学校管理下における危機的状況に対し、早期に的確な対応ができる体制を整える。

【指標に関する取組】

子どもの発達段階を考慮した段階的な防災教育や安全教育の推進

【指標】「緊急時に自分の命を守るために適切な判断と行動をとることができる」と回答した児童生徒の割合

小学校【R5実績/ R6目標/R8目標】95%/100%/100%

中学校【R5実績/ R6目標/R8目標】89%/95%/100%



防災学習の様子

〔施策の柱4〕 頼もしい教職員の育成

令和5年、5月に新型コロナウイルス感染症が5類になり、各学校において、感染防止対策を講じつつもより充実した授業や学校行事を行えるようになりました。そのため、学校の対応がより注目され、信頼される学校づくりが必要となってきました。その中で、教科指導力、学級経営力及びICT 活用力を有する教職員、様々な変化に適切に対応した教育活動を行うことのできる教職員や、高いコンプライアンス意識と確かな人権感覚を持った教職員など、学びを支え、人として魅力ある教職員の育成が求められています。また、令和6年度の小中一貫教育全校スタートに際して、新しい学校の在り方を模索し学校組織を牽引する教職員、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する教職員の育成も求められています。

そのため、指導主事による計画訪問や要請訪問をより一層充実させるとともに、大学や関係教育機関と連携して校内研修への支援を進め、教職員の資質能力の発揮・向上を目指します。さらに、令和4年4月に施行された「富士市子どもの権利条例」に基づき、人権を尊重した教育環境づくりの研修を推進します。

また、GIGA スクール構想により子どもたちに配備されているタブレット端末を効果的に活用し、教員の ICT を活用した授業力向上研修を充実させていくことで、個別最適化な学びの実現を目指します。

さらに、「富士市小中学校における業務改革プラン²⁶」「富士市立学校教育職員の勤務時間の上限に関する方針」を踏まえた働き方改革の一層の推進や、学校給食費の公会計化に伴う学校徴収金の一括徴収や共同学校事務室²⁷による事務の効率化を進め、教職員が子どもと向き合い、真に寄り添った支援をするための時間を確保し、相互の信頼関係を深められるように努めます。加えて、勤怠管理システムにより教職員の勤務状況を把握し、ワークライフバランスを推進するとともに、教職員のストレスチェックを活用し、メンタルヘルスケアの推進に努めます。

各施策の重点事業（☆新規事業）	
【施策①】教職員の資質・能力の向上	
・コンプライアンスの徹底のため、静岡県教育委員会の冊子「信頼にこたえる」やコンプライアンス通信、交通 KYT 等を活用した不祥事根絶研修を推進する。また、体罰・暴言・セクハラ等、ハラスメントに関するアンケート等を通して教職員一人一人が指導のあり方を振り返る場を設ける。 ・ストレスチェックを活用し、教職員のメンタルヘルスケアを推進する。 ・富士市子どもの権利条例に基づく、人権を尊重した教育環境づくりを推進する。	
【指標に関する取組】	
「教科等研修」「危機管理研修」「メンタルヘルス研修」等の研修の充実	
【指標】「安心して子どもを任せられる学校である」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合	
【R5 実績/ R6 目標/R8 目標】	96%/100%/100%

²⁶ 教職員個々の主体的な取組と学校における組織的改善を推進するための計画。教育の質の向上と教職員の心身の健康の保持増進を目的とし、学校における業務改善を目指す。

²⁷ 各校共通の事務を集中処理する共同体制。学校事務職員は通常1人の配置であるが、複数人で複数校の事務を行う共同体制を導入することにより、各校で教員、学校事務職員が担っている役割を見直し、教職員の負担を軽減する。また、教職員の役割の処理の効率化を図り、教職員の多忙化解消を推進する。

【施策②】 学び続ける機会の充実	
・新たな時代に対応する教員像を示し、児童生徒個々の特性に合わせた生徒指導力や授業力、情報活用能力の育成、及び特別支援教育への理解に関する研修機会を充実させる。 ・静岡県教員育成指標²⁸に即し、キャリアステージに応じた年代別研修を系統的に実施し、授業力や生徒指導力の資質向上、及び特別支援教育への理解を図る。 ・授業づくり、子ども理解と生徒指導、特別支援教育、情報教育、園小接続及び防災教育等、教職員のニーズに応じた「アフター5講座」の充実を図り、教職員の主体的な学びを支援する。	
【指標に関する取組】 「3年目研修」や「ミドルリーダー研修」、「マイスター研修」等の年代別研修、「情報教育講座」や「アフター5講座」の充実	
【指標】「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか」に「よくしている」と回答した学校の割合	
小学校【R5実績/	R6目標/R8目標】61.5%/70%/100%
中学校【R5実績/	R6目標/R8目標】81.3%/85%/100%
【施策③】 効果的な教育活動のための働き方改革の推進	
・学校給食費の公会計化や学校徴収金の一括徴収制度により、教職員の子ども支援時間の確保を図るなど、子どもの心にきめ細かに寄り添う教育を推進する。 ・働き方改革に係る取組や時間外業務等時間の公表、提出文書の精選及び提出方法の変更、紙媒体で行ってきた調査の電子媒体への変更、各種様式の見直し等により、教職員が子どもに向き合い、支援をする時間を確保する。 ・吉原小学校と富士中学校に設置した共同学校事務室の充実を図る。6年目を迎え、より一層、教職員の業務改善に取り組む。 ・勤怠管理システムにより教職員の時間外業務等時間を客観的に計測し、学校における働き方改革を推進する。	
【指標に関する取組】 業務改善プランの徹底	
【指標】「業務改善が進められているか」に「充分進んでいる」と回答した学校の割合	
【R5実績/ R6目標/R8目標】72%/80%/95%	



キャリアステージに応じた年代別研修



アフター5講座の様子

²⁸ 教員の大量退職や年齢の不均衡等の学校を取り巻く諸課題の会解決を図る方策として、平成28年11月に「教育公務員特例法の一部改正」がなされ、法的に「教員育成協議会の創設」「教員育成指標の整備」「教員研修計画の策定」が義務付けられた。これを受け、静岡県では、平成29年に「静岡県教員育成指標」及び「静岡県校長育成指標」が策定された。

〔施策の柱5〕 未来を切り拓く生徒を育成する市立高校

市立高校は、スクールミッションとしてCDI（「Community（コミュニティ・ハイスクール）：地域との協働、Dream（ドリカム・ハイスクール）：夢の実現、Inquiry（探究・ハイスクール）：探究の精神」）を掲げ、自然と地域を愛し、本市や社会に貢献できる人材の輩出を目指していきます。

令和4年度からの新学習指導要領では、「探究」を冠した科目が設定され、どの高校でも探究学習が行われるようになりました。こうした時代においても、市立高校が探究の先進校であり続けるために、探究学習の質の向上を目指して、知識及び技能との相乗的な学びや最新のAI活用教材の導入、ICTを活用したより発展的で専門性を持った探究学習に取り組めます。さらには、生徒が「課題や問いの立て方」や「分析の仕方」といった自ら探究を進めるスキルを身に付けられるような指導を行っていきます。また、探究学習によって生徒にどのような変容があったのか、卒業までに生徒にどのような力がどの程度身に付いたのかを可視化し、評価する取組を実施します。

生徒の夢実現への支援については、社会構造と子どもたちを取り巻く環境の変化を背景に、ウェルビーイングの視点（生徒一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ）を意識し、生徒が富士市で人生をよりよく生きるためにどうするかという点からキャリア教育や探究学習に取り組んでいます。

地域と連携した学校づくりにおいては、富士市設置の高校として、市立高校は市民に愛され市民に応援される学校でなければなりません。そのためには、地域と連携した教育活動や保護者や地域住民の声を反映した学校づくりに努めます。

また、教育におけるICTの活用については、全生徒に対してタブレット端末を貸与し、授業や家庭学習においてタブレット端末を積極的に活用し、最新のAI活用教材の導入や、オンラインを利用した海外の学生との交流、国内外をつないだ授業等、ICTを学習ツールとして積極的に活用した教育活動を推進します。

併せて、AIを取り入れたテスト自動採点支援システムを導入し、教員の多忙化解消及びテスト結果の有効活用を図ります。

学校広報活動においては、探究学習の内容を伝える中学生向け広報紙の発行や、学校ウェブサイトへの更新、報道提供等に加えて、You Tubeでの動画配信やSNSの活用により、中学校や地域に向けて本校の魅力を積極的に発信し、本校への進学を志望する中学生が増えるよう努めます。

なお、2年生で実施する海外探究研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度から5年度まで中止又は国内を研修地とした代替研修への変更をしてきましたが、アジア圏を研修地として再開をします。学科ごとに作り込まれた研修プログラムの中で、外国語でのコミュニケーションを通じた異文化の体験及び交流を計画しています。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】探究する精神と姿勢を育む教育活動の推進 - 全ての生徒が3年間を通して、探究的な力やチームで協働する姿勢を身に付ける課題解決型学習「究タイム」を学ぶ。 - 各学科や教科の学習の中に、探究を意識した主体的・対話的で深い学びを実践する。 1人1台端末を使用して、オンラインやICTを効果的に活用した授業を進める。 - 最新のAI活用教材を導入・活用し、社会課題解決に取り組む。 - アジア地域を研修地として海外探究研修を再開する。
【指標に関する取組】 <u>「究タイム」及び探究を取り入れた授業の実践</u> 【指標】「探究学習で学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う」と答えた生徒の割合 【R5実績/ R6目標/R8目標】95.2%/95%/95%
【施策②】生徒の夢実現への支援と充実 - ウェルビーイングの視点を意識し、広く世界を舞台に活躍されている方を講師に招きキャリア講演会を実施する。 1年次の職業人講話、2年次の大学・学部研究、3年次の進路個別指導など学年に応じたキャリア教育を行う。 - 全学科における英語資格・検定試験やビジネス探究科における全商検定など資格取得を支援する。 - 部活動の推進体制と施設・設備を整備する。 ☆教員の多忙化解消及びテスト結果の有効活用のため、テスト自動採点支援システムを導入する。
【指標に関する取組】 <u>多様な進路希望に対応した細やかな進路支援</u> 【指標】自分の思い描いていた進路を実現できたと回答した生徒の割合 【R5実績/ R6目標/R8目標】96.4%/95%/95%
【施策③】地域ネットワークを活用した教育活動及び学校運営の推進 2年生が地域の魅力と課題を見付け出し、地域の方と高校生ができることを企画・提案する「市役所プラン」を行う。 - ビジネス探究科において、地元の農産品などを利用した商品開発や高校生の視点ならではの新しいビジネスの提案など市内事業所と連携した学習活動を行う。 - 保護者や地域住民の声を反映した学校づくりをするために、学校運営協議会を開催する。 「人工芝で遊ぼう」や「多世代交流サッカー」など学校施設を活用した地域交流事業を行う。 - 聴覚に障害のある子どもたちがスポーツに親しむ機会を提供するために、Def キッズサッカー教室を支援する。
【指標に関する取組】 <u>地域社会や大学、行政、企業等と連携した教育活動の推進</u> 【指標】地域社会や大学、行政、企業等と連携して実施した授業や学校行事数 【R5実績/ R6目標/R8目標】25件/25件/30件
その他の事業
- 教職員の資質・能力の向上を目的とした授業力向上研修の受講や先進校の視察 - ESCO事業²⁹による空調機及び照明等の更新事業

²⁹ 公共施設の改修に当たり設備改修と維持管理を伴う省エネルギーサービスを専門事業者へ委託し、その委託費を省エネルギーによる光熱水費の削減分で賄うことを基本とする事業のこと。

(3)方針3 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

〔施策の柱1〕 人生100年時代を豊かに生きる学びの推進

本年度も、人生100年時代を豊かに過ごすために、生涯を通した学びの場、市民が主体的に行動する学びの場を整備していきます。

近年、少子高齢化や人口減少等により社会の構造変化が起きる中、地域社会の課題も多様化していることから、市民が地域に関心を持つきっかけとなる機会の創出を目指して、地域に関する学習や地域の人材を活用した講座を行っていきます。

そのほか、青少年の体験活動の機会が、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により次第に以前のような状態に戻りつつあるため、これまで以上に体験事業等を企画・実施するとともに、青少年育成団体の活動を支援することで、体験や交流の場を確保していきます。

生涯を通した学びの場の充実を実現する取組として、趣味を通じた新しい仲間との出会いや、教養を深める場所を提供することなどを目的に、様々な実施主体による多様な分野のまちづくりセンター講座を実施するとともに、豊かな人づくりを目指し、より高度で専門的な知識を学ぶ機会を提供するため、富士市民大学を開催します。

また、家庭教育力の向上を目指し、家庭教育支援員等の地域人材のネットワーク化を進める取組を継続するとともに、放課後における子どもの居場所づくりと体験学習の機会提供等を目的に「放課後子ども教室×少年教育講座³⁰」を実施します。

「放課後子ども教室×少年教育講座」は、小学生児童を対象に、各地区まちづくりセンター等を主会場にして、放課後の安全な居場所づくりを行うとともに、多様な体験活動を実施します。学校や地域等と連携しつつ、「STEAM教育³¹」などの時代のニーズに合った講座内容を一部に盛り込み、子どもたちが安心して楽しく学ぶことができる場の提供を行います。

また、地域全体で子どもを育む環境づくりを進めるため、学校と地域の連携・協働に向けた取組を支援するとともに、地域学校協働活動³²の在り方について検討を進めてまいります。

青少年体験交流事業については、引き続き「無限∞のキズナ」を、長野県伊那市を中心に実施してまいります。

「無限∞のキズナ」では、「キズナ学習」、「地域交流プログラム」、「体験プログラム」を関連付けて実施し、次世代リーダーの育成を図っていきます。「キズナ学習」は本事業の核となるプログラムであり、受講生たちは「最高のチームを作ろう」を目標に班の仲間同士で様々な題材やグループ学習を通じて意見をぶつけ合い、チームとしての結論を導き出します。「地域交流プログラム」では、地域の方との交流を通し、地元への愛着と地域を盛り上げようとする熱い想いに触れます。「体験プログラム」ではカヌー体験やハイキングなどの自然体験活動を通して自然の雄大さに触れつつ、チームの一員としての自分の考え方や行動について学びます。

本事業に参加することで、交友関係の輪を広げる、地域の大人と交流を広げ、コミュニケーション力・課題解決能力を身につけるとともに、自己肯定感を高めることで前向きに生きる青少年を育成することを目指していきます。

そのほか、20歳を迎える市民を対象に、「富士市はたちの記念式典」を人生の節目を祝う機会として引き続き実施し、18歳の新成人に対しては、祝意メッセージとともに富士のほうじ茶一煎パックを送り、成人の門出を祝います。

³⁰ 放課後の子どもの居場所づくりと体験学習を目的として、小学生を対象にまちづくりセンター等を会場に実施する講座

³¹ 科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、芸術・リベラルアーツ (Arts)、数学 (Mathematics) の5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念

³² 地域住民、学生、保護者、NPO、民間企業、団体、機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動

また、青少年の健全育成に向け、非行防止のための補導活動を行うなど、青少年を取り巻く環境をよりよいものにしていきます。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】生涯を通した学びの場の充実 - 各地区まちづくりセンターを会場に、新しい趣味の発見や仲間づくり、教養を深める身近な場を提供することを目的として、乳幼児から高齢者まで幅広い世代の方々を対象に多様な分野の講座を開催する。 - 自ら学んだことを還元する意欲のある市民を応援し、民間団体の活性化を図るとともに、市民のニーズに応える魅力的な講座を提供するため、市民や民間団体が主体となって開催する「市民プロデュース講座³³」や「オープン自主グループ講座³⁴」、「みんカル講座³⁵」を実施する。 - 豊かな人づくりを目指し、より高度で専門的な知識を学ぶため、各専門分野に精通している教授や著名な講師等を招き、富士市民大学³⁶を開催する。
【指標に関する取組】 新しい趣味や仲間づくりを目的としたまちづくりセンター講座の実施 【指標】講座を受けたことによって、学ぶ意欲が高まったと回答した参加者の割合 【R5実績/ R6目標/R8目標】 93.8%/100%/100%
【施策②】地域ぐるみの社会教育の推進 - まちづくりセンター講座等において、地域の資源や魅力を知る学習や地域の人材を活用した学習、地域活性化に資する学習等を目的とした「人づくり講座」を継続して実施する。 ☆地域の未来を担う人材育成のため、小学生等を対象に少年教育講座を継続するとともに、放課後における子どもの居場所づくりと体験学習の機会提供等を目的に「放課後子ども教室×少年教育講座」を実施する。 - 家庭の教育力向上を目指し、家庭教育支援員³⁷など、地域で活躍する人材のネットワーク化を進めるため、家庭教育支援員等への学習機会の提供や交流の場づくりを継続して行う。 - 小中学校入学前の保護者を対象とした子育て講演会を継続して実施するとともに、未就園児とその保護者を対象とした家庭教育講座を実施する。 - 地域全体で子どもを育む環境づくりを進めるため、学校と地域の連携・協働に向けた取組を支援するとともに、地域学校協働活動の在り方についての検討を行う。
【指標に関する取組】 人づくり講座の実施 【指標】講座を受けたことによって、富士市・地域の魅力や課題を知ることができたと回答した参加者の割合 【R5実績/ R6目標/R8目標】 90.8%/100%/100%

³³ 市内で活動している団体や市民が企画・運営する講座。市民主体の地域づくりや地域の担い手づくりを推進することを目指している。

³⁴ 同じ趣味や興味・関心を持つ仲間が集まり、まちづくりセンターで活動している自主グループが開催する初心者向け体験講座。

³⁵ 趣味教養・仲間づくりを目的とする講座のうち、市内で活動している民間団体が企画・運営する講座。民間団体が得意とする分野の講座を、まちづくりセンターで展開し、地域に根付いた魅力的な講座を目指す。

³⁶ 前期ミニカレッジは各専門分野の教授や有識者等と連携して開催、後期講演会は各分野で活躍する著名な講師による講演会を開催している。

³⁷ 静岡県家庭教育支援員養成研修で、家庭教育支援の知識とスキルを学んだ人。行政や学校と協力して、保護者会、懇談会、家庭教育講座等の保護者が集まる場で、子育てについての悩みや不安を話し合う会等の進行や、情報提供を行うなど、保護者の学びの支援を行う。

【施策③】新たな時代を生き抜く次世代の育成	
・青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」を、長野県伊那市などを舞台に実施し、次世代リーダーの育成等を行う。 ・岩手県雫石町との少年交流事業を雫石町で実施し、地元の特色を学習しながら相互交流と集団生活を通じて、他人への思いやりの心を養う。 ・青年の主体的な社会参加を促すため、青年教養講座を実施するとともに、受講生同士の交流の場を企画し、仲間づくりと社会貢献活動に参加するきっかけを提供する。 ・青少年の非行防止のため、声掛けをはじめとする補導活動や環境浄化活動を推進する。	
【指標に関する取組】	
<u>青少年体験交流事業の実施</u>	
【指標】 青少年体験交流事業参加者の満足度	
【R5 実績/ R6 目標/ R8 目標】 94.8%/100%/100%	
その他の事業	
・ 市政いきいき講座	
・ 青少年育成団体への活動支援	
・ 「富士市はたちの記念式典」の実施	



青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」

〔施策の柱2〕 市民の学びの場である図書館の充実

図書館は図書やその他の資料を収集、整理、保存して利用者に提供することを基本的な目的としてきましたが、近年多様化する市民の要望に応えるため、図書館サービスのさらなる充実が求められています。

富士市立図書館ではそれらの要望を受け、様々なサービスを提供してきました。令和6年度は少子化対策と併せた子どもの読書活動推進のための新たな事業をはじめ、10月に予定している図書館資料管理システム³⁸の更新により、図書館利用者の利便性の向上させ、より一層の充実を図ります。

乳幼児とその保護者の利用を促進するため、中央図書館で託児サービスを開始します。また、出産を待つ保護者に読み聞かせを紹介する講座を開催します。引き続き「第三次富士市子ども読書活動推進計画³⁹」に基づいた読書環境の整備、読書機会の提供、読書活動の啓発・普及に取り組みます。

あらゆる年代の利用者の生涯学習を支援するため、幅広い分野で資料を収集するとともに、講座や講演会などで学習の機会を提供し、レファレンスサービス⁴⁰で課題解決のサポートに努めます。

本と人、地域をつなぐ人材を育成するため、様々なボランティア講座を開催し、活動の場と発表の機会を提供します。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】生涯にわたる読書習慣の推進 ☆「プレママ・プレパパ読み聞かせ講座」を開催し、出産を待つ保護者に読み聞かせについて紹介し、乳幼児からの読書活動を支援する。 ☆毎週水曜日中央図書館において利用者託児サービスを開始し、乳幼児のいる家庭の図書館利用の促進を図る。 ・図書館の蔵書構成や社会的な要請を考慮しながら資料を選書、収集し、利用者の生涯学習のため提供する。 ・図書館への来館が困難な利用者のため、移動図書館での巡回や各施設へ配本サービスを行い、また電子図書館サービスでは GIGA タブレット用の ID の配布を継続するとともに、これらの事業の一層の周知を図る。
【指標に関する取組】 市民の読書活動の推進 【指標】一人当たりの図書貸出数 【R5実績/ R6目標/ R8目標】6.9点/7.2点/8.2点

³⁸ 図書館の運営を効率化し、利用者サービスを向上させるためのコンピュータシステム。主に閲覧管理や資料管理、といった機能がある。

³⁹ 子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものという考えから、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、そのための環境整備を推進するための計画。

⁴⁰ 図書館の資料を使って調べ学習や調べ物をする利用者に対し、図書館職員がサポートをするサービスのこと。

【施策②】本・人・地域をつなぐ人材育成
・資料や情報、活動場所の提供により、読書関係団体を支援する。 ・ボランティアのための講座を開催し、ボランティアの技術向上や人材の育成を図るとともに、その活動について周知を図り、ボランティアへの参加を促す。
【指標に関する取組】 ボランティア養成講座の開催
【指標】ボランティア養成講座の参加者数（累計） 【R5実績/ R6目標/ R8目標】741人/1090人/1500人
・ウェブサイトや各種SNS、市広報、報道機関を活用した図書館の情報（資料案内、イベント案内、活動紹介等）の発信
・文学講演会、ビジネス支援講演会、各種講座、おはなし会、ビブリオバトル等の読書活動推進イベントの開催
・「ブックスタートふじ」、「セカンドブックふじ」事業の実施
・「富士市図書館協議会」「富士市子ども読書活動推進協議会」の開催
☆図書館資料管理システムの更新とそれに伴う新サービスの開始



ビブリオバトル



読み聞かせ勉強会

〔施策の柱3〕 ころ豊かな市民文化の創造

文化財については、将来にわたり地域社会全体で文化財を適切に保存し、活用していくため、「富士市文化財保存活用地域計画⁴¹」を基本として周知・啓発を図り、その理念を地域住民と共有し、文化財に対する意識の醸成を図っていきます。

また、史跡保存整備推進委員会を開催し、学識者・市民の意見を伺いながら国指定史跡「浅間古墳」の保存活用計画の策定を進めていくとともに、浅間古墳に関連した文化財シンポジウムの開催や須津古墳群出土遺物等の出張展示を行います。なお、市指定史跡「千人塚古墳」については、保存整備工事と石室内発掘調査を行っていきます。国登録有形文化財「旧順天堂田中歯科医院」については、広見公園への移築復原に向けた実施設計を行います。

その他、市指定天然記念物等の生育状況の確認と今後の維持管理方法検討の基礎資料として、樹勢調査を実施します。さらに国重要文化財「古谿荘」については、引き続き国・県とともに建物修理に係る助成を行います。

博物館業務については、本市及び本市近隣市町の歴史・文化に係る調査研究を行い、企画展や展示会、体験講座等を開催するほか、小中学校等への見学対応や資料の貸出、まちづくりセンターや地域包括支援センター等への出前講座を開催します。

また、本市の歴史と文化を楽しみながら学び、若い世代の出会いの場を創出するため、竪穴式復元住居の茅葺き屋根修繕共同作業を行います。



市民歴史講座



茅葺き屋根の葺き替え見学会

⁴¹ 市町村において取り組んでいく目標や取組の具体的な内容を記載した、当該市町村における文化財の保存・活用に関するマスタープランであり、アクション・プランである。文化財の保存・活用に関して当該市町村が目指す将来的なビジョンや具体的な事業等の実施計画を定め、これに従って計画的に取組を進めることで、継続性・一貫性のある文化財の保存・活用が一層促進されることから、計画を広く周知し、地域住民の理解・協力を得ることにより、地域社会総がかりによる、より充実した文化財の保存・活用を図ることが可能となる。

各施策の重点事業（☆新規事業）
【施策①】芸術文化の振興 （市民部文化スポーツ課による執行事業。）
【施策②】文化財の保存と活用 ☆市指定史跡「千人塚古墳」整備工事及び石室内発掘調査を行う。 ☆国指定史跡「浅間古墳」に関連した文化財シンポジウムの開催と須津古墳群出土遺物等の出張展示を行う。 ☆国登録有形文化財「旧順天堂田中歯科医院」移築復原事業の実施設計を行う。 ☆天然記念物等の維持管理用の基礎データをまとめるための樹勢調査を行う。 ・富士市文化財保存活用地域計画における個別施策の実施及び周知・啓発を行う。 ・国指定史跡「浅間古墳」の保存活用計画を策定する。 ・国重要文化財「古谿荘」修復に係る助成等を行う。 ・市民歴史講座等、歴史・文化に関する普及啓発を行う。
【指標に関する取組】 <u>文化財に関する講座、イベント等による文化財の保存・活用の促進</u> 【指標】文化財普及活動に参加した人数 【R5実績/ R6目標/R8目標】 183人/480人/700人
【施策③】学びの場である博物館の充実 ☆第61回企画展「将軍綱吉の時代と富士」を開催する。 ☆竪穴式復元住居の茅葺き屋根修繕共同作業を開催する。 ☆ふるさと村歴史ゾーンにおける樹木の剪定を適切に行う（本館前、杉浦医院周辺）。 ・文化財建造物等の保守管理を行う。 ・各種体験講座及び出前講座を開催する。 ・ウェブサイトの充実・博物館収蔵品データベースの整備を行う。
【指標に関する取組】 <u>小中学校や高齢者団体による博物館資料を活用した学習支援事業の利用促進</u> 【指標】博物館資料を活用した学習支援の件数 【R5実績/ R6目標/R8目標】 60件/70件/165件
その他の事業
・博物館収蔵資料の調査整理作業（六所家旧蔵資料、山崎家文書ほか）
・富士山及び富士山南麓かぐや姫伝説に係る資料の調査収集

Ⅱ 教育委員会と事務局概要

1 教育長・教育委員



教 育 長
森 田 嘉 幸



教育長職務代理者
和 久 田 恵 子



委 員
松 田 靖 子



委 員
塩 谷 知 一



委 員
保 科 悦 久

職	氏 名	就任年月日
教 育 長	森 田 嘉 幸	平成 30 年 12 月 24 日
教育長職務代理者	和久田 恵子	平成 26 年 12 月 25 日
委 員	松 田 靖 子	平成 30 年 12 月 25 日
委 員	塩 谷 知 一	令和 元年 10 月 4 日
委 員	保 科 悦 久	令和 5 年 12 月 25 日

(任期 教育長 3 年 教育委員 4 年)

2 歴代教育委員等

歴代教育委員

氏 名	就任年月日	退任年月日
渡辺 巖	S41. 11. 1	S46. 2. 23
米山 益郎	S41. 11. 1	S45. 12. 20
吉田 甫	S41. 11. 1	S47. 12. 23
山崎 隆	S41. 11. 1	S41. 12. 20
山本 英彦	S41. 11. 1	S41. 12. 20
遠藤 栄	S41. 12. 21	S45. 12. 20
石川 軍治	S41. 12. 21	S44. 12. 20
杉浦 秀俊	S45. 12. 25	S49. 12. 24
篠原 博	S45. 10. 6	S57. 10. 6
伊藤 周三	S45. 12. 25	S49. 12. 24
時田 忠蔵	S46. 6. 23	S54. 3. 31
鈴木 孝	S47. 12. 25	S49. 10. 3
土屋 重義	S49. 12. 25	S53. 12. 24
望月きくゑ	S49. 12. 25	S53. 12. 24
青木 武雄	S49. 12. 25	S55. 12. 24
川村 雅俊	S53. 12. 25	H 2. 12. 24
山崎 光男	S53. 12. 25	S61. 12. 24
小川 清	S54. 4. 1	S62. 12. 23
河野 勝義	S57. 12. 25	H 2. 12. 24
瀧 榮三郎	S55. 12. 25	H 4. 12. 24
里和 治	S61. 12. 25	H10. 12. 24
山本 厚	S62. 12. 24	H 7. 12. 23
河野 光男	H 2. 12. 25	H14. 12. 24
田邊 恵造	H 2. 12. 25	H14. 12. 24
伊藤 匡穎	H 4. 12. 25	H20. 12. 24
太田 均	H 7. 12. 24	H14. 3. 31
在原 渥子	H10. 12. 25	H14. 12. 24
平岡 彦三	H14. 4. 1	H23. 12. 23
長岡 路子	H14. 12. 25	H26. 12. 24
土屋 厚子	H14. 12. 25	H19. 12. 19
佐野 武男	H14. 12. 25	H26. 12. 24
吉川 智子	H19. 12. 20	H30. 12. 24
加藤 馨一	H20. 12. 25	H28. 12. 24
山田 幸男	H23. 12. 24	H30. 12. 23
毛涯 晋	H26. 12. 25	R 1. 7. 11

氏 名	就任年月日	退任年月日
篠原 均	H28. 12. 25	R 5. 12. 24
和久田 恵子	H26. 12. 25	(R 7. 12. 24)
松田 靖子	H30. 12. 25	(R 8. 12. 24)
塩谷 知一	R 1. 10. 4	(R 9. 12. 24)
保科 悦久	R 5. 12. 25	(R 6. 12. 24)

歴代教育長

氏 名	就任年月日	退任年月日
渡辺 巖	S41. 11. 1	S46. 2. 23
時田 忠蔵	S46. 6. 23	S54. 3. 31
小川 清	S54. 4. 2	S62. 12. 23
山本 厚	S62. 12. 24	H 7. 12. 23
太田 均	H 7. 12. 24	H14. 3. 31
平岡 彦三	H14. 4. 1	H23. 12. 23
山田 幸男	H23. 12. 24	H30. 12. 23
森田 嘉幸	H30. 12. 24	(R 6. 12. 23)

歴代教育委員長

氏 名	就任年月日	退任年月日
篠原 博	S48. 1. 12	S57. 10. 6
山崎 光男	S58. 1. 25	S61. 1. 24
川村 雅俊	S61. 1. 25	S61. 12. 24
川村 雅俊	S62. 1. 8	S62. 12. 24
瀧 榮三郎	S62. 12. 25	H 1. 12. 24
川村 雅俊	H 1. 12. 25	H 2. 12. 24
瀧 榮三郎	H 2. 12. 25	H 4. 12. 24
里和 治	H 4. 12. 25	H 6. 12. 24
田邊 恵造	H 6. 12. 25	H 8. 12. 24
河野 光男	H 8. 12. 25	H10. 12. 24
伊藤 匡穎	H10. 12. 25	H12. 12. 24
田邊 恵造	H12. 12. 25	H14. 12. 24
伊藤 匡穎	H14. 12. 25	H18. 12. 24
長岡 路子	H18. 12. 25	H20. 12. 24
佐野 武男	H20. 12. 25	H26. 12. 24
吉川 智子	H26. 12. 25	H27. 12. 23

() 内は現任期における退任年月日

3 令和5年度教育委員会会議及び教育委員研修実績

(1) 教育委員会会議議案

実施日等	会 議 内 容
4月21日 (金) 市庁舎5階 第二会議室 傍聴者なし	(議 案) 議第15号 令和5年度教育行政の方針と施策について 議第16号 富士市文化財保護審議会委員の委嘱について (報 告) 報第4号 令和4年度富士市教育長表彰受賞者の追加決定について
5月22日 (月) 市庁舎6階 第一、二会議室 傍聴者なし	(議 案) 議第17号 令和5年度教育委員会所管6月補正予算について 議第18号 富士市立社会教育委員補欠委員の委嘱について 議第19号 富士市図書館協議会委員の委嘱又は任命について 議第20号 富士市立高等学校学校運営協議会委員の委嘱又は任命について 議第21号 富士市青少年相談センター運営協議会委員の委嘱又は任命について 議第22号 富士市立博物館協議会委員の委嘱又は任命について (報 告) 報第5号 令和4年度教育施策の自己点検・評価について
6月20日 (火) 東小学校1階 音楽室 傍聴者7人	(議 案) 議第23号 富士市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について 議第24号 富士市文化財保存活用地域計画推進協議会委員の委嘱について 議第25号 富士市史跡保存整備推進委員会委員の委嘱又は任命について 議第26号 富士市子ども読書活動推進協議会委員の委嘱又は任命について 議第27号 富士市教育文化スポーツ奨励賞選考委員会委員の委嘱又は任命について (報 告) 報第6号 富士市公立学校教職員の表彰について
7月21日 (金) 市立中央図書館2階 視聴覚室 傍聴者7人	(議 案) 議第28号 富士市立富士見台小学校学校運営協議会委員の補欠委員の委嘱について 議第29号 富士市立吉原北中学校学校評議員の追加委嘱について 議第30号 富士市立小学校教科用図書の採択について 議第31号 富士市立高等学校教科用図書の採択について
8月22日 (火) 市立中央図書館2階 視聴覚室 傍聴者1人	(議 案) 議第32号 令和5年度教育委員会所管9月補正予算について 議第33号 令和4年度富士市教育委員会の自己点検・評価について 議第34号 富士市立岩松北小学校学校運営協議会委員の補欠委員の委嘱について 議第35号 富士市教育文化スポーツ奨励賞受賞者の決定について
9月20日 (水) 市立中央図書館2階 視聴覚室 傍聴者なし	(議 案) 議第36号 令和6年度富士市立高等学校入学者選抜実施要領の制定について
10月23日 (月) 市消防防災庁舎3階 研修室 傍聴者1人	(議 案) 議第37号 令和5年度教育委員会所管11月補正予算について 議第38号 富士市立学校施設等使用料徴収条例の一部改正について 議第39号 富士市教育委員会委員の辞職の同意について

実施日等	会 議 内 容
11 月 21 日 (火) 富士特別支援学校 富士東分校 集会室 傍聴者 2 人	(報 告) 報第 7 号 令和 5 年度富士市教育長表彰受賞者の決定及び令和 4 年度富士市教育長表彰受賞者の追加決定について 報第 8 号 令和 6 年度富士市立高等学校入学者選抜募集定員について
12 月 20 日 (水) 市消防防災庁舎 3 階 研修室 傍聴者 1 人	(議 案) 議第 40 号 令和 6 年度教育委員会所管当初予算について 議第 41 号 令和 6 年度県費負担教職員の人事異動方針について (報 告) 報第 9 号 令和 6 年富士市はたちの記念式典等の実施について 報第 10 号 富士市教育委員会委員の就任について
1 月 23 日 (火) 富士南中学校 4 階 図書室 傍聴者 1 人	(議 案) 議第 1 号 令和 5 年度教育委員会所管 2 月補正予算について 議第 2 号 富士市立附属機関設置条例の一部改正について 議第 3 号 富士市社会教育委員設置条例の一部改正について 議第 4 号 無料公共施設における受益者負担の方針について (報 告) 報第 1 号 令和 6 年富士市はたちの記念式典について
2 月 20 日 (火) 市教育プラザ 1 階 会議室 1 ～ 3 傍聴者なし	(議 案) 議第 5 号 教育委員会の権限に属する事務の一部を教育長に委任する規則の一部改正について 議第 6 号 令和 6 年度県費負担教職員の人事異動の内申について (報 告) 報第 2 号 令和 6 年度教育委員会所管当初予算額の内示について 報第 3 号 令和 5 年度富士市教育長表彰受賞者の追加決定について 報第 4 号 富士市立図書館における開館時間及び休館日の変更について
3 月 25 日 (月) 市庁舎 9 階 第 2 委員会室 傍聴者 2 人	(議 案) 議第 7 号 富士市教育委員会事務局処務規則等の一部改正について 議第 8 号 富士市立小・中学校管理規則の一部改正について 議第 9 号 富士市学校運営協議会規則の一部改正について 議第 10 号 富士市ことばの支援委員会規程の制定について 議第 11 号 富士市立小中学校の通学区域を定める事務取扱要領の一部改正について (報 告) 報第 5 号 令和 5 年度富士市教育長表彰受賞者の追加決定について

(2) 教育委員研修会

日 時	会 場	研 修 内 容
5月22日 (月)	市庁舎6階 第一、第二会議室	第1回 市長・副市長と教育長・教育委員による意見交換会
6月20日 (火)	東小学校1階 音楽室	授業参観 教職員と語る会（教職員9名） テーマ「東小学校の強みと学校の役割」
9月20日 (水)	中央図書館2階 視聴覚室	講演：「STEAM教育とは」 講師：静岡大学教育学部 准教授 郡司 賀透 氏
10月23日 (月)	消防防災庁舎3階 研修室	第2回 市長・副市長と教育長・教育委員による意見交換会
11月21日 (火)	静岡県立富士特別支援学校 富士東分校	施設視察・授業参観 富士東分校の教育について説明・質疑応答
1月23日 (火)	富士南中学校4階 図書室	授業参観 地域の方と語る会（地域の方9名） テーマ「学校と地域との連携について」

(3) 総合教育会議

日 時	会 場	研 修 内 容
7月21日 (金) 傍聴者2人	中央図書館2階 視聴覚室	第1回 議第1号 「富士市子どもの権利条例の活用について」
12月20日 (火) 傍聴者3人	消防防災庁舎3階 研修室	第2回 議第2号 「令和6年度から全校実施となる小中一貫教育とコミュニティ・スクールの推進について」

4 教育委員会の自己点検・評価

日 時	会 場	会 議 内 容
令和 5 年 5 月 30 日（火）	教育プラザ 3 階 情報研修室 1・2	・自己点検・評価について（教育委員会による説明）
令和 5 年 6 月 9 日（金）	教育プラザ 3 階 情報研修室 1・2	・自己点検・評価について（質疑応答） ・検討委員意見集約 ・総合評価

平成 20 年に改正施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施し、報告書の議会提出、公表が義務付けられている。平成 19 年度の事業評価から、20 回目の実施となった。

会長の進行により、「大項目 1 教育委員会の活動」「大項目 2 教育委員会が管理・執行する事務」「大項目 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」について事務局が事業及び自己点検・評価の説明を行い、外部評価委員からの質疑に回答した。委員の意見を集約した後に、会長から口頭で総合評価を受けた。内容は以下の通りである。



外部評価検討会の様子

【評価できる点】

- 1 複雑多様化している現代、またコロナ禍であっても、昨年度の自己点検で示した課題について真摯に受け止め、施策が進化していると感じられたという点である。
市民のために何ができるか、どうすることがよりよい施策につながるのかということをどの部局も念頭に置き、課題を解決するために毎年改善につなげている。引き続きこの姿勢を続けてほしい。
- 2 市民目線に立った情報発信に尽力しているという点である。
特に市のホームページの改善や、学校のホームページの簡略化、給食費の公会計化の説明など、受信する人にとってどういう情報が必要か、また発信する人が発信しやすい環境をどのように整えていくか、それを常に意識しながら改善を図っていた。今後も市民目線に立った情報発信について尽力いただきたい。
- 3 方針 3「生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成」では、コロナ禍においても内容が充実し、参加者の満足度が図られていたという点である。
まちづくりセンターでの講座や、図書館の利用者の増加、電子媒体の導入、講座における小・中学生を対象にした講座など生涯を通じた学びの保障ということで、大人だけでなく子供も、リアルでしかできない学びというものも保障されている。企画力や運営力のたまものである。今後も充実を図っていただきたい。

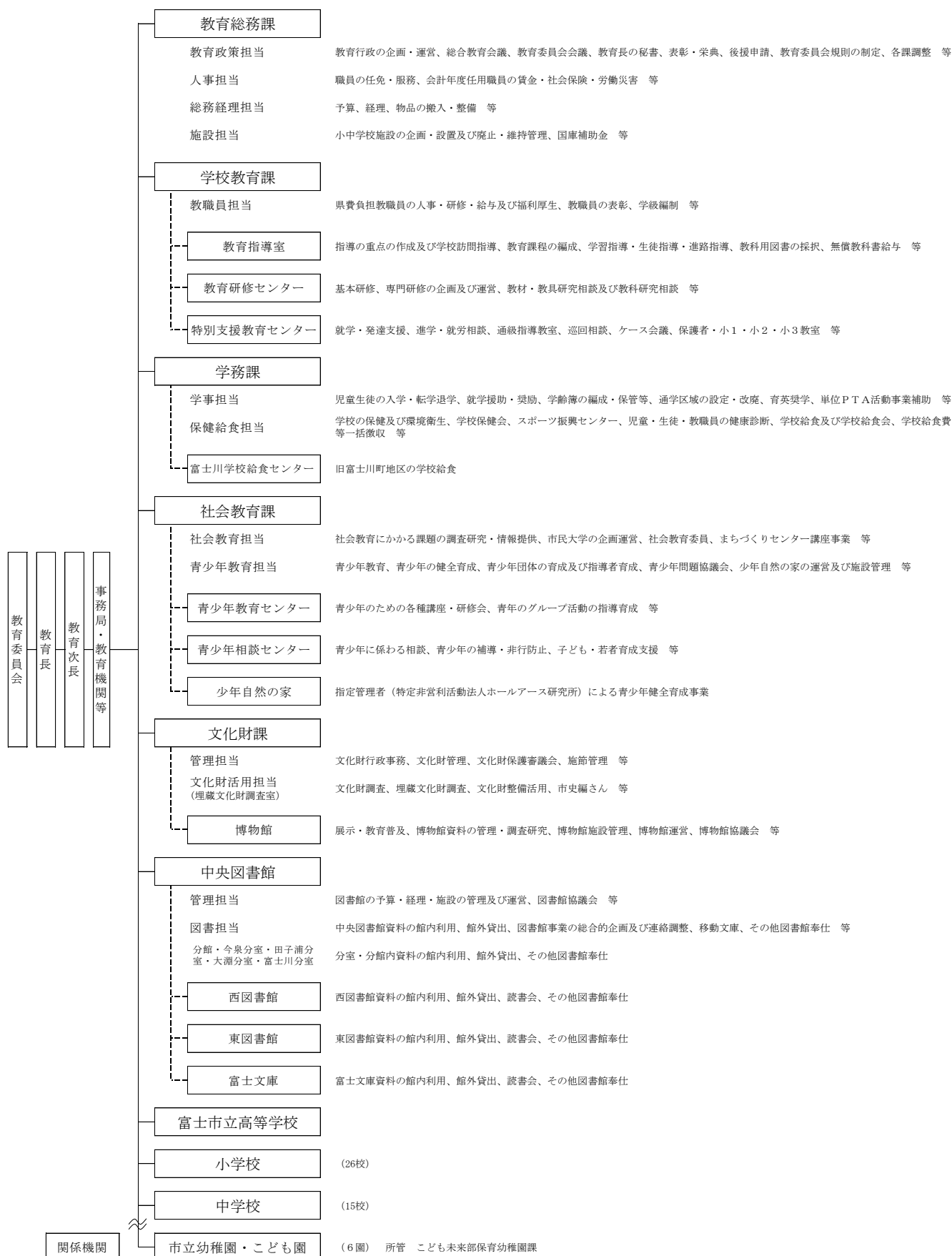
【今後の課題としたい点】

- 1 自己点検評価の指標について「第二次富士市教育振興基本計画」の中で 5 年の指標が固定されているが、よりよい指標とは何なのかを考え、状況の変化に応じて指標の内容を変えること、又は追加することの検討をしていただきたいという点である。
- 2 各学校や機関における事例の情報を教育委員会が吸い上げて集約し、またそれをさらに学校や機関にフィードバックしていくといったシステムの構築を検討していただきたいという点である。
SDGs や子どもの権利条例、コミュニティ・スクールについての学校等での取組など、大きな方針は教育委員会で定めているが、実際に具体的な活動は学校現場やいろいろな機関に任せているものが多い。事例集のような本があると、施策ごとの参考にもなり、それがさらに精緻化していくことにもつながるのではないかと考える。学校の事例の集約の仕方、また各学校への発信の方法についてシステム化のご検討をいただきたい。
- 3 多様な部局・団体が参加して協働して施策を作っていく、といった取組についても検討していただきたいという点である。
特に、働き方改革や、部活動の地域移行については、学校や教育委員会だけで解決することは非常に困難な施策であると考えている。施策を作る段階で部局を越えて、また、行政と民間、団体と立場を越えて議論や協働をし、施策を練り上げていくことで、より現場が効果を感じやすい施策の展開がなされるのではないかと考えるのでご検討いただきたい。

外部評価検討会後、7 月に外部評価委員の知見を取りまとめた意見書をいただき、教育委員会会議 8 月定例会での審議を経て、報告書を発行した。この報告書は、富士市議会 9 月定例会に合わせて提出するとともに、広く市民にも周知するため、富士市ウェブサイトに掲載した。

5 教育委員会行政組織機構

(1) 事務局等概要



教育委員会職員数

令和6年4月1日現在

職 名 課 等		部長等	課長等	統括等	主幹等	主事等	栄養士	指導 主事	教員	調理員	会計年度 任用職員	計
事務局	教育次長	1										1
	教育総務課		1	4	2	9		3				19
	学校教育課		1	1				3				5
	教育指導室		1	1	1			6			43	52
	学務課		1	2		2	1	1			3	10
	社会教育課		1	2	2	11					7	23
	文化財課		1	2	2	2		1			10	18
	小 計	1	6	12	7	24	1	14	0	0	63	128
教育 機関	図書館		1	11	8	5					72	97
	教育研修センター		1					4			12	17
	特別支援教育センター				1	2		2			16	21
	富士川学校給食センター			1						4	13	18
	青少年相談センター			2		1					12	15
	青少年教育センター										1	1
	博物館			2		4					5	11
	小学校						4			49	267	320
	中学校									27	150	177
	富士市立高等学校		1	1	1	1		1	68		41	114
	小 計	0	3	17	10	13	4	7	68	80	589	791
合 計		1	9	29	17	37	5	21	68	80	652	919

(市費負担職員のみ。職員数には、臨時的任用職員等の人数を含む。)

(3) 職員数の推移（会計年度任用職員等を除く）

組 織	年度 平成 26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	令和 2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
事務局	59	41	42	43	44	45	45	54	64	65	65
教育機関	166	162	160	161	160	163	197	195	199	197	202
計	225	203	202	204	204	208	242	249	263	262	267

Ⅲ 令和6年度教育予算

1 歳出当初予算額

(単位:千円)

区分	年度	令和6年度 当初予算額 (A)	令和5年度 当初予算額 (B)	令和4年度 当初予算額 (C)	比較増減	
					(A) - (B)	(A) - (C)
一般会計予算総額		101,800,000	92,300,000	89,100,000	9,500,000	12,700,000
教育費総額		17,016,181	13,538,070	11,064,645	3,478,111	5,951,536
教育費の割合		16.7%	14.7%	12.4%	+2.0ポイント	+4.3ポイント

令和6年度の富士市一般会計予算総額は1,018億円で、前年度に比べ95億円の増となっている。

また、教育費は170億1,618万1千円で前年度に比べ34億7千万円余の増、一般会計に占める割合は16.7%で前年度に比べ2.0ポイントの増となっている。

2 一般会計歳出予算と教育費予算

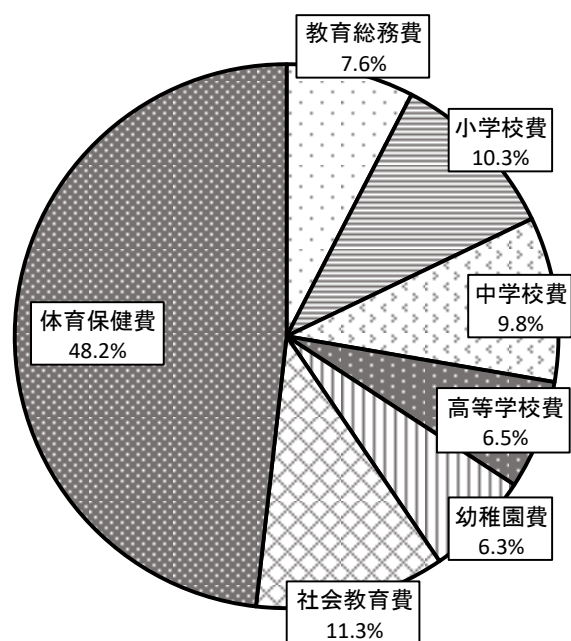
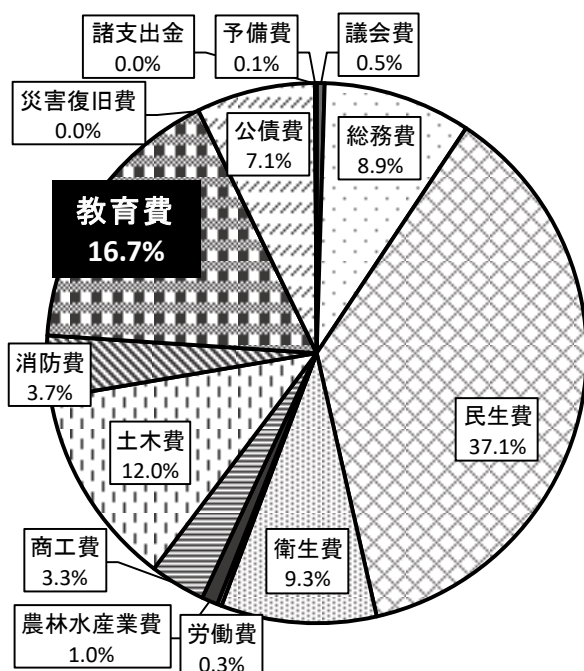
一般会計 (単位:千円)

款	予算額	構成比
議会費	481,596	0.5%
総務費	9,013,376	8.9%
民生費	37,723,107	37.1%
衛生費	9,518,662	9.3%
労働費	272,120	0.3%
農林水産業費	978,051	1.0%
商工費	3,384,221	3.3%
土木費	12,237,243	12.0%
消防費	3,781,176	3.7%
教育費	17,016,181	16.7%
災害復旧費	52,000	0.0%
公債費	7,242,167	7.1%
諸支出金	100	0.0%
予備費	100,000	0.1%
歳出合計	101,800,000	100.0%

教育費

(単位:千円)

項	予算額	構成比
教育総務費	1,302,599	7.6%
小学校費	1,754,884	10.3%
中学校費	1,666,287	9.8%
高等学校費	1,102,580	6.5%
幼稚園費	1,065,999	6.3%
社会教育費	1,928,450	11.3%
体育保健費	8,195,382	48.2%
教育費合計	17,016,181	100.0%



3 教育費当初予算額内訳

歳入

(単位:千円)

款	令和6年度	令和5年度	増減	説明
分担金及び負担金	19,952	22,256	△ 2,304	日本スポーツ振興センター災害共済掛金保護者負担金
使用料及び手数料	103,541	100,481	3,060	富士市立高等学校入学料・授業料等 中央図書館市民ギャラリー使用料
国庫支出金	1,084,345	651,117	433,228	学校施設環境改善交付金 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 特別支援教育就学奨励費補助金 埋蔵文化財調査事業費補助金 理科教育設備整備費等補助金 へき地児童生徒援助費等補助金
県支出金	228,394	254,193	△ 25,799	地域自殺対策強化事業費補助金 文化財保護事務委託金 部活動指導員配置事業費補助金 地震・津波対策等減災交付金 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金 不登校、いじめ対策等の推進事業費補助金 埋蔵文化財調査事業費補助金
財産収入	6,013	6,662	△ 649	社会科副読本有償頒布収入 博物館出版物等有償頒布収入 文化財関連出版物等有償頒布収入 基金利子(大村教育施設等整備、育英奨学、教育振興基金)
寄附金	503	503	0	小・中学校費寄附金
繰入金	219,284	541,090	△ 321,806	基金繰入金(大村教育施設等整備、育英奨学、教育振興基金)
諸収入	1,350,228	1,265,861	84,367	学校給食費負担金 学習用AIドリル保護者負担金 遺跡発掘調査受託金 日本スポーツ振興センター災害共済給付金収入 会計年度任用職員雇用保険料負担金 自動販売機等設置手数料 市民大学参加者負担金 まちづくりセンター講座参加者負担金 全国市長会学校災害賠償補償保険金収入 青少年体験交流事業参加者負担金
市債	6,045,400	3,071,500	2,973,900	小・中学校校舎等改修事業債 高等学校校舎等改修事業債 小・中学校屋内運動場リニューアル事業債 岳陽中学校武道場整備事業債 小・中学校空調設備整備事業債 文化財整備事業債
教育費関係歳入合計	9,057,660	5,913,663	3,143,997	

※ 金額には、教育委員会以外の所属が執行する教育費の事業（こども未来部保育幼稚園課が執行する幼稚園費の事業等）に充当する財源を含む。

歳出

(単位:千円)

区分	年度	令和6年度		令和5年度		増減額	対前年比
		金額	構成比	金額	構成比		
教育総務費		1,302,599	7.6%	1,181,959	8.8%	120,640	110.2%
教育委員会費		5,486	0.0%	4,336	0.0%	1,150	126.5%
事務局費		888,546	5.2%	794,585	5.9%	93,961	111.8%
学校教育指導費		210,131	1.2%	199,461	1.5%	10,670	105.0%
特別支援教育指導費		171,585	1.0%	157,100	1.2%	14,485	109.2%
育英奨学費		10,118	0.1%	10,098	0.1%	20	100.2%
教育プラザ費		16,733	0.1%	16,379	0.1%	354	102.2%
小学校費		1,754,884	10.3%	2,215,443	16.3%	△ 460,559	79.2%
小学校管理費		836,508	4.9%	762,208	5.6%	74,300	109.7%
小学校教育振興費		336,946	2.0%	339,299	2.5%	△ 2,353	99.3%
小学校建設費		581,430	3.4%	1,113,936	8.2%	△ 532,506	52.2%
中学校費		1,666,287	9.8%	1,374,822	10.2%	291,465	121.2%
中学校管理費		537,052	3.2%	471,576	3.5%	65,476	113.9%
中学校教育振興費		221,904	1.3%	221,263	1.6%	641	100.3%
中学校建設費		907,331	5.3%	681,983	5.1%	225,348	133.0%
高等学校費		1,102,580	6.5%	895,957	6.6%	206,623	123.1%
高等学校総務費		1,102,580	6.5%	895,957	6.6%	206,623	123.1%
幼稚園費		1,065,999	6.3%	1,131,838	8.4%	△ 65,839	94.2%
幼稚園管理費		380,392	2.3%	367,870	2.7%	12,522	103.4%
幼稚園教育振興費		685,607	4.0%	763,968	5.7%	△ 78,361	89.7%
社会教育費		1,928,450	11.3%	1,863,754	13.7%	64,696	103.5%
社会教育総務費		156,458	0.9%	155,015	1.1%	1,443	100.9%
生涯学習費		45,678	0.3%	41,688	0.3%	3,990	109.6%
青少年教育費		19,957	0.1%	17,759	0.1%	2,198	112.4%
青少年対策費		51,624	0.3%	50,735	0.4%	889	101.8%
少年自然の家費		51,254	0.3%	51,417	0.4%	△ 163	99.7%
文化振興費		117,422	0.7%	115,015	0.9%	2,407	102.1%
文化会館費		680,625	4.0%	683,161	5.0%	△ 2,536	99.6%
文化財保護費		111,533	0.6%	46,835	0.3%	64,698	238.1%
文化財発掘調査費		63,790	0.4%	60,546	0.5%	3,244	105.4%
博物館費		94,740	0.6%	99,252	0.7%	△ 4,512	95.5%
図書館費		535,369	3.1%	542,331	4.0%	△ 6,962	98.7%
体育保健費		8,195,382	48.2%	4,874,297	36.0%	3,321,085	168.1%
体育振興費		84,645	0.5%	63,528	0.5%	21,117	133.2%
体育施設費		841,640	4.9%	524,657	3.9%	316,983	160.4%
総合体育館費		4,670,659	27.5%	1,858,300	13.7%	2,812,359	251.3%
保健費		136,076	0.8%	135,431	1.0%	645	100.5%
学校給食費		2,462,362	14.5%	2,292,381	16.9%	169,981	107.4%
教育費 合計		17,016,181	100.0%	13,538,070	100.0%	3,478,111	125.7%

※ 幼稚園費は、こども未来部保育幼稚園課が予算執行する。

※ 社会教育費のうち文化振興費、文化会館費及び体育保健費のうち体育振興費、体育施設費、総合体育館費は、市民部文化スポーツ課が予算執行する。

4 職員数

正規職員	268 人	(会計年度任用職員職種)
会計年度任用職員	649 人	事務補助、学校用務員、学校司書、学校調理員、
職員総数	917 人	特別支援学級サポート員、特別支援教育サポート員、
(教育委員会以外の所属を除く)		病院内講師、外国人児童生徒指導員、ICT支援員、
※正規職員には教育長及びフルタイム		部活動指導員、スクールソーシャルワーカー、
会計年度任用職員を含む。		英語指導助手(ALT)、青少年相談員 ほか
※会計年度任用職員には育休代替		
を含まない。		

5 教育費決算額の推移

(単位:千円)

年度 区分	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
教育総務費	1,245,996	1,266,483	1,258,651	1,275,218	1,254,287
小学校費	2,597,439	3,047,095	2,620,042	2,259,255	1,229,817
中学校費	1,280,222	1,256,998	1,251,124	1,170,225	834,489
高等学校費	918,435	780,052	812,056	737,768	761,987
幼稚園費	1,148,216	1,056,555	1,010,922	793,584	603,347
社会教育費	1,796,691	1,741,273	1,936,118	1,669,179	1,577,531
体育保健費	2,324,945	1,762,423	1,880,019	2,008,469	1,805,736
教育費合計	11,311,944	10,910,879	10,768,932	9,913,698	8,067,194
一般会計合計	94,833,194	95,837,755	120,128,929	95,215,640	83,909,025
教育費の割合	11.9%	11.4%	9.0%	10.4%	9.6%

6 令和6年度教育施設整備事業予算(教育委員会所管のもの)

項目	金額(千円)	内 訳
小学校費	804,492	
小学校管理費	223,062	各小学校の緊急補修・バリアフリー改修、今泉・吉永第二・田子浦・富士見台・岩松北小学校受変電設備修繕、元吉原小学校飛散防止フィルム修繕、吉永第一・原田・田子浦小学校給食室校舎出入口扉修繕、特別教室空調機設置 ほか
小学校建設費	581,430	吉永第二小学校屋内運動場リニューアル、今泉・原田・大淵第一・富士第二・鷹岡・広見小学校校舎内部修繕、今泉・大淵第一・鷹岡・広見小学校トイレ改修、今泉・大淵第一小学校校舎外壁改修・屋上防水、原田・富士第二・天間小学校校舎屋上防水、吉原・元吉原・吉永第一・大淵第一・富士第一小学校給水管布設替、吉永第一小学校プールろ過機取替 ほか
中学校費	1,054,108	
中学校管理費	146,777	各中学校の緊急補修・バリアフリー改修、吉原第一・元吉原・大淵・富士川第二中学校受変電設備修繕、富士南中学校飛散防止フィルム修繕、田子浦中学校給食室校舎出入口扉修繕、特別教室空調機設置 ほか
中学校建設費	907,331	岳陽中学校武道場建設、吉原第三・元吉原中学校屋内運動場リニューアル、吉原第一・吉原第二・大淵中学校校舎内部修繕、吉原第一・大淵・岳陽中学校トイレ改修、大淵中学校校舎外壁改修・屋上防水、吉原第二・富士南中学校校舎屋上防水、岩松中学校給水管布設替、吉原第一中学校給食室改修、岩松中学校プール解体、大淵中学校階段昇降機設置 ほか
高等学校費	329,742	
高等学校総務費	329,742	ESCO事業(校舎1・2階空調機更新、照明LED化等) 校内便所修繕(校舎1階、体育館1階)
社会教育費	68,482	
文化財保護費	67,005	千人塚古墳保存整備
図書館管理費	1,477	学習室防火シャッター更新
合 計	2,256,824	

IV 主要事業

1 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

(1) ふじの教育懇談会

子ども、家庭、教職員、地域住民が「学校」をきっかけとする「学校縁」を広げ、地域ぐるみで子どもを育てる「地域の絆」を深める環境づくりを推進するため、教育長及び教育委員会事務局が小中学校へ直接訪問し、保護者の意見を伺う「ふじの教育懇談会」を実施している。

この取組は、子どもの実態や学校教育、子育て等について、保護者からの率直な意見に耳を傾け、学校及び教育委員会が教育施策の充実と取組の推進に生かしていくことを目的としている。

令和5年度は、小学校1校・中学校1校で開催し、多くの意見に触れることができた。コロナ禍を経て、新たな時代の中、これからの時代にふさわしいPTA活動の在り方について、保護者の思いや願い等に触れたりするなど、大変有意義な機会となった。



岩松小学校



鷹岡中学校

ふじの教育懇談会実績（令和5年度）

開催日時	会場	懇談内容
7月5日（水）	岩松小学校	「子どもたちの環境整備と安全について～PTA活動の取組の中で～」
11月9日（木）	鷹岡中学校	「アフターコロナにおける新たなPTA活動の在り方について」

(2) 施設整備事業

令和5年度 主要事業実績

事業名	学校名	構造等	施工面積	決算額(千円)	概要
小中学校屋内運動場リニューアル事業	鷹岡小学校	鉄骨造 平屋建	916	138,676	屋根・外壁・アリーナ床改修、バリアフリートイレ設置ほか
	丘小学校	鉄骨造 平屋建	939	160,158	屋根・外壁・アリーナ床改修、バリアフリートイレ設置ほか
	岩松北小学校	鉄骨造 平屋建	1,062	92,816	屋根・外壁・アリーナ床改修、バリアフリートイレ設置ほか
	富士中央小学校	鉄骨造 平屋建	1,218	105,484	屋根・外壁・アリーナ床改修、バリアフリートイレ設置ほか
校舎改修事業	神戸小学校	鉄筋コンクリート造3階建	3,043	48,334	南校舎屋上・外壁改修
	富士第一小学校	鉄筋コンクリート造3階建	3,597	51,580	南校舎外壁改修
	広見小学校	鉄筋コンクリート造3階建	2,329	38,660	南校舎外壁改修
	吉原第一中学校	鉄筋コンクリート造4階建	3,848	18,722	北校舎屋上改修
	吉原第二中学校	鉄筋コンクリート造4階建	3,595	13,420	北校舎屋上改修
	岳陽中学校	鉄筋コンクリート造4階建	6,296	24,915	北校舎屋上改修
	富士南中学校	鉄筋コンクリート造4階建	4,515	52,868	北校舎外壁改修
	鷹岡中学校	鉄筋コンクリート造3階建	2,373	37,314	中校舎外壁改修
プール解体事業	元吉原中学校	昭和54年度築		32,339	プール槽解体、跡地舗装

令和6年度 主要事業計画

事業名	学校名	構造等	施工面積	概要
武道場建設事業	岳陽中学校	鉄骨造平屋建て	756	技術科棟解体、武道場建設工事（I期）ほか
小中学校屋内運動場リニューアル事業	吉永第二小学校	鉄骨造平屋建て	1,055	屋根・外壁・アリーナ床改修、バリアフリートイレ設置ほか
	吉原第三中学校	1階鉄筋コンクリート造2階鉄骨造	2,417	屋根・外壁、バリアフリートイレ設置ほか
	元吉原中学校	1階鉄筋コンクリート造2階鉄骨造	2,734	屋根・外壁、バリアフリートイレ設置ほか
	原田小学校	鉄筋コンクリート造3階建	1,809	南校舎屋上防水
校舎改修事業	富士第二小学校	鉄筋コンクリート造4階建	4,882	南・北校舎屋上防水
	天間小学校	鉄筋コンクリート造3階建	1,767	南校舎・渡り廊下屋上防水
	今泉小学校	鉄筋コンクリート造3階建	518	渡り廊下棟屋上防水・外壁改修
	大淵第一小学校	鉄筋コンクリート造2階建	1,748	南西校舎屋上防水・外壁改修
	吉原第二中学校	鉄筋コンクリート造3階建	2,941	南校舎屋上防水
	富士南中学校	鉄筋コンクリート造3階建	1,582	南校舎屋上防水
	大淵中学校	鉄筋コンクリート造3階建	1,990	北校舎屋上防水・外壁改修
	岩松中学校	昭和52年度築		プール槽解体、跡地造成・現況測量

2 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

(1) 小・中学校

① 学校一覧

ア 小学校

令和6年5月1日現在

	学校名	所在地	電話	開校年月日	児童数	学級数	職員数 (内県費)	
1	吉原小学校	高嶺町6番1号	52-4190	明治6年6月1日	479	18(3)	38	29
2	今泉小学校	今泉3丁目17番1号	52-2011	明治6年9月1日	545	22(4)	45	36
3	伝法小学校	伝法2743番地	52-0027	明治6年8月	620	25(4)	45	35
4	神戸小学校	神戸633番地	21-2192	明治8年	183	9(2)	20	14
5	元吉原小学校	今井3丁目4番2号	33-0004	明治7年10月	261	12(2)	25	18
6	東小学校	西船津220番地	34-0274	昭和31年4月2日	50	6	16	10
7	須津小学校	中里1019番地	34-0049	明治6年8月1日	544	21(3)	39	30
8	吉永第一小学校	比奈1431番地	34-0228	明治6年6月1日	326	14(2)	29	20
9	吉永第二小学校	鵜無ヶ淵149番地の1	21-2190	明治5年	73	6	17	11
10	原田小学校	原田480番地	52-0897	明治6年9月1日	347	14(2)	28	20
11	大淵第一小学校	大淵3012番地	35-0009	明治7年6月	542	24(7)	44	35
12	富士第一小学校	本市場280番地の2	61-0042	明治10年10月3日	641	24(3)	46	36
13	富士第二小学校	横割1丁目8番1号	61-0414	昭和20年3月1日	540	21(3)	39	30
14	田子浦小学校	中丸98番地	61-0327	明治6年10月	628	24(3)	45	35
15	岩松小学校	松岡850番地	61-0917	明治6年3月1日	465	19(1)	37	28
16	鷹岡小学校	久沢2丁目3番1号	71-3855	明治6年4月	562	21(2)	39	30
17	広見小学校	広見本町1番1号	21-2191	昭和46年4月1日	582	22(3)	44	35
18	丘小学校	厚原2075番地	71-6050	昭和48年4月1日	823	29(4)	49	37
19	富士見台小学校	富士見台1丁目12番地	21-4518	昭和52年4月1日	258	13(2)	30	21
20	富士南小学校	宮下551番地	63-7025	昭和53年4月1日	946	34(5)	57	46
21	天間小学校	天間50番地	71-0333	昭和54年4月1日	309	14(2)	29	21
22	岩松北小学校	岩本123番地の1	64-8890	平成元年4月1日	610	23(4)	43	32
23	富士中央小学校	米之宮町295番地	60-1211	平成5年4月1日	552	20(2)	40	30
24	青葉台小学校	一色295番地	21-6310	平成10年4月1日	513	20(2)	38	30
25	富士川第一小学校	岩淵107番地	81-0481	明治6年9月	327	14(2)	24	21
26	富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二小学校)	北松野1963番地の6	85-2005	明治7年12月8日	284	13(2)	21	19
計					12,010	482(69)	927	709

※学級数()内は、特別支援学級数

※特別休暇及び育児休業、休職に係る代替講師は除く。

イ 中学校

令和6年5月1日現在

	学校名	所在地	電話	開校年月日	生徒数	学級数	職員数(内県費)	
1	吉原第一中学校	永田北町7番1号	52-0160	昭和22年4月1日	559	20(3)	47	37
2	吉原第二中学校	今泉1955番地	51-1115	昭和25年1月15日	495	17(1)	40	31
3	吉原第三中学校	比奈2126番地	34-0868	昭和35年4月1日	347	14(3)	33	25
4	元吉原中学校	鈴川中町28番1号	33-0065	昭和22年4月1日	144	8(2)	22	15
5	須津中学校	中里1156番地	34-0144	昭和22年4月1日	327	14(3)	33	25
6	大淵中学校	大淵2920番地	35-0021	昭和22年4月1日	303	14(5)	33	25
7	富士中学校	中島320番地	61-1390	昭和22年4月1日	628	23(4)	50	40
8	田子浦中学校	中丸411番地	61-0534	昭和22年4月1日	322	14(3)	34	26
9	岩松中学校	松岡2353番地の1	61-0931	昭和22年4月1日	555	19(1)	45	36
10	富士南中学校	森島550番地	61-2084	昭和36年4月1日	746	26(3)	56	46
11	鷹岡中学校	久沢713番地	71-3354	昭和22年4月1日	435	16(2)	36	28
12	岳陽中学校	伝法630番地	71-7955	昭和49年4月1日	734	26(3)	56	46
13	吉原北中学校	原田2259番地	21-0280	昭和56年4月1日	346	13(2)	32	24
14	富士川第一中学校	岩淵855番地の3	81-0482	昭和22年5月2日	171	8(2)	19	16
15	富士川第二小中一貫校 松野学園	北松野1963番地の6	85-2005	昭和22年4月1日	155	7(1)	18	15
16	(私立)富士見中学校	平垣町1番1号	61-0250	平成26年4月1日	30	2	9	
計					6,297	241(38)	563	435

※学級数()内は、特別支援学級数 ※特別休暇及び育児休業、休職に係る代替講師は除く。

ウ 施設等

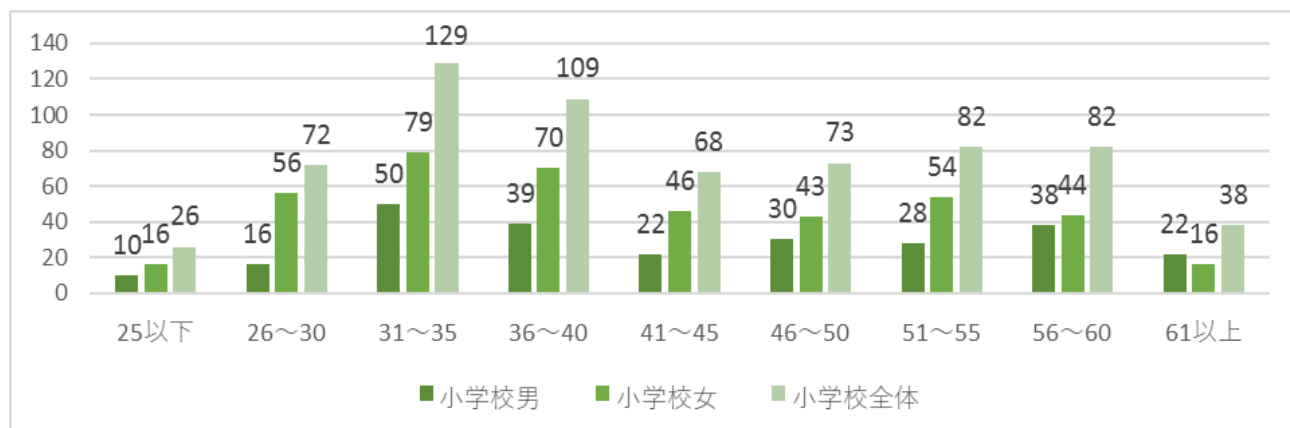
令和6年5月1日現在

学校名	校地面積 (㎡)	建物面積 (㎡)		学校名	校地面積 (㎡)	建物面積 (㎡)	
		校舎	屋体			校舎	屋体
吉原小学校	28,274	7,211	1,045	岩松北小学校	22,292	6,449	1,062
今泉小学校	36,316	8,897	1,027	富士中央小学校	24,690	5,803	1,218
伝法小学校	24,588	7,525	1,213	青葉台小学校	27,382	5,958	1,243
神戸小学校	19,147	4,596	1,012	富士川第一小学校	13,851	5,475	1,199
元吉原小学校	25,452	5,499	1,125	富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二小学校)	15,286	4,336	1,457
東小学校	14,426	2,535	532	吉原第一中学校	32,195	9,257	1,253
須津小学校	17,317	6,471	776	吉原第二中学校	33,108	6,911	2,326
吉永第一小学校	15,769	5,289	1,171	吉原第三中学校	25,233	5,034	2,596
吉永第二小学校	17,920	3,758	1,055	元吉原中学校	21,220	3,830	2,734
原田小学校	16,698	5,394	852	須津中学校	25,268	5,571	2,813
大淵第一小学校	19,303	6,697	956	大淵中学校	31,458	5,667	2,795
富士第一小学校	20,806	7,147	1,192	富士中学校	25,887	7,987	2,964
富士第二小学校	18,813	6,321	1,251	田子浦中学校	26,453	5,580	2,810
田子浦小学校	27,205	6,518	1,035	岩松中学校	21,582	5,152	2,864
岩松小学校	16,046	6,208	1,050	富士南中学校	35,202	7,304	2,842
鷹岡小学校	21,000	6,246	916	鷹岡中学校	33,699	6,976	2,754
広見小学校	17,237	6,922	1,072	岳陽中学校	33,149	8,014	1,185
丘小学校	24,575	7,156	939	吉原北中学校	28,885	6,751	1,147
富士見台小学校	31,667	5,966	976	富士川第一中学校	19,660	4,384	2,047
富士南小学校	25,729	7,663	1,019	富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二中学校)	10,958	2,992	2,174
天間小学校	23,063	5,067	1,006				

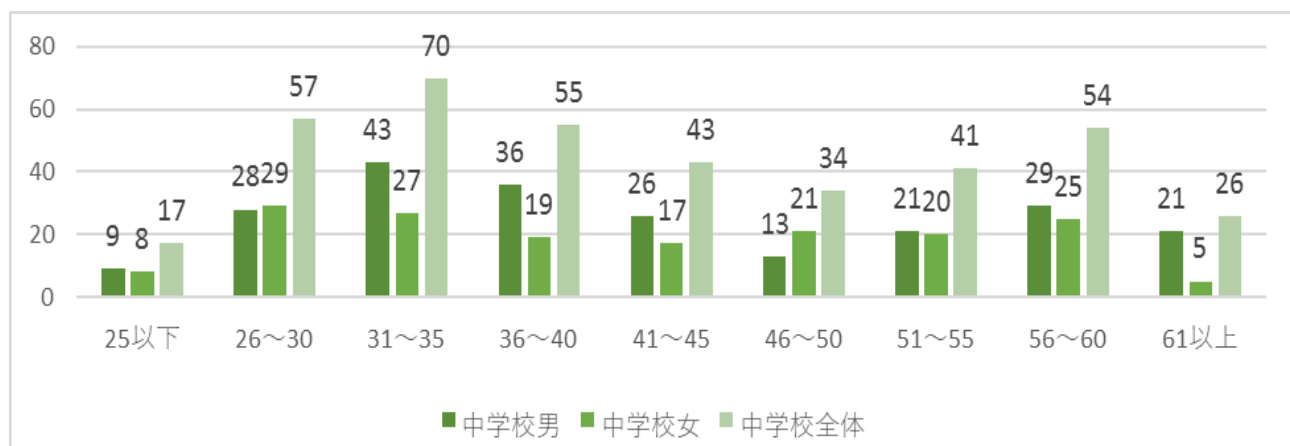
エ 職員の年齢別構成（県費負担正規教職員）

小学校年齢別人数

令和6年5月1日現在



中学校年齢別人数



オ 職員の構成

令和6年5月1日現在

区分	小学校	中学校	富士川給食センター	計
校長（所長）	25	15	1	41
教 頭	26	17	—	43
主幹教諭	12	5	—	17
教 諭	541	318	—	859
暫定再任用	23	19	—	42
任期付任用職員及び臨時的任用職員（欠員補充）	15	32	—	47
会計年度任用職員（県費）	96	46	—	142
養護教諭	28	15	—	43
事務職員	54	32	1	87
栄養教諭	9	3	—	12
栄養士	12	2	—	14
調理員	138	73	13	224
用務員	26	15	1	42
学校司書	25	15	—	40
サポート員等（市費）	78	38	—	116
計	1,108	645	16	1,769

※暫定再任用には定年前再任用短時間勤務職員を含む。

※任期付任用職員及び臨時的任用職員については、特別休暇や育児休業、休職における代替は除く。

力 令和6年度以降就学児童推定

令和6年5月1日現在

学 校 名	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
吉 原 小 学 校	69	70	67	65	64	59	56
今 泉 小 学 校	90	76	72	75	73	65	67
伝 法 小 学 校	92	88	85	85	81	76	74
神 戸 小 学 校	26	26	26	25	25	24	26
元 吉 原 小 学 校	35	37	35	35	35	31	30
東 小 学 校	8	7	6	6	6	6	6
須 津 小 学 校	88	73	74	71	73	70	64
吉 永 第 一 小 学 校	49	41	40	39	40	37	33
吉 永 第 二 小 学 校	8	8	8	8	8	7	7
原 田 小 学 校	55	50	52	46	47	43	41
大 淵 第 一 小 学 校	65	77	75	70	74	61	59
富 士 第 一 小 学 校	90	94	95	90	86	80	76
富 士 第 二 小 学 校	85	76	74	75	72	67	65
田 子 浦 小 学 校	121	103	98	94	95	90	86
岩 松 小 学 校	72	63	64	60	59	56	52
鷹 岡 小 学 校	95	83	81	80	80	73	69
広 見 小 学 校	91	84	79	82	77	73	67
丘 小 学 校	137	128	128	124	120	114	108
富 士 見 台 小 学 校	33	37	35	33	32	30	30
富 士 南 小 学 校	178	141	135	126	127	121	113
天 間 小 学 校	50	45	40	40	39	38	35
岩 松 北 小 学 校	97	85	85	83	87	78	73
富 士 中 央 小 学 校	93	82	81	79	79	72	69
青 葉 台 小 学 校	89	78	78	73	75	66	67
富 士 川 第 一 小 学 校	49	48	47	44	46	40	40
富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二小学校)	32	36	33	34	32	30	29
計	1,897	1,736	1,693	1,642	1,632	1,507	1,442

(令和6年度公立義務教育諸学校の教職員定数等に関する資料より)

キ 中学生進路状況

区分 \ 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
高 等 学 校 等 進 学 者	2,304	2,076	2,184	2,164	2,122
専 修 ・ 各 種 学 校 進 学 者	2	1	11	13	5
公 立 職 業 訓 練 施 設 入 所 者	3	2	2	4	0
就 職 者 等	40	30	29	29	41
合 計 (卒 業 生 数)	2,349	2,109	2,226	2,210	2,168
高 校 進 学 率 (%)	98.1	98.4	98.1	97.9	97.9

ク 富士市育英奨学生

将来、富士市の中堅となる有為の人材を育成することを目的として、学資を給付している。
市内に居住する者で、高等学校又はこれと同等程度の学校に在学し、品行方正、成績優秀、身体強健で学資の支弁が困難と認められる者に対して給付される。

ケ 富士市育英奨学生の推移

令和6年5月1日現在

年度	奨学生 人数	1年生	2年生	3年生	定時制4年生 沼津高専4年生 沼津高専5年生	奨学生 累計	● 奨学金月額 ～昭和43年 1,500円 44年～47年 2,000円 48年～52年 3,000円 53年～57年 5,000円 58年～61年 8,000円 62年～ 10,000円 ● 給付期間 全日制高校 3年 定時制高校 4年 (三島長陵高定時制4年) 沼津高専 5年
昭27～ 平27						1,402	
28	85	29	23	33	0	1,431	
29	74	23	28	23	0	1,454	
30	75	22	23	28	2	1,476	
令元	67	20	21	23	3	1,496	
2	62	20	20	21	1	1,516	
3	63	23	20	20	0	1,539	
4	67	24	23	20	0	1,563	
5	72	25	24	23	0	1,588	
6	66	20	24	22	1	1,607	

コ 就学援助

(金額単位：千円)

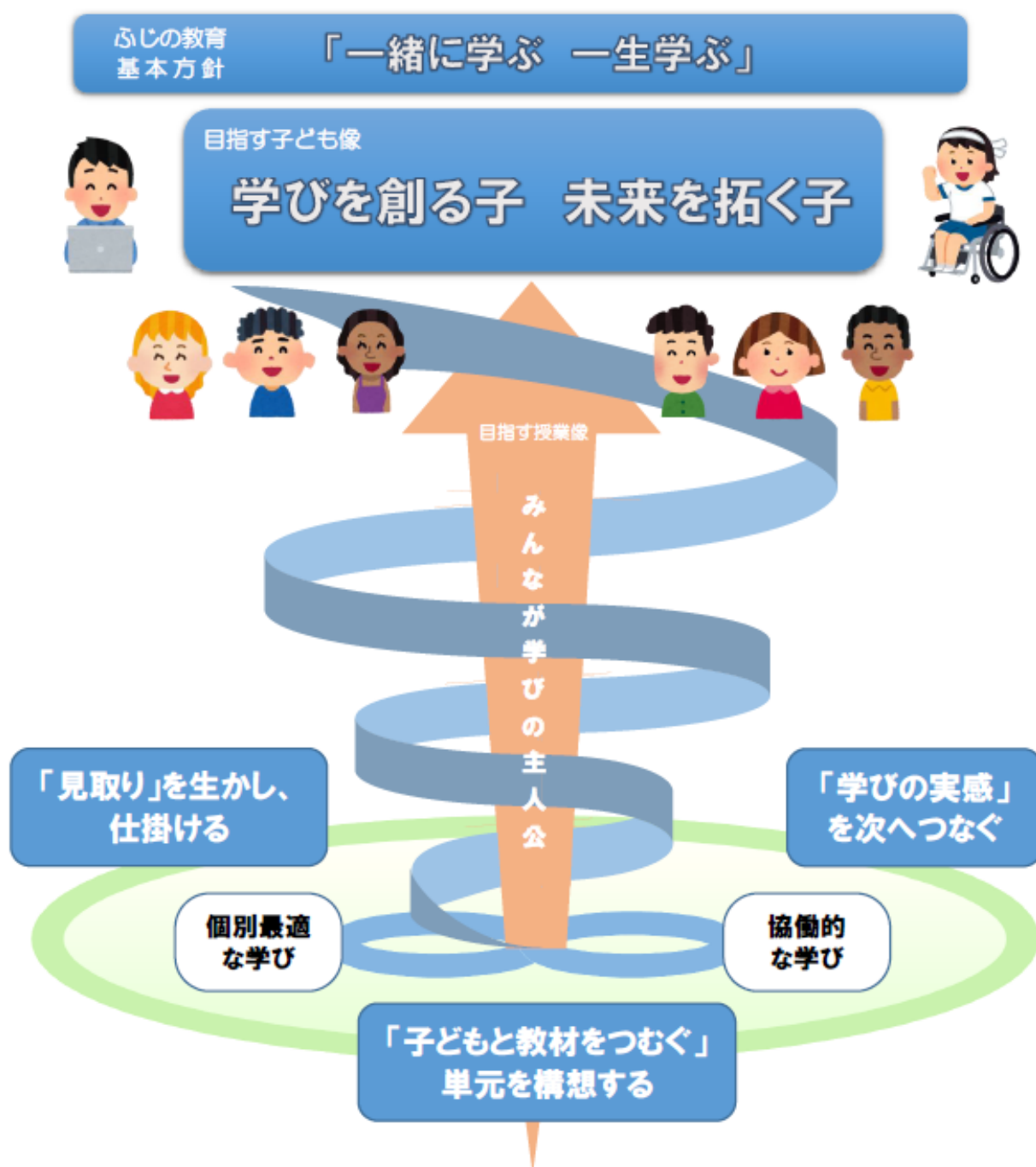
年 度	学用品費等		給 食 費		新入学学用品費		修学旅行費等		医 療 費		通 学 費		合計
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	金額
平28	1,239	21,755	1,231	59,314	228	4,986	459	12,308	167	1,111	4	126	99,600
29	1,213	21,758	1,209	58,761	227	10,182	479	14,054	146	1,014	7	37	105,805
30	1,089	20,168	1,083	52,843	328	14,738	466	13,207	125	700	14	249	101,905
令元	1,054	18,557	1,050	51,755	226	11,903	403	13,088	87	579	4	238	96,120
2	1,121	19,745	1,110	50,994	229	12,769	247	2,569	97	586	6	160	86,823
3	1,142	21,287	1,132	58,984	227	12,824	395	8,243	79	465	12	93	101,896
4	1,147	21,498	1,136	51,146	205	11,762	409	11,479	66	413	5	49	96,347
5	1,155	20,911	1,132	57,503	199	11,789	397	12,683	69	488	8	92	103,466

サ 特別支援学級就学奨励

(金額単位：千円)

年 度	学用品費等		給 食 費		新入学学用品費		修学旅行費等		通 学 費		合計
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	金額
平28	193	738	202	4,864	41	455	228	1,359	134	1,678	9,094
29	211	919	223	5,470	54	578	223	1,036	121	1,351	9,355
30	226	907	235	5,801	41	780	310	1,199	122	1,489	10,176
令元	225	900	235	5,793	45	1,057	290	1,408	144	1,431	10,589
2	258	1,000	254	5,863	52	1,254	157	235	141	1,363	9,715
3	281	1,114	274	7,075	50	1,138	250	881	154	1,243	11,451
4	318	1,172	311	7,044	71	1,773	282	1,158	182	1,305	12,452
5	322	1,332	311	7,924	58	1,403	275	1,156	179	1,086	12,901

② 教育研修
ア 令和6年度 指導の重点



社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中で、子どもたちの資質・能力を確実に育成する必要があります。子どもたちを支える伴走者でもある教師には、ICTを効果的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、子どもたちの資質・能力を育成することが求められています。

新しい時代に必要な資質・能力を育成するためには、たての接続である小中一貫教育で、教職員の協働による一貫性・連続性のある支援を実施することや、よこの連携であるコミュニティ・スクールの特色を最大限に生かすことで、教育の質の向上を図っていくことが大切です。そして、みんなで未来を拓く子どもたちを育てていきましょう。

みんなが学びの主人公となるため

「みんなが学びの主人公となる授業」とは、一人一人が自分ごととして課題に向き合い、自分らしさを発揮しながら、課題解決に向かう授業です。

そのために、教師が授業において大切にしたいことを三つの柱に整理しました。

「子どもと教材をつむぐ」単元を構想する

単元を構想することは、子どもの思いや願いと教材の価値を教師の関わりや支援でつむいでいくことです。子どもたちが、夢中になって思いや願いを実現しようと学びを楽しむことが、資質・能力を育むことにつながるような単元を構想しましょう。

□学習指導要領に示された、育成を目指す資質・能力を十分に理解しましょう。

□学びの足跡や子どもの実態を踏まえた教材分析をしましょう。

□子どもがどんな願いや考えを持つか、どこにつまずくか等、**学んでいく子どもの姿を、子どもの言葉で想像**してみましょう。

□どの子も学びの主人公になれるように子ども一人一人の実態に合わせた**自己決定の場を設定**しましょう。

「見取り」を生かし、仕掛ける

子どもたちが授業中に見せる表情、しぐさ、つぶやき等の表れには、疑問や願いが込められています。その多様な表れを見取り、子どもの思考の様子や変化を感じ取り、教科等の目標に迫る仕掛けをしましょう。教師の仕掛けにより、子どもの思考に弾みがつき、深化します。

見取りと仕掛けは、子どもを学びの中心に置き、学びの楽しさや学ぶことのよさを味わうための鍵となります。

□子ども一人一人の思いや考え、背景、学習集団の傾向などを捉えておきましょう。

□**目標に対する子どもの現在地を、常に子どもの姿、思考から追い続け**ましょう。

□情報を提供する、ずれを生かす、問い返す、待つ等、具体的に仕掛けましょう。

「学びの実感」を次へつなぐ

子ども自身が「できそうだ」「分かってきた」「納得した」を積み重ね、自己の学習活動を見つめ直すことで「**学びの実感**」を得ることができます。そのためにも、単元を通して、「何が分かるようになったか」「どのような考えの変容があったか」「もっと考えたいことは何か」「どんなことに生かせそうか」などについて、**子どもが自覚**できるようにしていくことが大切です。こうした学びの繰り返しにより、**生涯に渡って学び続ける力**が身に付いていきます。

□子どもが自らの学習を調整し、粘り強く学習に取り組むことができるような場を設定しましょう。

□子どもが自分の言葉でまとめること、学習過程で生まれた疑問や気づきを振り返ることを適切に行いましょう。

□子どもの学びを支え、次につながる前向きな声掛けや関わりをしていきましょう。

イ 指定校研究（令和6年度）

(7) 教育研究指定校

	学 校 名	領 域	備 考
1	鷹岡小学校 岳陽中学校	学習指導（特別支援） 学習指導（授業改善）	新規（令和6～令和7年）
2	吉原北中学校	学習指導（特別支援）	継続（令和5～令和6年）
3	富士川第一小学校	園小連携	継続（令和5～令和6年）

(4) 自然保護環境美化活動指定校

	学 校 名	領 域	期 間
1	東小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成18年～）
2	原田小学校	自然保護環境美化活動（ビオトープ活用）	継続（平成19年～）
3	大淵第二小学校	自然保護環境美化活動	平成20年～令和4年
4	田子浦小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成23年～）
5	大淵第一小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成24年～）
6	吉永第一小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成24年～）
7	富士南小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成26年～）
8	神戸小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成26年～）
9	吉原小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成27年～）
10	富士第一小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成27年～）
11	今泉小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成28年～）
12	元吉原小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成28年～）
13	富士第二小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成28年～）
14	岩松小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成28年～）
15	鷹岡小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成28年～）
16	丘小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成28年～）
17	岩松北小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成28年～）
18	富士中央小学校	自然保護環境美化活動（ビオトープ活用）	継続（平成28年～）
19	青葉台小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成28年～）
20	須津小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成29年～）
21	広見小学校	自然保護環境美化活動	継続（平成29年～）
22	富士見台小学校	自然保護環境美化活動	継続（令和元年～）
23	富士川第一小学校	自然保護環境美化活動	令和元年～5年
24	須津中学校	自然保護環境美化活動	平成28年～令和5年
25	吉原北中学校	自然保護環境美化活動	継続（平成28年～）
26	岳陽中学校	自然保護環境美化活動	継続（平成29年～）
27	岩松中学校	自然保護環境美化活動	継続（平成30年～）
28	富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二中学校）	自然保護環境美化活動	令和元年～5年
29	吉原東中学校	自然保護環境美化活動	令和2年～5年
30	富士南中学校	自然保護環境美化活動	継続（令和2年～）
31	天間小学校	自然保護環境美化活動	継続（令和3年～）
32	伝法小学校	自然保護環境美化活動	継続（令和4年～）
33	吉永第二小学校	自然保護環境美化活動	継続（令和4年～）
34	吉原第三中学校	自然保護環境美化活動	継続（令和4年～）
35	富士中学校	自然保護環境美化活動	継続（令和4年～）

36	富士川第一中学校	自然保護環境美化活動	継続（令和4年～）
37	鷹岡中学校	自然保護環境美化活動	新規（令和5年）

ウ 各層別研修

	名 称	主 題	研 修 月
1	新規採用教職員研修	教職員としての基本的な資質の向上（児童生徒理解、教材作り、授業研究等）	4月～3月
2	3年目教員研修	自己目標シートをもとにした実践研修や情報交換、個別訪問研修を行い、授業力と生徒指導力を高める。	5月～1月
3	ミドルリーダー研修会	自己目標シートをもとに各校で実践を積み上げ、学校運営に参画する意識を持ち、業務遂行力と組織運営力を高める。	5月～1月
4	マイスター研修会	技や観の伝授など、経験を生かした自己研修課題を持ち、各校での実践を通して学校経営に参画する。	5月～1月
5	推進員研修会	教科・領域等による教育研究の推進	4月～2月
6	教育研修会	当面の課題と対応（主幹・教務・研修・生徒指導・新任特別支援教育コーディネーター、小中連携・一貫教育等）	5月～1月
7	教頭研修会	学校経営上の識見・能力、教職員指導のあり方	4月～2月
8	校長研修会	学校経営上の諸問題検討、学校経営の質的向上	4月～3月

エ 県外教育視察研修

小・中教員2人	7月～1月
---------	-------

オ 教育研修推進活動

教育講演会	教育講演会 ロゼシアター	8月1日（木）
教職員表彰	教職員表彰式 ロゼシアター	8月1日（木）
一斉授業研究会	小学校 各教科等、中学校 教科外 中学校 各教科	11月6日（水） 11月13日（水）
一般研究（各教科等）	主任による研修 各教科等の担当教員による研修 教員全体の研修	事例研修・授業法研究・評価研修 実践発表 フィールドワーク 教具の作成・資料作成と収集
自主的研修	教育研究実践会・・・健康教育・特別支援等、活動団体への助成	
教員海外派遣研修	小学校教員1人、中学校英語科教員1人をオーシャンサイド市に派遣	
アフター5講座（勤務時間外の希望研修）	授業づくり、情報教育、特別支援教育、生徒指導、英語教育、英会話園小接続、トピック	

カ 研修・発表・指導事業への参加・奨励

講習会	実技講習会 吹奏楽指導者講習会	調査・検査	知能検査（小3・中1） Q-U検査（小5・中1） 新体力テスト
		発表会	英語弁論大会
作品展	科学作品展	生徒の活動	中学生リーダー研修会

キ 教育実践研究への応募の奨励

富士市教育実践研究論文、自主的研究活動の推進

ク 研究記録等の発刊

教 師 対 象	・ 富士市教育実践研究論文集録
児 童 生 徒 対 象	・ 社会科副読本

ケ 小・中学校教育目標と校内研修テーマ

(7) 小学校

	学校名	学校教育目標	校内研修テーマ
1	吉 原 小	あこがれ チャレンジ 笑顔 ～夢をもつ子 たくましくがんばる子 仲間とともに喜ぶ子～	学びに夢中になる子 ～聴き合う・伝え合う姿を目指して～
2	今 泉 小	夢や目標を持ち たくましく生きる子	対話を通して 考えを深める授業
3	伝 法 小	あこがれ チャレンジ 笑顔 ～夢をもつ子 たくましくがんばる子 仲間とともに喜ぶ子～	自分ごととして考え、学びをつないでいく子の育成
4	神 戸 小	自分らしく とともに輝く 「自分で考えて行動」「最後までチャレンジ」「自分も大切 あなたも大切」	付けたい力を明確にしたやりとり
5	元吉原小	挑戦する子	自分らしさを発揮し、聴き合いを通して、学びを実感できる授業づくり
6	東 小	たくましく 挑戦する子	もっと伝える きつとつながる ～夢中になって学ぶ子～
7	須 津 小	たくましい子	自ら学び 深め合う子 ～夢中になって学ぶ 聴き合い分かり合う～
8	吉永第一小	やさしく たくましく 生きる子	「対話できる子」に迫る授業を構想し、授業改善に取り組む教職員
9	吉永第二小	自分らしく とともに輝く 「自分で考えて行動」「最後までチャレンジ」「自分も大切 あなたも大切」	「～たい」を育て合う子
10	原 田 小	やさしく たくましく 生きる子	よくきいて 考えを深めていく子
11	大淵第一小	共に自分を成長させる子	夢中になって 深める学び ～学びを見取り 授業に生かす～
12	富士第一小	しなやかに 挑み続ける子	対話を通して深い学びを実感できる授業
13	富士第二小	やさしく いきる	「聴いて つなげて 考える」授業づくり
14	田 子 浦 小	自分から行動する子	子供の「やってみよう」を支える授業づくり ～振り返りを手がかりとして～
15	岩 松 小	い…いつでも 自分から動く子 わ…わたしも あなたも 大事にする子 ま…学びを楽しみ、表現する子 つ…つながりながら 成長する子	“学び続けたい”を引き出す授業
16	鷹 岡 小	自ら学ぶ子	「分かった」「できた」を実感できる子 ～一人一人が見通しをもてる単元構想～
17	広 見 小	一生懸命 がんばる子 ・よい悪いの判断のもとに本気で物事に打ち込み、最後まであきらめない主体的な姿 ・自分のためだけでなく、人を思って力を尽くし、励まし合い、認め合い、支え合う姿	情報活用能力を発揮し、学びを深める子の育成 ～「集めて つなげて 考える」追究したい問いを創り出す授業を通して～
18	丘 小	一生懸命 がんばる子 ・よい悪いの判断のもとに本気で物事に打ち込み、最後まであきらめない主体的な姿 ・自分のためだけでなく、人を思って力を尽くし、励まし合い、認め合い、支え合う姿	自分で考えて 一緒に考えて 深める授業
19	富士見台小	自分らしく とともに輝く 「自分で考えて行動」「最後までチャレンジ」「自分も大切 あなたも大切」	考え続ける授業 ～ ?を見つけて考えよう ～
20	富 士 南 小	やさしく いきる	学び合い 考え 表現する子 ～「やってみよう」を引き出すしかけ～
21	天 間 小	自ら学ぶ子	聴いて 考えて つながる授業 ～子供とつくる単元構想・学びのゴール～
22	岩 松 北 小	い…いつでも 自分から動く子 わ…わたしも あなたも 大事にする子 ま…学びを楽しみ、表現する子 つ…つながりながら 成長する子	学び合いの中で“自りつ”する子
23	富士中央小	しなやかに 挑み続ける子	友達とかかわりながら学びを深めていく子の育成 ～㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯が生まれる授業～

24	青葉台小	夢や目標を持ち たくましく生きる子	子供が主体的で協働的に学ぶ授業づくり
25	富士川第一小	つなぐ ・自分から積極的に人や地域、社会とつながる。 ・自分の将来につなげるために今できることを考え実行する。 ・学びの対象（人・もの・こと）とつながり、自分の考えを発信する。 ・思いやる気持ちや諦めないで挑戦する気持ちをつなげる。	自分の思いや考えを表現できる子の育成 ～園小を滑らかにつなぐ～
26	富士川第二小 (富士川第二小学校)	夢を語る子	9年間を通して「学びを楽しむ」子供を支える

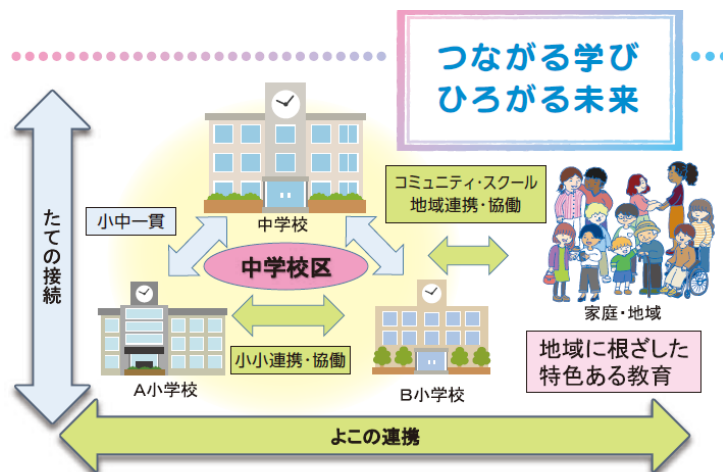
(イ) 中学校

	学校名	学校教育目標	校内研修テーマ
1	吉原第一中	あこがれ チャレンジ 笑顔 ～夢をもつ子 たくましくがんばる子 仲間とともに喜ぶ子～	学びをつくる 学びでつくる ～「かかわり」から「深まり」につながる授業
2	吉原第二中	幸せに気付く生徒	子どもが主体的で協働的に学ぶ授業づくり ～きき合う、学び合う～
3	吉原第三中	やさしく たくましく 生きる子	つなぐ ～ひと もの こと～
4	元吉原中	挑戦する子	よくきこう もっと考えを伝えよう
5	須津中	たくましい子	夢中になって深め合う授業づくり
6	大淵中	共に自分を成長させる子	夢中になって 深める学び～学びを見取り 授業に生かす ～受心⇄発心を繰り返す活動を通して～
7	富士中	しなやかに 挑み続ける子	「考えたい」「対話したい」「やってみたい」が生まれる授業
8	田子浦中	自分から行動する子	「他と関わり、自ら学ぶ生徒の育成」 ～学び合いを促進させる手立ての共有～
9	岩松中	い…いつでも自分から動く子 わ…わたしもあなたも大事にする子 ま…学びを楽しみ、表現する子 つ…つながりながら成長する子	学ぶ楽しさを実感できる生徒の育成 ～主体的・対話的で深い学びを目指して～
10	富士南中	やさしく 生きる	対話を通じて仲間と共に考えを深める生徒の育成
11	鷹岡中	自ら学ぶ子	全員が参加できる授業
12	岳陽中	一生懸命 がんばる子 ・よい悪いの判断のもとに本気で物事に打ち込み、最後まであきらめない主体的な姿 ・自分のためだけでなく、人を思っ力て力を尽くし、励まし合い、認め合い、支え合う姿	根拠を基に自分の考えとして語れる生徒の育成
13	吉原北中	自分らしく ともに輝く 「自分で考えて行動」「最後までチャレンジ」「自分も大切 あなたも大切」	特別支援教育の視点を持った学び心地の良い授業づくり 共にチャレンジ ～TEAM よしきたで創る安心感～
14	富士川第一中	つなぐ ・自分から積極的に人や地域、社会とつながる。 ・自分の将来につなげるために今できることを考え実行する。 ・学びの対象（人・もの・こと）とつながり、自分の考えを発信する。 ・思いやる気持ちや諦めないで挑戦する気持ちをつなげる。	学習者が主体となって、学びを楽しむ
15	富士川第二中 (富士川第二中学校)	夢を語る子	9年間を通して「学びを楽しむ」子供を支える

コ 小中一貫教育と目指す児童生徒像

(ア) 本市の小中一貫教育の三本の柱とイメージ図

- 【柱 1】義務教育 9 年間を見通し、一貫した教育の充実を図ります。
～たて（小・中学校）の接続～
- 【柱 2】学校・家庭・地域が協働し、地域で児童生徒を育てる学校づくりを進めます。
～よこ（学校と地域社会）の連携～
- 【柱 3】地域に根ざした特色ある教育を進めます。



義務教育 9 年間（小学校 6 年・中学校 3 年）を連続した期間として捉え、切れ目なく質の高い教育活動を行うことや、学校・家庭・地域の協働による特色ある学校づくりを推進することにより、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に努めます。

(イ) 小中一貫教育を推進する中学校区と目指す児童生徒像

中学校区	所属する小中学校	目指す児童生徒像
吉原第一中学校区	吉原第一中学校 吉原小学校 伝法小学校	あこがれ チャレンジ 笑顔 夢をもつ子 たくましくがんばる子 仲間とともに喜ぶ子
吉原第二中学校区	吉原第二中学校 今泉小学校 青葉台小学校	夢や目標を持ち たくましく生きる子
吉原第三中学校区	吉原第三中学校 吉永第一小学校 原田小学校	やさしく たくましく 生きる子
元吉原中学校区	元吉原中学校 元吉原小学校	挑戦する子
須津中学校区	須津中学校 東小学校 須津小学校	たくましい子
大淵中学校区	大淵中学校 大淵第一小学校	共に自分を成長させる子
富士中学校区	富士中学校 富士第一小学校 富士中央小学校	しなやかに 挑み続ける子
田子浦中学校区	田子浦中学校 田子浦小学校	自分から行動する子
岩松中学校区	岩松中学校 岩松小学校 岩松北小学校	い・・・いつでも自分から動く子 わ・・・わたしもあなたも大事にする子 ま・・・学びを楽しみ、表現する子 つ・・・つながりながら成長する子

中学校区	所属する小中学校	目指す児童生徒像
富士南中学校区	富士南中学校 富士第二小学校 富士南小学校	やさしく いきる
鷹岡中学校区	鷹岡中学校 鷹岡小学校 天間小学校	自ら学ぶ子
岳陽中学校区	岳陽中学校 広見小学校 丘小学校	一生懸命 がんばる子 ・よい悪いの判断のもとに本気で物事に打ち込み、最後まであきらめない主体的な姿 ・自分のためだけでなく、人を思って力を尽くし、励まし合い、認め合い、支え合う姿
吉原北中学校区	吉原北中学校 神戸小学校 吉永第二小学校 富士見台小学校	自分らしく とともに輝く 「自分で考えて行動」「最後までチャレンジ」「自分も大切 あなたも大切」
富士川第一中学校区	富士川第一中学校 富士川第一小学校	つなぐ ・自分から積極的に人や地域、社会とつながる。 ・自分の将来につなげるために今できることを考え実行する。 ・学びの対象（人・もの・こと）とつながり、自分の考えを発信する。 ・思いやる気持ちや諦めないで挑戦する気持ちをつなげる。
富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二中学校区)	富士川第二小中一貫校 松野学園	夢を語れる子

③ 学 区

ア 小学校 (富士川第一小学校及び富士川第二小中一貫校 松野学園(富士川第二小学校)の通学区域は大字名)

学校名	通 学 区 域
吉 原 小	東本通1. 2. 3、宮町、吉原本町1. 2. 3. 4、西本通り、伝馬町、西仲町、新迫町、青島、津田、荒田島1. 2、八代町、新通り、緑町、南町、依田原1. 2. 3. 4、大和町、幸町、昭和通り、住吉町、日吉町1. 2. 3、東国久保、西国久保、錦町1、永田町、弥生町、新青島、高島、エンゼル町、中央町老番館、吉原緑ヶ丘(芙蓉会)
今 泉 小	田宿、御殿、吹上、寺市場、市場、一の宮町1. 2. 3、立小路、栄町、富士見町、水の上、仲町、泉町、鍛冶町1. 2. 3、上和田町、吉原緑ヶ丘(芙蓉会を除く)、和田町1. 2、新橋、依田橋、駿河台1. 2. 3. 4、南仲町、北仲町、新富士見町、春日町
伝 法 小	宮川町、宮の上、三日市、長者町、伝法町1. 2(4-1組を除く)、3、中桁、上田端、田端町、吉原上中町、中村町、千代田町、瓜島、日乃出町、永田町老番館、サーパス永田町、旧伝法永田町地区、富士日乃出町
神 戸 小	神戸1. 2、今宮
元 吉 原 小	鈴川本町、鈴川町3. 4. 5、鈴川浜町東通り、鈴川浜町中通り、鈴川浜町西通り、今井本町、今井東町、今井毘沙門町、大野町、檜町、田中町、西田中町、柏原町1. 2. 3
東 小	浮島町1. 2. 3
須 津 小	中里町1. 2. 3. 4、中里新富町、中里八幡町、川尻町1. 2、神谷町1. 2. 3、増川町1. 2. 3、江尾町1. 2、中里寿町、中里曙町、神谷緑町
吉永第一小	富士岡入町、富士岡町1. 2. 3、富士岡本花守町、富士岡渋脇町、富士岡花守町、東比奈町1. 2. 3、中比奈町1. 2. 3、西比奈町1. 2. 3
吉永第二小	間門町、鶴無ヶ淵町1. 2、桑崎町、石井町、勢子辻、陽光台東、陽光台西、陽光台南
原 田 小	宇東川町1. 2. 3、宇東川本町、西滝川町、南滝川町、東滝川町、北滝川町、原田町1. 2. 3. 4、原田本町、吉原中島町1. 2、三ッ沢町1. 2. 3(3組を除く)
大淵第一小	大久保町、大淵町1. 2. 3、八王子町1. 2、八王子本町、穴原町1. 2、中野町1. 2、落合町、片倉町、三ッ倉町、大富町、次郎長町、境町、城山町、希望ヶ丘、大峯町、富士本中町、富士本西町
富士第一小	本市場1. 2. 3. 4、国久、塔の木、塔の木2、川原宿、藤間、蓼原1. 2. 3. 4. 5、十兵衛北、千寿町、柚木、平垣町2. 3、銀座町、平垣八幡町、富士本町、富士町、平垣町、平垣北町、水戸島上、浅間町(青葉通り南側)、橋下(3-1~3-10、4-1~4-9、5-1~5-8、6-1~6-5、7-1~7-9班)、松岡東
富士第二小	上横割、十兵衛南町、下横割南、下横割北、水戸島中、水戸島下、水戸島南町、四丁河原南、水戸島上南、橋下(8-1~8-6班)

田 子 浦 小	柳島、柳島日東、川成島、東宮島、新浜、中丸浜、小須、田子、鮫島、江川、前田新田、前田、宮島新田、助六、下川成、中丸丘
岩 松 小	浦町（身延線西側）、林町、新町、橋下（1-1～1-9、4-10、2-1～2-11班）、四丁河原上、四丁河原下、水神
鷹 岡 小	厚原西、久沢東、久沢西、久沢南、久沢北、鷹岡本町1. 2. 3、入山瀬東、入山瀬西、入山瀬天王町、入山瀬久保
広 見 小	広見町1. 2. 3. 4（県営住宅）、5. 6. 7. 8. 9、百合ヶ丘、桜ヶ丘町、美原町、若松町2、久保町、三ッ倉南町、石坂町1. 2. 3. 4、源太坂、伝法町2（4－1組）
丘 小	傘木、片宿、末広町、厚原中、厚原南、厚原北1. 2、厚原東1. 2. 3、傘木北
富士見台小	富士見台1. 2北. 2南. 3. 4東. 4西. 5. 6. 7. 8、三ッ沢町3（3組）
富 士 南 小	森島、宮下、西宮島、千鳥町、富士見ヶ丘、自由ヶ丘、上五貫島、下五貫島、三四軒屋、靖国町、浜添
天 間 小	天間南、天間川坂、天間田代、天間北1. 2 天間東
岩 松 北 小	四ッ家、上町、富士上中、富士下中、瀬戸河原、富士緑ヶ丘、東田、旭町、滝戸、湯沢平1. 2
富士中央小	青葉町、浅間町（青葉通り北側）、本市場新田、松本、富士中島上、富士中島下、中島新道町、浦町（身延線東側）、くすの木町
青 葉 台 小	木の宮町、西木の宮町、東木の宮、一色、荻の原、茶の木平、青葉台南、高山、若松町1. 3
富士川第一小	木島、岩淵、中之郷
富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二小学校）	南松野、北松野、中野台一丁目、中野台二丁目

イ 中学校

学校名	通 学 区 域	学校名	通 学 区 域
吉原第一中	吉原小学校区及び伝法小学校区	田 子 浦 中	田子浦小学校区
吉原第二中	今泉小学校区及び青葉台小学校区	岩 松 中	岩松小学校区及び岩松北小学校区
吉原第三中	吉永第一小学校区及び原田小学校区	富 士 南 中	富士第二小学校区及び富士南小学校区
元 吉 原 中	元吉原小学校区	鷹 岡 中	鷹岡小学校区及び天間小学校区
須 津 中	東小学校区及び須津小学校区	岳 陽 中	広見小学校区及び丘小学校区
大 淵 中	大淵第一小学校区	吉 原 北 中	神戸小学校区、吉永第二小学校区、富士見台小学校区
富 士 中	富士第一小学校区及び富士中央小学校区	富士川第一中	富士川第一小学校区
		富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二中学校）	富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二小学校）校区

ウ 特別支援学級

(7) 知的障害

学校名	通 学 区 域	学校名	通 学 区 域
吉 原 小	吉原小学校区	岩 松 小	岩松小学校区
今 泉 小	今泉小学校区	鷹 岡 小	鷹岡小学校区
伝 法 小	伝法小学校区	広 見 小	広見小学校区
神 戸 小	神戸小学校区	丘 小	丘小学校区
元 吉 原 小	元吉原小学校区	富士見台小	吉永第二小、富士見台小学校区
須 津 小	東小、須津小学校区	富 士 南 小	富士南小学校区
吉永第一小	吉永第一小学校区	天 間 小	天間小学校区
原 田 小	原田小学校区	岩 松 北 小	岩松北小学校区
大淵第一小	大淵第一小学校区	富士中央小	富士中央小学校区
富士第一小	富士第一小学校区	青 葉 台 小	青葉台小学校区
富士第二小	富士第二小学校区	富士川第一小	富士川第一小学校区
田 子 浦 小	田子浦小学校区	富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二小）	富士川第二小中一貫校 松野学園 （富士川第二小学校）校区

学校名	通 学 区 域
吉原第一中	吉原小、伝法小学校区
吉原第二中	今泉小、青葉台小学校区
吉原第三中	吉永第一小、原田小学校区
元吉原中	元吉原小学校区
須津中	東小、須津小学校区
大淵中	大淵第一小学校区
富士中	富士第一小、富士中央小学校区
田子浦中	田子浦小学校区

学校名	通 学 区 域
岩 松 中	岩松小、岩松北小学校区
富 士 南 中	富士第二小、富士南小学校区
鷹 岡 中	鷹岡小、天間小学校区
岳 陽 中	広見小、丘小学校区
吉 原 北 中	神戸小、吉永第二小、富士見台小学校区
富士川第一中	富士川第一小学校区
富士川第二中・貫校 松野学園 (富士川第二中)	富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二小学校) 校区

(イ) 自閉症・情緒障害

学校名	通 学 区 域
吉 原 小	吉原小学校区
今 泉 小	今泉小学校区
伝 法 小	伝法小学校区
神 戸 小	神戸小、吉永第二小、富士見台小学校区
須 津 小	東小、須津小学校区
元 吉 原 小	元吉原小学校区
吉 永 第 一 小	吉永第一小学校区
原 田 小	原田小学校区
大 淵 第 一 小	大淵第一小学校区
富 士 第 一 小	富士第一小、富士中央小学校区
富 士 第 二 小	富士第二小学校区
田 子 浦 小	田子浦小学校区
鷹 岡 小	鷹岡小学校区
広 見 小	広見小学校区
丘 小	丘小学校区
富 士 南 小	富士南小学校区
天 間 小	天間小学校区
岩 松 北 小	岩松小、岩松北小学校区
青 葉 台 小	青葉台小学校区
富 士 川 第 一 小	富士川第一小、富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二小学校) 校区
吉 原 第 一 中	吉原小、今泉小、伝法小学校区
吉 原 第 三 中	吉永第一小、原田小学校区
元 吉 原 中	元吉原小学校区
須 津 中	東小、須津小学校区
大 淵 中	大淵第一小学校区
富 士 中	富士第一小、富士中央小学校区
富 士 南 中	富士第二小、富士南小学校区
田 子 浦 中	田子浦小学校区
鷹 岡 中	岩松小、鷹岡小、天間小、岩松北小学校区
岳 陽 中	広見小、丘小、青葉台小学校区
吉 原 北 中	神戸小、吉永第二小、富士見台小学校区
富 士 川 第 一 中	富士川第一小、富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二小学校) 校区

(肢体不自由特別支援学級は市内全域を伝法小学校、富士中学校の学区とする。)

④ 特別支援学級

ア 小学校特別支援学級一覧

令和6年5月1日現在

学 校 名	児 童 数			学級		設置年度
	男	女	計	数	障害区分	
吉 原 小 学 校	8	5	13	2	知の学級	昭和45年
	7	1	8	1	自・情緒学級	平成4年
今 泉 小 学 校	15	1	16	3	知の学級	昭和46年
	5	1	6	1	自・情緒学級	令和6年
伝 法 小 学 校	6	2	8	1	知の学級	昭和27年
	9	1	10	2	肢体学級	平成23年
	1	1	2	1	自・情緒学級	令和4年
神 戸 小 学 校	2	0	2	1	知の学級	平成29年
	2	1	3	1	自・情緒学級	令和3年
元吉原小学校	3	4	7	1	知の学級	昭和46年
	2	0	2	1	自・情緒学級	令和5年
須 津 小 学 校	10	3	13	2	知の学級	平成4年
	4	2	6	1	自・情緒学級	平成27年
吉永第一小学校	3	5	8	1	知の学級	平成27年
	1	1	2	1	自・情緒学級	平成27年
原 田 小 学 校	6	1	7	1	知の学級	昭和36年
	3	2	5	1	自・情緒学級	令和2年
大淵第一小学校	8	3	11	2	知の学級	昭和50年
	5	0	5	1	自・情緒学級	平成23年
県立吉原林間学園	15	8	23	4	自・情緒学級	昭和37年
富士第一小学校	6	4	10	2	知の学級	昭和44年
	7	0	7	1	自・情緒学級	平成30年
富士第二小学校	4	7	11	2	知の学級	昭和34年
	4	1	5	1	自・情緒学級	平成21年
田子浦小学校	8	1	9	2	知の学級	昭和39年
	4	1	5	1	自・情緒学級	令和4年
岩 松 小 学 校	2	3	5	1	知の学級	昭和39年
鷹 岡 小 学 校	3	3	6	1	知の学級	昭和36年
	1	0	1	1	自・情緒学級	令和6年
広 見 小 学 校	8	5	13	2	知の学級	昭和60年
	5	3	8	1	自・情緒学級	平成5年
丘 小 学 校	13	4	17	3	知の学級	平成29年
	6	0	6	1	自・情緒学級	令和2年
富士見台小学校	10	3	13	2	知の学級	平成24年
富 士 南 小 学 校	15	2	17	3	知の学級	平成18年
	10	1	11	2	自・情緒学級	令和3年
天 間 小 学 校	2	0	2	1	知の学級	平成26年
	3	2	5	1	自・情緒学級	平成28年
岩松北小学校	6	6	12	2	知の学級	平成21年
	9	1	10	2	自・情緒学級	令和2年
富士中央小学校	7	3	10	2	知の学級	令和2年
青 葉 台 小 学 校	6	2	8	1	知の学級	令和元年
	4	2	6	1	自・情緒学級	令和6年
富士川第一小学校	2	2	4	1	知の学級	昭和39年
	2	1	3	1	自・情緒学級	平成14年
富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二小学校)	7	3	10	2	知の学級	平成29年
計	269	102	371	69		

イ 中学校特別支援学級一覧

令和6年5月1日現在

学 校 名	生 徒 数			学級		設置年度
	男	女	計	数	障害区分	
吉原第一中学校	7	3	10	2	知的学級	昭和29年
	5	1	6	1	自・情緒学級	平成14年
吉原第二中学校	5	3	8	1	知的学級	昭和49年
吉原第三中学校	8	5	13	2	知的学級	平成28年
	6	0	6	1	自・情緒学級	令和5年
元吉原中学校	1	1	2	1	知的学級	令和元年
	1	0	1	1	自・情緒学級	令和6年
須津中学校	5	5	10	2	知的学級	平成7年
	2	1	3	1	自・情緒学級	平成28年
大淵中学校	7	8	15	3	知的学級	平成17年
	0	0	0	0	自・情緒学級	平成26年
県立吉原林間学園	7	3	10	2	自・情緒学級	昭和58年
富士中学校	10	2	12	2	知的学級	昭和41年
	7	1	8	1	自・情緒学級	令和2年
	2	2	4	1	肢体学級	平成28年
田子浦中学校	6	4	10	2	知的学級	昭和48年
	0	2	2	1	自・情緒学級	令和5年
岩松中学校	2	2	4	1	知的学級	昭和42年
富士南中学校	10	4	14	2	知的学級	昭和37年
	2	0	2	1	自・情緒学級	令和4年
鷹岡中学校	6	1	7	1	知的学級	昭和38年
	1	1	2	1	自・情緒学級	平成29年
岳陽中学校	4	6	10	2	知的学級	平成5年
	2	1	3	1	自・情緒学級	平成19年
吉原北中学校	3	2	5	1	知的学級	平成25年
	2	0	2	1	自・情緒学級	令和6年
富士川第一中学校	2	0	2	1	知的学級	昭和42年
	3	1	4	1	自・情緒学級	平成16年
富士川第二小中一貫校 松野学園 (富士川第二中学校)	2	3	5	1	知的学級	令和4年
計	118	62	180	38		

※令和6年度は、今泉小学校、鷹岡小学校、青葉台小学校、元吉原中学校、吉原北中学校に特別支援学級（自閉・情緒）を新設した。

⑤ 学校体育

ア 小学校（令和6年度）

事業名	期間	参加校	会場	内容
体力アップコンテスト	令和6年5月 ～令和7年1月	26校	各小学校	みんなで8の字とび・ドッジボールラリー・ジャンプ・リレー・ダンス等

イ 中学校（令和6年度）

事業名	期間	参加人員	会場	内容
大 会	6/29～ 9/21 ※5/1 現在	約5,000人	富士総合運動公園 他	野球・ソフトボール・ソフトテニス・バレーボール・卓球・バスケットボール・サッカー・剣道・水泳・陸上競技・駅伝

ウ 富士市小中学校 新体力テストの結果

小学校（令和５年度）

	５年生		６年生	
	男子	女子	男子	女子
握力(kg)	16.52	16.81	19.49	19.60
上体起こし(cm)	△17.96	△17.44	△20.31	△18.21
長座体前屈(cm)	△32.61	△37.01	△35.46	△40.71
反復横とび(回)	△39.11	△37.18	△43.04	△39.54
20mシャトルラン(回)	△45.55	△36.77	△54.75	△40.19
50m走(秒)	△9.54	△9.76	△9.03	△9.39
立ち幅とび(cm)	△150.58	△144.11	△160.48	△146.73
ソフトボール投げ(m)	△19.71	△13.24	△22.59	△14.52

○県と全国の平均を上回っている。 △県と全国の平均を下回っている。

中学校（令和５年度）

	１年生		２年生		３年生	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
握力(kg)	○27.85	○23.93	31.85	○25.41	○37.74	○26.98
上体起こし(cm)	23.93	△19.73	△26.50	△20.90	○30.02	△23.45
長座体前屈(cm)	○45.24	○46.79	○47.41	○50.20	○54.92	○55.47
反復横とび(回)	△49.65	△44.51	△51.73	△45.15	△55.88	△46.42
持久走(秒)	424.44	○305.25	○396.34	△299.84	△387.19	297.02
50m走(秒)	○8.20	○8.95	○7.76	△8.81	○7.25	○8.58
立ち幅とび(cm)	○195.93	○170.71	○209.66	173.34	○223.26	○178.56
ハンドボール投げ(m)	○19.36	○12.24	○22.01	13.33	○25.79	○14.89

○県と全国の平均を上回っている。 △県と全国の平均を下回っている。

⑥ 学校保健

ア 重点目標

教育活動全体の中で進める健康・安全教育の推進

(7) 体力の向上

子ども自らが挑む身体活動（一人一人にめあてを持たせる）

体力作りの中核となる体育学習（活発な身体活動の実践）

(4) 保健指導

生活に生かされる指導（実践の具体的な方法を見つけさせる）

習慣化を図る指導（継続的に繰り返し、保護者との連携を取る）

(7) 安全指導

実践に結びつく指導（訓練や練習の場を作る）

避難訓練の充実（多様な場面を計画的に設定）

イ 健康・安全の指導に関すること

(7) 学校保健：学校感染症等の事後処理、保健主事・養護教諭研修会、医薬品等の購入・配布

(4) 学校環境衛生：学校環境衛生の諸検査・水質検査（上水道の日常検査、プール水の検査）

(7) 統計調査研究：研究資料の作成（スポーツ振興センター・学校保健・学校環境衛生）

(1) 児童・生徒及び教職員の健康診断：児童生徒の諸検査（尿・歯・心臓病検診・小児生活習慣病予防他）、教職員の健康診断、事後措置の徹底

(7) 学校医・学校歯科医・学校薬剤師：委嘱・職務準則

(7) 自然教室事業：みどりの学校・健康教室の実施

(7) 学校保健会：学校保健会理事会、県学校保健大会、講演会開催

(7) スポーツ振興センター：給付契約・災害給付申請・支払い・保護者負担金徴収事務

ウ 小・中学校在学者の体位比較（身長・体重）

令和5年度

区分			男			女		
			全国	県	富士市	全国	県	富士市
身長 (cm)	小学校	1年	117.0	116.6	116.8	116.0	115.7	115.8
		2年	122.9	122.6	122.8	122.0	121.3	121.9
		3年	128.5	128.3	128.8	128.1	127.6	128.0
		4年	133.9	133.5	134.2	134.5	134.1	134.2
		5年	139.7	139.0	139.5	141.4	140.8	141.7
		6年	146.1	145.8	145.9	147.9	147.4	147.3
	中学校	1年	154.0	153.5	154.0	152.2	151.9	151.9
		2年	160.9	160.5	160.9	154.9	154.8	154.8
		3年	165.8	165.3	166.1	156.5	156.2	155.9
体重 (kg)	小学校	1年	21.8	21.3	21.4	21.3	20.9	20.9
		2年	24.6	24.5	24.2	24.0	23.6	23.9
		3年	28.0	27.6	27.8	27.3	26.9	27.0
		4年	31.5	31.1	31.7	31.1	30.6	30.7
		5年	35.7	35.0	35.2	35.5	34.9	35.5
		6年	40.0	39.9	40.1	40.5	39.9	40.1
	中学校	1年	45.7	45.2	45.3	44.5	44.1	44.3
		2年	50.6	49.6	50.0	47.7	47.3	47.9
		3年	55.0	54.7	55.2	49.9	49.3	49.3

※国、県平均は令和4年度平均値

エ 災害の種類別発生状況（件）

令和5年度

区分	骨折	捻挫	脱臼	挫傷・打撲	靱帯損傷・断裂	挫創	切創・刺創	割創・裂創	擦過傷	熱傷・火傷	歯牙破折	その他	合計
小学校	114	73	13	239	6	32	8	9	9	2	10	58	573
中学校	128	79	6	133	12	10	4	3	3	4	0	33	415
高等学校	18	23	4	18	7	0	1	0	1	0	1	10	83
合計	260	175	23	390	25	42	13	12	13	6	11	101	1071

オ 災害発生の場所（件）

令和5年度

校 種 別 場 所 別		小学校	中学校	高等学校	合 計
学 校 内	教 室	136	35	0	171
	実 習 実 験 室	10	3	0	13
	体 育 館 ・ 屋 内 運 動 場	82	174	22	278
	講 堂	1	1	0	2
	遊 戯 室	0	0	0	0
	廊 下	17	14	0	31
	昇 降 口 ・ 玄 関	14	2	0	16
	階 段	24	8	0	32
	ベ ラ ン ダ	0	0	0	0
	屋 上	0	0	0	0
	便 所	3	2	0	5
	そ の 他	1	0	0	1
	小 計	288	239	22	549

	校 舎 外	運 動 場 ・ 校 庭	191	132	41	364
		プ ル	9	3	0	12
		排 水 溝	0	0	0	0
		手 足 洗 場	0	0	0	0
		水 飲 み 場	2	0	0	2
		農 場	2	0	0	2
		そ の 他	2	1	1	4
		小 計	206	136	42	384
学 校 外		道 路	71	9	9	89
		公 園 ・ 遊 園 地	2	0	0	2
		運 動 場 ・ 競 技 場	0	17	5	22
		体 育 館	0	12	4	16
		山 林 野	0	0	0	0
		海 ・ 湖 ・ 沼 ・ 池	0	0	0	0
		河 川	1	0	0	1
		そ の 他	5	2	1	8
		小 計	79	40	19	138
合 計		573	415	83	1071	

カ 災害発生の時

令和5年度

区分	内容	小学校		中学校		高等学校		合 計	
		件数	率 (%)	件数	率 (%)	件数	率 (%)	件数	率 (%)
各教科等	各教科、総合的な学習の時間等	195	34.0	172	41.4	7	8.4	374	34.9
特別活動 (除学校行事)	学級（ホームルーム）活動、給食指導、日常の清掃、クラブ活動等	40	7.0	19	4.6	0	0	59	5.5
学校行事	運動会・体育祭、遠足、修学旅行、その他集団宿泊的行事等	6	1.0	16	3.9	5	6.0	27	2.5
課外指導	部活動、林間学校等	0	0	153	36.9	63	75.9	216	20.2
休憩時間	昼食時休憩時間中、始業前・授業終了後の特定時間中等	260	45.4	46	11.1	1	1.2	307	28.7
通学中	登校中、下校中等	72	12.6	9	2.2	7	8.4	88	8.2
合 計		573		415		83		1071	

※件数は、給付申請があったもの。

※率は、小数第二位を四捨五入して算出。

⑦ 学校給食

ア 重点目標 心を育む楽しい給食

(7) ゆとりある給食時間：落ちついた雰囲気です食事を楽しむ

(イ) 全校職員の共通理解に基づいた給食指導：安全指導・衛生的な習慣・食事マナー

(ウ) 楽しい給食時間の工夫：心ひらく時間の中で食物と健康に関心を持つ



R5 ふじっぴー給食

地場産品の使用率を高め、児童生徒の静岡県への愛着を育むための給食

イ 学校給食の概要

(7) 給食実施の沿革

- 昭和23年 ミルク給食、みそ汁給食開始
- 昭和33年 週5回のパン・牛乳・おかずの完全給食に切り替え始まる。
- 昭和44年 ソフト麺導入
- 昭和47年 小・中学校全校で完全給食が実施される。
- 昭和48年 富士市学校給食会設立
- 昭和55年 米飯給食週2回実施
- 昭和56年 第1回富士市学校給食展開催
- 昭和62年 米飯給食週2.5回全校実施・ポリプロピレン食器導入
- 平成2年 岩松小に初めてランチルーム設置・富士市学校給食検討委員会設立
- 平成4年 全校で米飯給食週3回実施・焼物機導入
- 平成12年 生ゴミ処理機導入開始（伝法小・富士南中学校から）
- 平成13年 真空冷却機導入開始・給食作業にドライ運用導入
- 平成20年 完全ドライ方式の給食棟が伝法小学校に建つ。（9月～）
11月1日合併により富士川学校給食センター（小2校・中2校）が加わる。
- 平成21年 学校における食育の推進（学校給食法改正）
- 平成25年 生ゴミ処理プラントによるリサイクル処理開始
- 平成28年 完全ドライ方式の給食室を岩松小学校改築に合わせ整備
- 令和2年 富士市学校給食運営審議会設立
- 令和5年 学校給食費の公会計化開始

(イ) 学校給食の指導に関すること

- 学校給食の指導—栄養士未配置校への定期訪問、給食施設・設備の点検並びに衛生管理指導
- 栄養士・調理員の研修指導—栄養教諭・学校栄養職員研修会、調理主任研修会、調理員実技研修、正規調理員研修
- 栄養士・調理員の健康管理—保菌検査・学校給食日常点検表の実施指導
- 調査統計—学校給食調査、給食施設台帳整備、朝食調査、地場産品使用状況調査等
- 給食施設・設備—備品の把握・購入・修繕に関すること
- 富士市学校給食運営審議会—学校給食の運営に関すること、給食費に関すること

ウ 実施状況

令和6年度

区 分	小 学 校	中 学 校
実 施 校	24 校 (単独校調理場方式)	13 校 (単独校調理場方式)
	2 校 (共同調理場方式)	2 校 (共同調理場方式)
栄 養 士	19 人 (内栄養教諭 8 人)	5 人 (内栄養教諭 3 人)
調 理 員	137 人	73 人
	13 人 (富士川学校給食センター)	
給食予定回数	180 回	
米飯実施状況	週 3.0 回	
一食当たり単価	329 円 (299 円)※	389 円 (354 円)※

※ () は、R5 年度から 1 食当たり単価のうち 10%公費負担分を減じた額

エ 学校給食費の移り変わり

年度		H12～17	H18	H19	H20 (10 月～)	H21 (センター)	H22～27 (センター)	H28～30 (センター)	R1～4 (センター)	R5～ (保護者負担分)
給食費 月額 円	小学校	4,000	4,000	4,000	4,000 (4,500)	4,500 (4,300)	4,500 (4,300)	4,500 (4,300)	4,900 (4,700)	4,935 (4,485)
	中学校	4,740	4,740	4,740	4,740 (5,340)	5,340 (5,100)	5,340 (5,100)	5,340 (5,100)	5,800 (5,560)	5,835 (5,310)
一食当たり 単価 円	小学校	243	242	243	243 (274)	274 (261)	272 (260)	275 (263)	299 (287)	329
	中学校	288	287	288	288 (325)	325 (310)	323 (308)	326 (312)	354 (340)	389
年間給食回数 回		181	182	181	181	181	182	180	180	180

オ 児童・生徒の栄養摂取状況

令和6年5月

区 分	栄 養 量			
	小 学 校 (中学年)		中 学 校	
	基 準	富 士 市	基 準	富 士 市
エネルギー kcal	640	616	830	760
たんぱく質 g	21.1～32.5	25.3	27.0～41.5	30.5
脂 肪 g	14.4～21.7	22.0	18.4～27.7	26.2
カルシウム mg	350	324	450	344
鉄 分 mg	3.0	2.9	4.5	3.5
ビタミンA (μgRE)	200	221	300	266
ビタミンB ₁ mg	0.40	0.45	0.50	0.58
ビタミンB ₂ mg	0.40	0.54	0.60	0.60
ビタミンC mg	25	35	35	41
食 物 繊 維 g	4.5 以上	4.5	7.0 以上	5.7

カ 児童生徒の食品摂取状況 (g) 米飯週3回食

令和6年5月

区 分	小 学 校 (中学年)		中 学 校	
	基 準	富 士 市	基 準	富 士 市
米・大麦等	46	41.8	66	58.6
小麦粉 (パン・めん他)	17	17.4	28	20.4
魚介類・獣鳥類・卵類	37	47.2	52	60.6
乳 類	210	216.6	212	219.0
豆 類・豆 製 品	21	4.8	24	6.1
い も 及 び 澱 粉	30	14.1	35	17.6
野 菜・きのこ類	97	86.3	121	109.0
果 実 類	32	3.7	40	3.8
油 脂 類	3.0	5.4	4.0	6.7
砂 糖 類	3.0	6.6	4.0	7.8
種 実 類	3.0	0.4	3.5	0.5
藻 類	2.0	1.3	4.0	1.7

(2) 特別支援学校

① 富士市内特別支援学校一覧

令和6年5月1日現在

学校名	区分	所在地	電話番号	開校年月	児童生徒数 (人)	教員数 (人)
静岡県立富士特別支援学校 (小学部)	大淵 3773 番地の 1	36-2345	平成 2 年 4 月		102	73
静岡県立富士特別支援学校 (中学部)					72	40
静岡県立富士特別支援学校 (高等部)				平成 3 年 4 月	80	48
静岡県立富士特別支援学校富士東分校	今泉 2921 番地	21-2002	令和 5 年 4 月		24	12
計					278	173

※富士特別支援学校には、小学部・中学部・高等部全体に対し、校長・副校長・教頭・栄養教諭・養護教諭 2 人、計 6 人が在籍している。上記の表には入っていない。

(3) 高等学校

① 富士市内高等学校一覧

令和6年5月1日現在

学校名	区分	所在地	電話番号	開校年月	生徒数（人）		学級数	教員数（人）
富士市立高等学校		比奈 1654 番地	34-1024	昭和37年 4 月	全日制	678	18	78
静岡県立吉原工業高等学校		比奈 2300 番地	34-1045	昭和32年 4 月	全日制	360	14	57
静岡県立吉原高等学校		今泉 2160 番地	52-1440	明治42年 4 月	全日制	500	14	39
静岡県立富士東高等学校		今泉 2921 番地	21-4371	昭和53年 4 月	全日制	570	14	43
静岡県立富士高等学校		松本 17 番地	61-0100	大正12年 4 月	全日制	833	21	53
					定時制	90	5	9
富士見高等学校（私立）		平垣町 1 番 1 号	61-0250	昭和 3 年 4 月	全日制	1,076	35	89
計					4,107		121	368

② 富士市立高等学校

ア 学校の概要

校 長 櫻井 祥行

所在地 静岡県富士市比奈 1654 番地

位 置 東経 38° 43' 43" 北緯 35° 9' 50" 海拔 27m

課 程 全日制 男女共学

学 科 総合探究科・ビジネス探究科・スポーツ探究科

創 立 昭和 37 年 4 月 1 日

イ 校地

区 分	建物敷地	運動場	第二運動場	テニスコート	プール	その他	合 計
面積 (㎡)	14,928	14,450	19,105	2,574	1,795	4,112	56,964

ウ 主な施設

区 分	校舎棟	特別教室棟	体育館	錬成館	秀麗館	室内練習場
面積 (㎡)	8428.19	2310.42	3808.66	1116.89	702.04	498.00



校 舎



運 動 場

エ 学校の沿革

昭和 36 年 3 月 17 日	吉原市立商業高等学校設置、吉原市議会にて議決、定員 200 人(商業科 5 クラス)
昭和 37 年 4 月 1 日	吉原市立商業高等学校設立認可(静岡県)
昭和 37 年 4 月 10 日	開校並びに入学式、新入生 244 人、翌 11 日より穆清中学にて授業開始
昭和 37 年 11 月 27 日	校舎落成式
昭和 38 年 4 月	定員 300 人(商業科 7 クラス)
昭和 41 年 4 月	普通課程併設、定員 350 人(普通科 2 クラス、商業科 6 クラス)
昭和 41 年 11 月 1 日	合併に伴い、富士市立吉原商業高等学校となる
昭和 45 年 7 月	校歌制定
昭和 46 年 4 月	定員 360 人(商業科 8 クラス)
昭和 47 年 4 月	普通科廃止
昭和 48 年 4 月	小学科制発足、定員 360 人(営業科 2、経理科 2、事務科 4 クラスの 3 科を設置)
昭和 50 年 3 月	商業棟竣工
昭和 61 年 4 月	小学科制解消、定員 360 人(商業科 A コース 6、商業科 B コース 1、情報処理コース 1 クラスの 3 コースに変更)、制服制定
昭和 63 年 4 月	小学科制廃止
平成元年 3 月	第二運動場(野球場)落成
平成 2 年 4 月	総合実践コンピューター導入、定員 450 人(商業科 A コース 6、商業科 B コース 1、情報処理コース 2 クラス)
平成 3 年 4 月	定員 360 人(商業科 A コース 5、商業科 B コース 1、情報処理コース 2 クラス)
平成 5 年 3 月	新校舎竣工
平成 5 年 9 月	新校舎落成式
平成 6 年 4 月	定員 336 人(商業経済コース 5、進学コース 1、情報処理コース 2 クラスに変更)
平成 7 年 4 月	定員 328 人
平成 8 年 4 月	定員 320 人
平成 9 年 10 月	創立 35 周年記念式典挙行
平成 11 年 4 月	校内ネットワーク導入、定員 320 人(商業経済コース 4、進学コース 1、情報処理コース 3 クラスに変更)
平成 14 年 4 月	定員 280 人(商業経済コース 4、進学コース 1、情報処理コース 2 クラスに変更)
平成 15 年 4 月	定員 280 人(ビジネスコース 4、進学コース 1、情報処理コース 2 クラスに変更)
平成 16 年 4 月	定員 240 人(ビジネスコース 3、進学コース 1、情報処理コース 2 クラスに変更)
平成 19 年 5 月	重層屋内運動場竣工
平成 20 年 4 月	定員 200 人
平成 21 年 4 月	定員 240 人
平成 21 年 6 月	富士市立高等学校開設準備室設置
平成 21 年 9 月	寄宿舎(秀麗館)竣工
平成 22 年 9 月	全天候型(人工芝)運動場改修
平成 23 年 4 月	富士市立高等学校に名称変更、定員 240 人(総合探究科 3、ビジネス探究科 2、スポーツ探究科 1 クラスの 3 学科を設置)、制服改定
平成 23 年 4 月	富士市立高等学校教育推進室設置
平成 23 年 11 月	創立 50 周年記念式典挙行
平成 25 年 3 月	商業科閉科
平成 25 年 6 月	学校運営協議会設置
平成 25 年 7 月	新錬成館竣工
平成 30 年 3 月	テニスコート(砂入り人工芝)・照明灯改修
令和 2 年 3 月	感染症対策により臨時休校措置がとられる
令和 2 年 5 月	在宅生徒とのオンラインによるホームルームや授業形式の学習を行う
令和 5 年 1 月	校内 LAN 環境整備
令和 5 年 4 月	全生徒へタブレット型パソコンを貸与
令和 6 年 3 月	校内照明・グラウンド照明 LED 化
令和 6 年 4 月	教員の多忙化解消及びテスト結果の有効活用のため、テスト自動採点支援システムを導入

オ 生徒数

令和6年5月1日現在

学年 科	1 年				2 年				3 年				合 計			
	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計
総合探究	3	67	54	121	3	51	56	107	3	48	55	103	9	166	165	331
ビジネス探究	2	25	55	80	2	24	55	79	2	22	42	64	6	71	152	223
スポーツ探究	1	35	7	42	1	33	9	42	1	30	10	40	3	98	26	124
合計	6	127	116	243	6	108	120	228	6	100	107	207	18	336	343	678

カ 出身中学校別生徒数

令和6年5月1日現在

出身中学校	学 年			計
	1 年	2 年	3 年	
吉 原 一	14	18	8	40
吉 原 二	33	22	21	76
吉 原 三	10	10	9	29
元 吉 原	6	2	2	10
吉 原 東	5	7	12	24
須 津	16	22	20	58
大 淵	9	5	10	24
富 士	13	12	3	28
富 士 南	5	2	9	16
田 子 浦	8	7	8	23
岩 松	9	6	4	19
鷹 岡	5	2	4	11
岳 陽	25	28	23	76
吉 原 北	22	19	19	60
富 士 川 一	4	1	0	5
富 士 川 二	2	0	0	2
富 士 見	0	1	0	1
市 内 計	186	164	152	502
富 士 宮 市	1	6	6	13
沼 津 市	14	19	19	52
静 岡 市	2	9	5	16
上 記 外 県 内 市 町	17	9	10	36
県 外	23	21	15	59
市 外 計	57	64	55	176
総 計	243	228	207	678

キ 進路状況

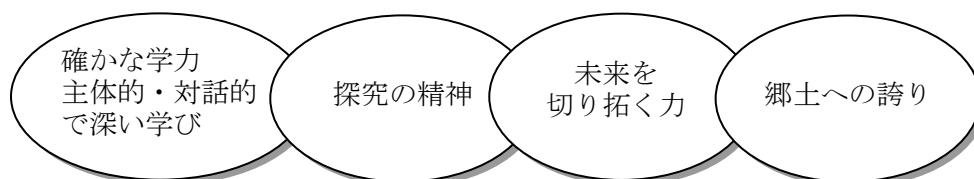
令和6年5月1日現在

区分		年度	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
大学	四年制大学		58	47	105	89	31	120	76	23	99
	短期大学		3	12	15	0	14	14	0	9	9
専修・各種学校			24	48	72	17	41	58	20	37	57
就職	民 間		3	19	22	6	18	24	8	15	23
	公務員		3	0	3	2	1	3	3	0	3
進 学 準 備			3	0	3	1	0	1	3	2	5
そ の 他			1	0	1	1	2	3	1	1	2
計			95	126	221	116	107	223	111	87	198

ク 教育方針

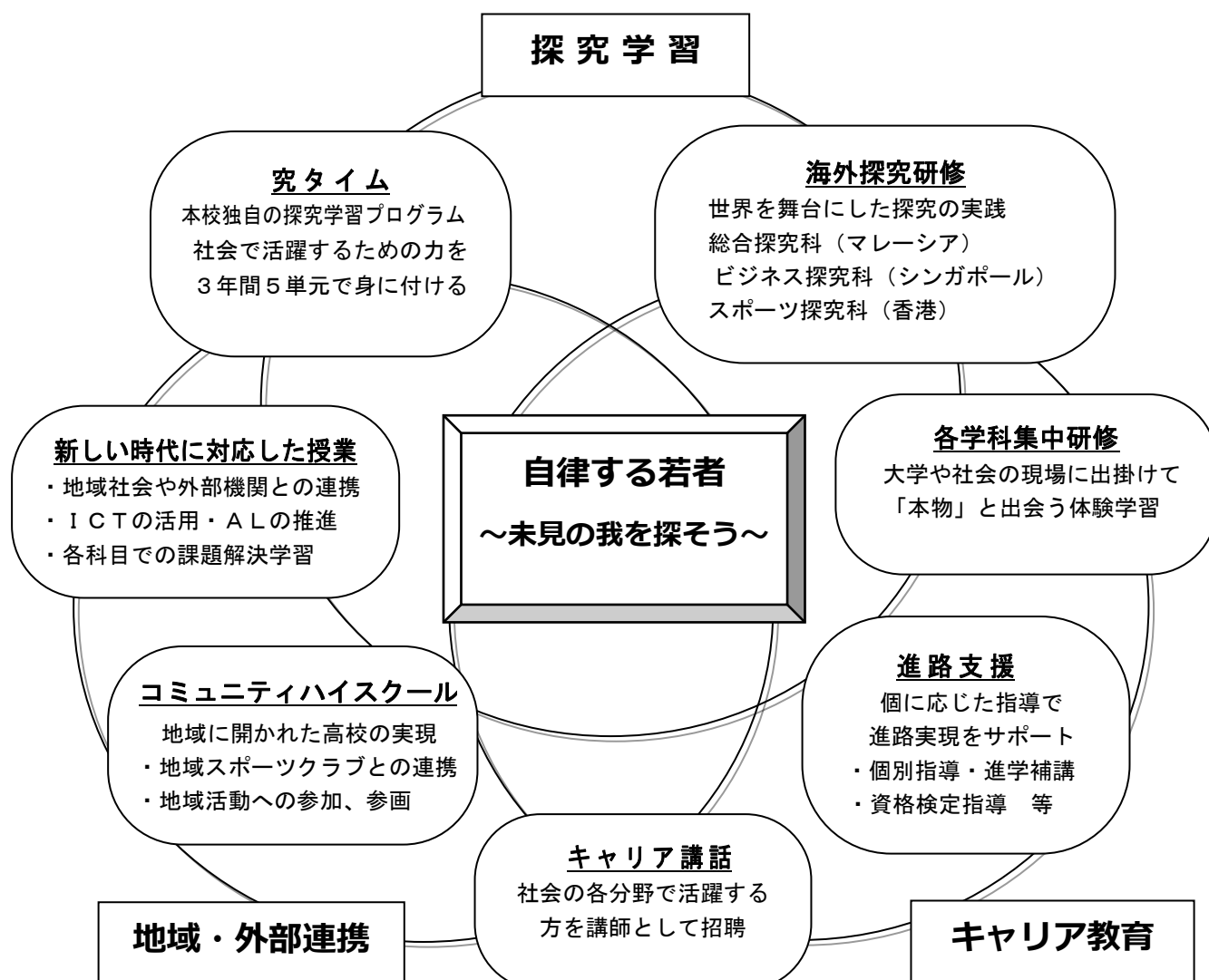
(ア) 本校のコンセプト：C D I

郷土愛を胸に、夢の実現にチャレンジし、様々な世界で活躍する若者を育成する。



- **Community** (コミュニティハイスクール)
地域、学校との連携を図り「自律する若者」を育てる高校
- **Dream** (ドリカムハイスクール)
夢を持ち続け、生涯にわたって学び続ける力をはぐくむ夢実現高校
- **Inquiry** (探究ハイスクール)
物事の本質を追究し、自分自身と向かい合い、向上心と探究心に満ちた高校

(イ) 特徴ある教育スタイル



ケ 目指す学校像

(7) 教育目標

自律する若者の育成

CDI（「コミュニティハイスクール」、「ドリカムハイスクール」、「探究ハイスクール」）の実現に向け、自然と地域を愛し、富士市や社会に貢献できる人材を輩出する。

- ・コミュニティハイスクール
人との関わりを大切にし、地域社会で主体的に活躍する生徒を育てる
- ・ドリカムハイスクール
人生の目標や夢を持ち、その実現に向けて挑戦する生徒を育てる
- ・探究（インクワイアリー）ハイスクール
探究の見方と考え方を働かせ、本質を追求し、課題を解決する生徒を育てる

(イ) 教育目標具現化の柱

- ・ 基本的生活習慣、社会人としての資質・能力を身に付けるため、授業や部活動、学校行事の充実を図り、「豊かな人間性」や「良好な人間関係」を育てる学校（主体性、協働する力）
- ・ キャリア教育を推進することにより、生徒が夢を持ち、「確かな学力」を身に付けることで、進路実現を支援する学校（チャレンジ精神、実行力）
- ・ 魅力ある専門教育と学科の特色を活かし、教育課程の充実に努め、「主体的・対話的で深い学び」による「魅力ある授業」を展開できる学校（論理的思考力、傾聴力、課題解決力）
- ・ 家庭・PTA・地域と連携した教育活動を推進し、「社会に開かれた教育」を実現するとともに、保護者や地域から信頼される学校
- ・ 教育環境の整備・充実及び予算の適正かつ効率的な執行を目指す学校



国内探究（海外代替）研修

総合探究科：立命館アジア太平洋大学での研修（大分県別府市）



国内探究（海外代替）研修

ビジネス探究科：ハウステンボスでの研修（長崎県佐世保市）



国内探究（海外代替）研修

スポーツ探究科：幻の島でのマリンスポーツアクティビティ（沖縄県石垣市）



中学生一日体験入学

900人を超える参加者（中学生とその保護者）を迎える



市役所プランの実現

LGBTQの啓発活動について取材を受け、情報誌「きらり」に掲載



Def キッズサッカー教室

視覚障害のある子どもたちにスポーツに親しむ機会を提供

【(関連事業) 幼稚園】

市立幼稚園では、小学校以降の教育とは異なり、教科書を使わず、遊びを通しての総合的な指導を行っている。幼児期に思い切り遊ぶことで、その後の学びや創造性が豊かになることが、文部科学省の幼稚園教育要領に示されている。子ども自らが興味や関心をもち、身の回りの「ひと・もの・こと」に関わりながら「遊び」を展開することは、小学校以降で育もうとする「生きる力」の基盤になる。

本市では、機構改革により、平成20年度に市立幼稚園が教育委員会から市長事務部局保育幼稚園課へ移管された。現在は、関連事業として連携を図っている。

① 園児及び教職員数

令和6年5月1日現在

ア 市立幼稚園、認定こども園 (子ども・子育て支援法第19条第1項：第1号第2号に規定されている子どもの数)

園 名	学級	総数			3歳児			4歳児			5歳児			教員	職員	計
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
昭和	3	28	24	52	7	3	10	8	15	23	13	6	19	11	1	12
田子浦	6	50	46	96	13	13	26	22	16	38	15	17	32	19	1	20
岩松	3	28	26	54	7	8	15	11	11	22	10	7	17	11	1	12
天間	3	30	17	47	12	4	16	5	8	13	13	5	18	9	1	10
富士川第一	2	4	6	10	2	3	5	0	0	0	2	3	5	6	0	6
松野	6	56	30	86	14	6	20	20	10	30	21	15	36	29	1	30
公立計	23	196	149	345	55	37	92	66	60	126	74	53	127	85	5	90

イ 私立幼稚園、認定こども園

園 名	学級	総数			3歳児			4歳児			5歳児			教員	職員	計
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
吉原聖母	4	41	41	82	16	7	23	13	17	30	12	17	29	9	1	10
鈴川	3	20	15	35	4	5	9	11	2	13	5	8	13	13	4	17
須津	7	55	48	103	11	16	27	18	16	34	26	16	42	23	3	26
いまいづみ	9	99	104	203	24	37	61	35	35	70	40	32	72	21	2	23
曙	10	106	104	210	29	40	69	41	31	72	36	33	69	39	7	46
神戸	6	29	21	50	7	8	15	9	7	16	13	6	19	16	2	18
富士ふたば	12	149	124	273	47	39	86	53	50	103	49	35	84	38	5	43
たかおか	9	79	83	162	41	22	63	20	24	44	26	29	55	37	6	43
するが	13	148	131	279	40	46	86	51	38	89	57	47	104	26	1	27
わかば	9	71	78	149	20	36	56	26	15	41	25	27	52	34	4	38
富士リズム	11	96	91	187	27	29	56	29	26	55	40	36	76	21	6	27
ゆきよし	6	46	46	92	14	15	29	16	14	30	16	17	33	13	2	15
藤田	6	54	50	104	11	16	27	25	11	36	18	23	41	10	2	12
みのる	7	65	51	116	20	18	38	22	17	39	23	16	39	23	10	33
富士中央	4	50	45	95	19	16	35	17	17	34	14	12	26	23	0	23
富士光明	6	53	56	109	19	20	39	14	21	35	20	15	35	15	2	17
さくら台	6	48	41	89	17	9	26	14	16	30	17	16	33	28	2	30
富士ふたばこども園	3	25	36	61	11	13	24	9	14	23	5	9	14	21	1	22
私立計	131	1234	1165	2399	377	392	769	423	371	794	442	394	836	410	60	470

② 市立幼稚園・こども園一覧

園 名	所 在 地	創 立 年 月	敷地(㎡)	建物面積(㎡)
昭和幼稚園	比奈160番地	昭和27年4月	5,564	1,309
田子浦幼稚園	川成島138番地の10	昭和28年4月	4,573	1,449
岩松幼稚園	松岡804番地	昭和27年4月	4,013	1,415
天間幼稚園	天間1047番地の10	昭和47年4月	3,590	959
富士川第一幼稚園	岩淵107番地	大正15年6月	821	469
松野こども園	北松野1825番地の10	平成28年4月	4,763	1,046

③ 教育・研修

ア 指定園研修

富士市立立富士川第一幼稚園（令和5年度～令和6年度）

研究テーマ「自分の思いや考えを表現できる子を育む～園小を滑らかにつなぐ～」

イ 指定研修のあゆみ（平成27年度以降）

園 名	主 題	指定年度
田子浦幼稚園	人との関わりの中で、たくましい心を育てる ～異年齢の関わりの中で～	平成27～28年度
昭和幼稚園	思いを伝え合って遊びを楽しむ子にするための援助の工夫	平成29～30年度
岩松幼稚園	豊かなことばを目指して ～思いを出し合える仲間になるための環境の工夫～	令和元～2年度
原田幼稚園	主体的な子どもを育む環境構成～少人数の良さを生かした保育～	令和3～4年度

④ 市立幼稚園児の体位

令和6年度

区 分		身長（cm）			体重（kg）		
		3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳
平 均	男	95.9	103.7	111.2	14.6	16.7	18.9
	女	96.4	102.4	109.5	14.5	16.2	18.5

⑤ ことばの教室

就学前のことばの発達が気になる子、発音が気になる子、吃音が気になる子など、ことばにまずきのある幼児の相談や指導を行う。市内の幼稚園、保育園及び家庭などから通級可能。昭和幼稚園、田子浦幼稚園、岩松幼稚園及びみなみっこ（南小規模保育所）の4か所にて通級制で開級している。

《通級園児数》

令和6年5月1日現在

区 分	昭和幼稚園			田子浦幼稚園			岩松幼稚園			みなみっこ			合計		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
構 音 障 害	21	12	33	14	8	22	18	11	29	6	3	9	59	34	93
ことばのおくれ	1	1	2	3	3	6	8	2	10	0	1	1	12	7	19
吃 音	3	2	5	3	1	4	4	3	7	3	1	4	13	7	20
合 計	25	15	40	20	12	32	30	16	46	9	5	14	84	48	132

3 歳	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1
4 歳	6	5	11	8	2	10	12	4	16	2	3	5	28	14	42
5 歳	19	10	29	12	10	22	17	12	29	7	2	9	55	34	89
合 計	25	15	40	20	12	32	30	16	46	9	5	14	84	48	132



（友達とドッジボール）

友達と一緒にルールのある運動遊びを楽しむことで、協同性、健康な体、規範意識などが育てる。



（ことばの教室）

どこの穴に入るかな？楽しく吹く遊びを通して口腔機能を高める。

3 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

(1) 社会教育

市民一人一人の生きがいくくりや現代的・地域的課題への対応を目指し、まちづくりセンター講座や市民大学等の多様な学習の機会を提供するとともに、市民の自主的な学びを支援するために、市政いきいき講座等を行っている。

① 社会教育委員会議

社会教育法に基づいて社会教育委員を設置し、教育委員会の諮問機関として、社会教育の推進に関する諸計画等を審議している。学識経験者、学校教育、家庭教育の関係者で構成されている。

令和5年度の内容等

	開催日時・会場	審議・報告事項
第1回	令和5年6月7日（水曜日） 午後1時30分～ 教育プラザ1階 大会議室	・ 今期社会教育委員会議について ・ 富士市の社会教育行政について ・ 社会教育課所管事業について ・ 令和5年度各種研修会について ・ 社会教育委員の定数について
第2回	令和5年8月29日（火曜日） 午後1時30分～ 教育プラザ1階 大会議室	・ 社会教育委員の構成等の意見書集約及び定数について ・ 社会教育に係る課題及び取り上げるテーマについて ・ 無限∞のキズナ事業について ・ 後期まちづくりセンター講座・青年教養講座について ・ 社会教育課所管事業視察について
第3回	令和6年1月30日（火曜日） 午後1時30分～ 教育プラザ1階 大会議室	・ 令和6年度 社会教育課主要事業の計画の概要について ・ 講座受講料及び講師料の改定について ・ 社会教育に係る課題及びテーマ「地域学校協働活動」について ・ 令和6年富士市はたちの記念式典の実施報告について ・ 社会教育委員設置条例（委員定数）改正手続の進捗について ・ 令和5年度家庭教育支援交流会の参加について ・ 委員任期満了に伴う改選及び次年度任期について

② 富士市民大学

豊かな人づくりを目指し、より高度で専門的な知識を学ぶため、市民大学を開催している。

前期ミニカレッジは、大学教授等と連携を行い、全6講座を開講。後期講演会は、各界の著名人を講師に招き、ロゼシアター大ホールを会場に全6回の講演会を開催した。



富士市民大学前期ミニカレッジ



富士市民大学後期講演会

ア 令和5年度（第29回）富士市民大学前期ミニカレッジ講座内容

科 目	講 師 名	受講生 (人)	会 場
表現力アップ！ 読み聞かせ・話し方講座	フリーアナウンサー・新朗読家 杉山 直	16	富士市教育プラザ
健康講座「たくましく、し なやかに『こころの健康』 を守っていこう～無理な く学ぶ日常からのヒント ～」	常葉大学 教育学部 心理教育学科 教授 百瀬 容美子 常葉大学 教育学部 心理教育学科 講師 中川 雄真 常葉大学 教育学部 心理教育学科 准教授 今岡 多恵 常葉大学 教育学部 心理教育学科 教授 伊東 明子	43	富士市教育プラザ
宇宙講座「宇宙の不思議に 迫る」	静岡大学（工学部）名誉教授 山極 芳樹 静岡大学 教育学部 准教授 内山 秀樹 静岡大学 理学部 教授 土屋 麻人	59	富士市教育プラザ
市民歴史講座「徳川家康と 静岡」	東洋大学文学部史学科 非常勤講師 柴 裕之 静岡市歴史博物館 学芸課 主任(学芸員) 鈴木 将典 静岡大学 名誉教授 本多 隆成 東海道町民生活歴史館 館主兼館長 志田 威 日本大学 文理学部 史学科 准教授 小川 雄	78	ラ・ホール富士
農学講座「農学の魅力を大 発見！～農学にまつわる エトセトラを通じて～」	静岡大学 農学部 准教授 田上 陽介 静岡大学 農学部 教授 加藤 雅也 静岡大学 農学部 准教授 平田 久笑 静岡大学 農学部 教授 鈴木 克己	45	富士市教育プラザ 山田製茶 富士営農経済 センター
文学講座「国宝『源氏物語 絵巻』詞書のくずし字の読 解に挑戦する」	静岡県立大学 国際関係学部 准教授 竹部 歩美	31	富士市教育プラザ
合 計 人 数	272 人		

※各講師の肩書は開催年度当初のものです。

イ 令和5年度（第43回）富士市民大学後期講演会講演内容

回	開 催 日	テ ー マ	講 師 名	会 場
1	9月14日(木)	夢と絆	新潟産業大学経済学部特 任教授 蓮池 薫	ロゼシアター 大ホール
2	9月21日(木)	心と体の健康 ～「がんばらない」けど「なげださない」～	医師／作家 鎌田 實	〃
3	9月28日(木)	南極ではたらく ～かあちゃん、調理隊員になる～	第57次南極地域観測隊 設営・調理 渡貫 淳子	〃
4	10月5日(木)	徳川家康から学ぶ人生のヒント ～待つことを知る者は勝つ～	歴史作家／多摩大学客員 教授 河合 敦	〃
5	10月12日(木)	認知症が私たち家族にくれたギフト	映画監督／ノンフィクシ ョン作家 信友 直子	〃
6	10月23日(月)	あなたはどうか老いるか ～自然体 で生きるということ～	フリーアナウンサー 近藤サト	〃

後期講演会のあゆみ（第 32 回以降の募集定員・受講生数・講座回数及び受講料の推移）

回 数	年 度	募集定員	受講生数	講座回数	受講料	会 場
第 32 回	平成 24 年度	700 人	690 人	7 回	4,000 円	ロゼシアター 中 ホ ー ル
ブレ講演会	平成 25 年度	700 人	507 人	1 回	無料	〃
第 33 回	平成 25 年度	700 人	617 人	7 回	4,000 円	〃
	単発券		38 人		1,500 円	
第 34 回	平成 26 年度	700 人	698 人	7 回	4,000 円	〃
第 35 回	平成 27 年度	700 人	703 人	6 回	3,500 円	〃
第 36 回	平成 28 年度	700 人	525 人	6 回	3,500 円	〃
	単発券		76 人		1,500 円	
第 37 回	平成 29 年度	700 人	491 人	6 回	3,500 円	〃
	単発券		46 人		1,500 円	
第 38 回	平成 30 年度	700 人	647 人	6 回	3,500 円	〃
第 39 回	令和元年度	700 人	725 人	6 回	3,500 円	〃
第 40 回	令和 2 年度	500 人	498 人	2 回	1,500 円	ロゼシアター 大 ホ ー ル
第 41 回	令和 3 年度	700 人	606 人	6 回	3,500 円	〃
第 42 回	令和 4 年度	700 人	879 人	5 回	3,000 円	〃
第 43 回	令和 5 年度	800 人	760 人	6 回	3,500 円	〃

③ 市政いきいき講座

市民と職員との対話を通じて、市民の市政への理解を深めることを目的に、職員が市民、団体等の求めに応じ、指定された会場（市内に限る）へ出向き、市民（10 人以上）に日常業務の説明や情報提供を行っている。

令和 5 年度 開催実績 件数 265 件 参加者総数 12,161 人

ジャンル	件 数	人 数	ジャンル	件 数	人 数
市政	9	249	教育文化	12	210
健康・福祉	6	445	生活安全	214	10,260
市民生活	21	700	環境	1	50
まちづくり	2	247	計	265	12,161

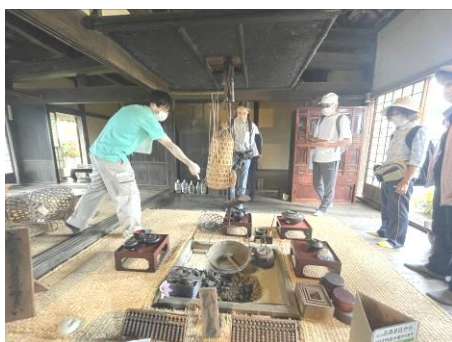
④ まちづくりセンター講座

各地区まちづくりセンターを会場に、新しい趣味の発見や仲間づくり、教養を深める身近な場を提供することを目的として、乳幼児から高齢者まで幅広い世代の方々を対象にさまざまな分野の講座を開催している。

なお、まちづくりセンター講座については、地区まちづくりセンターにおいて補助執行で実施していたが、令和3年度から教育委員会社会教育課に所管を変更して、以下のような講座区分ごとに実施している。(令和5年度開催実績：312講座、延受講者数 16,961人)

ア 人づくり講座

地域の資源や魅力を知る学習や地域の人材を活用した学習、地域活性化に資する学習等を目的として実施。地域の活動に主体的に取り組む人材の育成を図ることをねらいとしている。(令和5年度開催実績：講座数 50 講座、延受講者数 2,905 人)



人づくり講座
富士川「富士川歴史講座」



少年教育講座
「ブロック合同デイキャンプ」

イ 少年教育講座

主に小学生を対象に、社会生活に必要な能力を養うことや他の年齢層とのつながりを持つこと、また学校ではできない体験学習等を通じて、地域への愛着を養い、将来富士市を背負っていく世代の育成を目的として実施している。活動内容は、ニュースポーツ体験、食育料理教室、自然遊びや野外活動、環境学習、ブロック合同キャンプ事業などがある。(令和5年度開催実績：講座数 32 講座、延受講者数 1,369 人)

ウ 家庭教育講座

主に未就園児と保護者を対象に、育児や子どもの健康に関する学習をするとともに、保護者同士が交流を深めることなどを目的としている。主に、子どもとの接し方、自立心、生活習慣等、子どもの教育や健康、性格形成期の問題などを学習する。(令和5年度開催実績：講座数 14 講座、延受講者数 1,086 人)

エ 高齢者講座

高齢者を対象に、健康づくり・仲間づくり・生きがいづくりや社会参加の促進などを目的に開催。主な活動内容は、各種教養講座や健康づくりのための体操等の運動講座、工作など、多様な内容を実施している。(令和5年度開催実績：講座数 22 講座、延受講者数 1,442 人)

オ みんな講座

市内で活動している民間団体が企画・運営を行う、初心者でも気軽に参加できる講座。主に新しい趣味の発見や仲間づくり、教養を深めること等を目的に実施している。地域に根付いた魅力的な講座を目指し、民間団体が得意とする分野の講座を実施している。(令和5年度開催実績：講座数 99 講座、延受講者数 6,570 人)

カ 市民プロデュース講座

市内で活動している団体や市民が企画・運営する講座として実施しており、市民主体の地域づくりや地域の担い手づくりを推進することを目指している。（令和5年度開催実績：講座数 24 講座、延受講者数 1,267 人）

キ オープン自主グループ講座

同じ趣味や興味・関心を持つ仲間が集まり、まちづくりセンターで活動している自主グループが開催する初心者向け体験講座（令和5年度開催実績：講座数 46 講座、延受講者数 996 人）

ク 生涯学習人材バンク講座

生涯学習人材バンクの登録講師が企画・運営する講座。初めての方にもわかりやすい初心者向けの内容を中心に実施する。（令和5年度開催実績：講座数 25 講座、延受講者数 1,326 人）



家庭教育講座
伝法「かんがるークラブ」



高齢者講座
須津「大柵倶楽部」

⑤ 子育て講演会

小中学校へ入学する子どもを持つ親を対象に、子どもの心理や最近の動向、しつけや問題行動への対処方法などについて学習することで、家庭教育や子育てのあり方を見直す機会を提供する。

小学校 対象者 1,906 人 開催校数 26 校

中学校 対象者 2,033 人 開催校数 14 校

⑥ 家庭教育支援交流会

家庭教育支援に携わる人材同士の交流を目的として、令和4年度から開催している。基調講演やグループワーク等を行い、家庭教育支援について理解を深めていただく機会にもなっている。

開催日：令和6年2月3日（土）

参加者：静岡県家庭教育支援員、スマホルールアドバイザー、
静岡県子ども読書アドバイザー、富士市社会教育委員

(2) 図書館

① 施設設備の概要

ア 富士市立図書館一覧

図書館名		開 館	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	構 造	施 設 の 概 要
中央図書館	本 館	S39. 2. 11 (H7. 10. 4移転)	5, 279. 47	7, 526. 47	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上4階地下1階	全ての資料が1階ワンフロアで利用でき、障害者、高齢者等に配慮した施設
	分 館	H12. 8. 10	1, 865. 08	2, 904. 67	鉄骨造2階	学習室と作品を展示できる市民ギャラリー等のある施設
	今 泉 分 室	H12. 4. 16	今泉まちづくりセンター敷地内	359. 83	鉄筋コンクリート造3階	今泉まちづくりセンター分館の図書施設で、児童をはじめ地域の人たちに親しまれている
	田子浦 分 室	H15. 4. 12	田子浦まちづくりセンター敷地内	191. 80	鉄筋コンクリート造2階 (図書館部分は、1階)	田子浦まちづくりセンターに併設の図書施設で、乳幼児や児童に親しまれている
	大 淵 分 室	H20. 4. 20	大淵まちづくりセンター敷地内	220. 50	鉄筋コンクリート造2階 (図書館部分は、1階)	大淵まちづくりセンターに併設の図書施設で、児童や生徒に親しまれている
	富士川 分 室	H20. 11. 5	富士川ふれあいホール敷地内	229. 99	鉄筋コンクリート造3階 (図書館部分は、1階)	富士川ふれあいホールに併設の図書施設で、郷土の特色を活かし、地域の人たちに親しまれている
西 図 書 館		S55. 11. 25 (H20. 4. 4移転)	富士市交流プラザ敷地内	1, 259. 02	鉄筋コンクリート造3階 (図書館部分は、1階)	富士市交流プラザに併設の図書施設で、地域の人や通勤、通学の人たちに親しまれている
東 図 書 館		S62. 4. 1	吉永まちづくりセンター敷地内	321. 73	鉄筋コンクリート造2階 (図書館部分は、1階)	吉永まちづくりセンターに併設された図書館で、児童をはじめ地域の人たちに親しまれている
富 士 文 庫		H 2. 4. 18	鷹岡市民プラザ敷地内	823. 05	鉄筋コンクリート造2階	旧私立「富士文庫」の蔵書を引き継ぎ、貴重な資料を多く所蔵している

イ 移動図書館 (BM : Book Mobile)

開 設 昭和43年5月1日
 更 新 令和5年2月1日 スズキキャリィ(ガソリン車)2台に更新し使用開始
 巡回方法 約500冊を搭載し市内72か所を巡回
 施設配本 まちづくりセンター等18か所、高齢者施設7か所に配本

ウ でごいち文庫

開 設 昭和53年4月17日
 施 設 入山瀬公園内のD51機関車に隣接している客車を改造した施設

② 主な出来事と取組

- 中央図書館(4分室を含む)と地域館3館の1年間の入館者数は841,248人、資料の貸出者数は416,761人、また、貸出点数は1,711,955点(電子書籍を含む)である。
- 第三次富士市子ども読書活動推進計画に基づき、6か月児を対象に絵本の配付と読み聞かせを行う「ブックスタートふじ」事業では、読み聞かせの実演や説明を再開し、また新たな試みとして会場で対象児のカード新規発行を行った。1,378人に配付、配付率は96.6%であった。3歳児を対象に絵本の配付と読み聞かせを行う「セカンドブックふじ」事業でも、大型絵本の読み聞かせを再開し、1,787人に配付、配付率は99.3%であった。

③ 富士市子ども読書活動推進計画について

本市では、平成18年に「富士市子ども読書活動推進計画」、平成23年度に「第二次子ども読書活動推進計画」、令和3年度には「第三次富士市子ども読書活動推進計画」を策定した。この第三次計画は、第一次、第二次での成果や課題を検証し、さらなる推進に向けた取組を進めるためのもので、令和4年度から実施し、令和5年度も引き続き子どもの読書活動推進に取り組んだ。

ア 計画の基本方針

本計画の基本方針を次に挙げ、全市的な読書計画を進めていく。

○「読書環境の整備」

子どもの発達段階や興味に応じた適切な本が、生活や学習の場でいつでも利用できる読書環境を整備する。

○「読書機会の提供」

子どもが楽しく読書できるように、関係機関等と連携して個々の場に応じた読書活動を実施し、読書習慣の確立を図る。

○「普及・啓発」

子どもの読書活動に関する理解や関心を高めるため、子どもや子どもに関わる全ての大人に対し広報活動に努める。また、子どもと本を結びつける大人の活動を支援する。

イ 具体的な施策について

○家庭・地域における読書活動

ブックスタートふじ事業、セカンドブックふじ事業を取組の柱として、乳幼児期からの読書習慣の形成を図る。また、地区まちづくりセンターにおけるボランティアによるおはなし会のほか、児童施設や図書館が連携して読書活動を行う。

○幼稚園・保育園・認定こども園における読書活動

幼稚園・保育園・認定こども園の蔵書を充実し、各園における読み聞かせ活動を推進する。園児のいる家庭での読書機会を増やすための啓発活動を行う。読書推進に関する職員研修に取り組む。

○学校における読書活動

児童生徒の読書習慣の形成を図るため、学校司書の全校配置を継続し、学校図書館を計画的に活用する。GIGA タブレットを活用した読書のため、「ふじ電子図書館」の利用を促進する等、従来の書籍に加え ICT を活用した読書活動を推進する。中高生の読書推進のため、学校と協力したイベント等を開催するなど、学校と図書館が連携した取組を行う。

○図書館における読書活動

乳幼児期から図書館の利用を促進するため、土日は静かにしなくてもいい日として設定し周知を図るなど、親子が利用しやすい環境の整備を行う。令和5年度からは誕生を待つ保護者への読み聞かせと絵本の紹介、中央図書館での託児サービスなど、新たなサービスを開始し、乳幼児からの読書活動を促進する。令和4年度に導入した電子図書館システムでも、引き続き電子書籍の利点を活かしたサービスにより子どもの読書推進を図る。読み聞かせボランティア等が実施する読書活動推進に向けた研修を実施する。

④ 資料所蔵の状況

令和6年3月31日現在

区 分	中央図書館	西図書館	東図書館	富士文庫	合 計
図 書 (うち児童書)	782,436 冊 (231,304)	128,227 冊 (44,444)	71,348 冊 (28,381)	119,038 冊 (37,877)	1,101,049 冊 (342,006)
A V 資料	32,296 点	—	—	—	32,296 点
複製絵画	345 点	—	—	—	345 点
デジタル化資料	2,766 点	—	—	—	2,766 点
電子書籍	14,212 点	—	—	—	14,212 点
購入新聞	19 種	9 種	7 種	8 種	20 種
購入雑誌	206 種	56 種	63 種	56 種	240 種

※中央図書館には、移動図書館、今泉、田子浦、大淵、富士川の各分室、でごいち文庫を含む。購入雑誌は令和5年6月1日現在。

⑤ 利用状況

令和5年度

区 分	中央図書館	西図書館	東図書館	富士文庫	合 計
貸出点数	1,152,050 点	293,266 点	120,033 点	146,606 点	1,711,955 点
貸出人数	272,763 人	77,836 人	29,443 人	36,719 人	416,761 人
レファレンス件数	20,844 件	5,440 件	3,214 件	4,776 件	34,274 件
予約件数	141,412 件	7,229 件	3,022 件	4,926 件	156,589 件

※中央図書館には、移動図書館、今泉、田子浦、大淵、富士川の各分室、でごいち文庫、まちづくりセンターを含む。

※中央図書館の貸出点数には、電子書籍を含む。

⑥ 事業実績

令和5年度

館名	事業の名称	回数	延参加者	講師・共催団体等（敬称略）
中央図書館	ブックスタートふじ	36	1,378	6 か月児を対象とした絵本の配付
	セカンドブックふじ	45	1,787	3 歳児を対象とした絵本の配付
	おはなし会	85	798	実演：図書館職員
	おたのしみ会	12	338	実演：ボランティア
	本はともだち子どもまつり	1	250	実演：ボランティア
	図書館まつり	1	519	実演：図書館職員、ボランティア他
	ビブリオバトル	1	66	主催：ビブリオバトル実行委員会 協力：富士市立高校
	児童文学講演会「絵本との楽しい出会いのために」	1	67	講師：山口 雅子
	ビジネス講演会「職場&家庭での心理ゲームに負けない方法」	1	43	講師：遠藤 昌弘
	生の語りできく 遠野の昔話の会	1	65	講師：大平 悦子
	夏休み読書感想文書き方講座	1	29	講師：佐藤 いずみ
	親子で体験！はじめてのデータベース講座	1	11	講師：樋口 貴子
	ストーリーテリング入門講座	6	36	講師：渡辺 佐代子
	初めての朗読講座	4	69	講師：中込 和子
	古文書入門講座	3	54	講師：図書館職員
	ブックスタートボランティア研修	1	20	講師：NPO ブックスタート研修
	音訳ボランティア特別講座	1	14	講師：熊谷 成子
	音訳ボランティア勉強会	3	36	講師：芝本 安由美
	点訳ボランティア勉強会	1	18	講師：黒崎 よし乃
	読みきかせボランティア・デビュー講座	12	110	講師：平山 壽子
	読みきかせボランティア講座	1	34	講師：根岸 貴子
	読みきかせ勉強会	9	323	講師：平山 壽子
	わらべうた・手遊び講習会	2	30	講師：畔高 京子
西図書館	おはなし会	42	1,000	実演：図書館職員
	夏休み読書感想文書き方講座	1	23	講師：佐藤 いずみ
	わらべうたを楽しもう	1	20	講師：畔高 京子
	講演会「豆本の世界～宝石入りの豆本など～」	1	18	講師：田中 栞

東 図 書 館	おはなし会	44	179	実演：図書館職員
	夏休み読書感想文書き方講座	1	12	講師：佐藤 いずみ
	昔話をきく会	1	42	実演：渡邊 佐代子
	消しゴムはんこでしおり作り	1	6	講師：田嶋 みゆり
	キッチンで楽しむ！おやつマジック	1	21	講師：図書館職員
富 士 文 庫	おはなし会	58	422	実演：図書館職員
	夏休み読書感想文書き方講座	1	16	講師：佐藤 いずみ
	わらべうたを楽しもう	1	29	講師：畔高 京子
	影絵と音楽の世界	1	110	講師：和久田 恵子
	富士文庫特別コレクションを知る講座	3	41	講師：菊地 治彦

(3) 少年教育

子どもたち自身が社会の変化に柔軟に対応できる「生きる力」を育むため、関係機関が連携して、青少年の健全育成に取り組む社会の形成を推進するとともに、次代を担うジュニアリーダー養成事業の開催や、さまざまな体験・交流の場を提供している。

① 富士市青少年問題協議会

青少年問題協議会は、地方青少年問題協議会法の規定に基づいて設置され、青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する事項を協議するためのものである。令和5年度は、青少年相談センター事業について、第二次富士市子ども・若者育成支援計画についてと、講演会「居場所のない青少年の現状について ～自立援助ホームの必要性～」及び意見交換を行った。

期 日：令和6年2月7日(水)

② 富士市・雫石町少年交流事業

平成16年度から、富士市と雫石町の小学生が隔年で交互に訪問しあい、施設見学や体験学習などを通して友情を深めることを目的として実施している。

令和5年度は雫石町児童25人が富士市を訪問した。

期 日：令和5年7月26日(水)～29日(土)

参加者：富士市の小学5・6年生29人、

内 容：田子の浦港漁船クルーズ、ほうじ茶プログラム、
ナイトウォーク、交流プログラム等



田子の浦港漁船クルーズ

③ 「ミライつく～ in Fuji」

ANAとの協働で、航空業界の仕事体験講座を通じ、仕事の大変さ、大切さ、想いを伝えてもらい、子どもたちに「夢をもつこと」、「夢に向かって、努力し続けることの大切さ」を学んでもらうことを目的に、「ミライつく～ in Fuji」を実施した。

期 日：令和5年11月11日(土)

場 所：富士市教育プラザ

参加者：富士市の小学4・5・6年生87人

内 容：パイロット、キャビンアテンダント、整備士、グランドスタッフ、グランドハンドリングスタッフの5職種に分かれ、体験やワークを通じて、実際の仕事の様子や工夫などを学ぶ。



④ 青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」

平成 26 年度から宮城県気仙沼市大島で実施してきた「キズナ無限∞の島」に代わって、令和 5 年度から、「無限∞のキズナ～まだ見ぬ自分に出会う瞬間（とき）～」として、長野県伊那市、茅野市で研修を実施した。

この事業は、長野県の大自然を舞台に、グループ活動を主とした集団生活を送りながら、チームビルディング（仲間づくり）を行うとともに、仲間と困難を一緒に乗り越える体験を通して“キズナ”を深め、コミュニケーション力や課題解決力を身につけ、自己肯定感を高めることで前向きに生きる青少年を育成することを目的としている。



期 日：令和 5 年 8 月 11 日（金）～13 日（日）

※当初の計画は 14 日（月）までだったが、台風接近の影響により日程を急きょ短縮して実施
参加者：中学生 67 人、高校生 7 人、青年 9 人、実行委員 10 人

- 内 容：
- ・地域交流プログラム（白樺湖でカヌー体験、伊那市地域おこし協力隊との交流、郷土料理を通じた地域交流）
 - ・体験プログラム（車山ハイキング&リフト体験）
 - ・キズナ学習（「仲間」をテーマに学校や学年、年齢層も異なる班内でグループ討議をしながら、「人と人のキズナ」の大切さを学び、最高の仲間とは何かについて研修生自らの答えを探し出す）



車山ハイキング



カヌー体験 in 白樺湖

⑤ ジュニアリーダー養成事業

子どもたち自身の手によって子ども会活動ができるように、活動の担い手となる中学生、高校生の指導者「ジュニアリーダー」を養成し、子ども会活動の発展を図るものである。

〔ジュニアリーダー養成研修会〕【基礎編】

期 日：令和 5 年 5 月 14 日（日）

参加者：36 人

内 容：子ども会に関すること（意義・目的・組織）
ジュニアリーダーに関すること（役割・心構え・態度）

〔ジュニアリーダー養成研修会〕【予習編】

期 日：令和 5 年 6 月 3 日（土）

参加者：14 人

内 容：講習会における進行及び役割の流れ
プログラム、マネジメント、カウンセラーに関すること

〔ジュニアリーダー養成研修会〕【安全編】

期 日：令和 5 年 6 月 25 日（日）

参加者：19 人

内 容：活動を行う上での KYT（危険予知トレーニング）

〔夏のジュニアリーダー養成講習会〕

期 日：令和5年8月11日(金)～

令和5年8月13日(日)

参加者：34人

内 容：野外活動、野外炊事、ゲーム等の手法の学習

〔ジュニアリーダー養成研修会〕(実技編)

期 日：令和5年10月1日(土)

参加者：16人

内 容：野外活動、ゲーム等の手法及び活動進行の学習

〔インリーダー養成講習会〕

期 日：令和5年11月18日(土)～

令和5年11月19日(日)

参加者：42人(内スタッフ15人)

内 容：ジュニアリーダーに関すること(役割・心構え・態度)

〔ジュニアリーダー養成研修会〕【総合編】

期 日：令和6年3月17日(日)

参加者：6人

内 容：アイスブレイク等の手法や活動の計画と進行方法の学習

〔春のジュニアリーダー養成講習会〕

期 日：令和6年3月23日(土)～

令和6年3月24日(日)

参加者：18人

内 容：職業体験、野外炊事、キャンドルファイヤー等

⑥ 青少年活動助成事業

次代を担う青少年の健全育成を目的として、青少年や各種団体の活動を支援するため、青少年の健全育成に取り組んでいる団体に対して、助成を行った。

(4) 青年教育

青年が自らを磨き、社会的資質の向上を図る機会の場を提供するため、勤労青年に対する学習支援や、青少年指導者の養成講座を開催している。

① はたちの記念式典（旧称：成人式）ほか関連事業

はたちの記念式典

関係機関・団体の協力を得て、20歳を迎える方々の大人としての責任を改めて促すとともに、地元愛の醸成を推進するため実施した。令和5年同様、会場にて中学校ごと2つに分けた2部形式で式典を行った。

日 時：令和6年1月7日（日）第1部 13：00～13：50、第2部 15：30～16：20

場 所：富士市文化会館（ロゼシアター）大ホール

内 容：オープニング（富士高校書道部パフォーマンス（映像））、励ましの言葉、お祝いの言葉、記念品贈呈、はたち応援プログラム（はたちの記念式典実行委員会企画のライド上映、恩師メッセージ）、市立高校チアリーダー部パフォーマンス

参加者：1,790人（参加率70.4%：該当者2,541人）



もうひとつのはたちの記念式典

日 時：令和6年1月14日（日）11：00～11：20

場 所：富士市教育プラザ

内 容：励ましの言葉、お祝いの言葉、記念品贈呈、応援プログラム（富士高校書道部パフォーマンス（映像））、富士特別支援学校恩師メッセージ

参加者：8人

令和6年富士市はたちの記念式典の映像配信

掲載日：令和6年1月17日（水）～23日（火）

掲 載：富士市ウェブサイトはたちの記念式典ページ内からのリンクによる富士市公式YouTubeアカウントに掲載

内 容：オープニング（富士高校書道部パフォーマンス（映像））、励ましの言葉、お祝いの言葉、記念品贈呈、応援プログラム（はたちの記念式典実行委員会企画のライド上映、恩師メッセージ）、市立高校チアリーダー部パフォーマンス

視聴数：1,238回

18歳新成人への祝意メッセージ送付事業

令和4年4月1日から、民法の改正により成年年齢が18歳に引き下げられたため、18歳の門出の時期に、成人を迎えられたことを祝い、新成人としての自覚を促し、今まで育ってきた環境を改めて見つめ直す機会を提供するため、あたたかみのある祝意メッセージを送付した。

対象者：2,280人

時 期：令和6年3月上旬発送

内 容：市長メッセージカード
新成人応援動画（二次元コード）
ほうじ茶一煎パック



② 青少年育成ボランティア養成講座 (Play & Lead)

市の青少年健全育成事業等にリーダーとして参画できる人材や、積極的に地域へ参画することができる人材を育成することを目的に実施している。また、青少年活動をしている地域団体のプログラムに参加し、様々な魅力的な人に出会い、つながることができる機会を提供する。

静岡県が実施している級別青少年指導者認定事業の上級位認定を支援する。

期 日：令和5年10月～令和6年1月

参加者：8人（高校生5人、大学生1人、社会人2人）

場 所：富士市教育プラザ

内 容：講座6回（ふじかわっこ！ZERO遊び塾への参加、遊びフェスタの企画、「遊びフェスタ in 富士川地区」の実施）



養成講座受講生

◎「遊びフェスタ in 富士川地区」

受講生が自分たちで企画や準備をし、実際に事業を実施する中で、子どもたちとの触れ合い方や、リーダーのあり方を実践形式で学ぶことを目的に実施した。

実施日：令和6年1月21日(日)

場 所：富士川第一小学校体育館

参加者：旧富士川地区の小学生 22人

内 容：田んぼ鬼、風船リレーなど



「遊びフェスタ in 富士川地区」の様子

(5) 青少年教育センター

青少年教育センターは、青少年を対象に文化や教養と社会性を身につけるための教養講座を開設したり、サークル活動など青年の集う場を提供したりすることを目的としている。また、青少年団体の活動拠点にもなっている。

① 青年教養講座の開設

市内に在住、又は在勤(在学)の青年を対象に、余暇を利用して仲間づくりや豊かな教養と社会性を身につけるために開設している。

青年講座 ハイキング、アロマ、お菓子作りほか 35 講座 受講生 365 人



みんなでハイキング
～山での楽しい過ごし方～



Autumn JAZZ NIGHT



フラワーアレンジメント

② サークル活動

青年のニーズの多様化と意識の変化に対応できるように、サークル活動を積極的に推進している。

	サークル名	活動内容	人数
1	B T M	バトミントン	16 人
2	S U N	3 on 3	9 人
3	あすなろ	硬筆	11 人
4	グループ青春	軽音	5 人
5	ギターを続けよう	ギター	5 人
6	M a k e a b r e a d	パンづくり	6 人
7	すばいくる☆	ソフトバレー	16 人
8	コンパニエロ	フットボール	16 人
9	気まぐれ美術部	絵画	7 人

③ 青少年教育センター利用学生会

本センターの青年教養講座、サークル活動をしている青年が、利用学生会を組織して交流会や体験学習等の活動を通し、相互の親睦と活動の一層の推進を図っている。また、市民のニーズに対応した社会貢献活動も幅広く行っている。

※ 青少年教育センター利用学生会 会員数 152 人



灯の路

(令和5年度)

	事業	日時	場所
1	避難訓練（火災）	5月22日	教育プラザ1階
2	避難訓練（地震、津波）	1月17日	教育プラザ1階、屋上
3	イベント 「灯の路～手づくりの光ゆらめく空間～」	12月16日	教育プラザ1階
4	青少年教育センター利用者会総会	5月29日	〃
5	第2回利用者会	11月14日	〃
6	青少年教育センター利用者会役員会	随時	〃
7	ボランティア（清掃活動）、交流会（BBQ）	9月2日	かぐや姫工房
8	はたちの記念式典スタッフボランティア	1月7日	ロゼシアター
9	寄附（能登半島地震災害義援金）	2月20日	

④ 青少年教育センター利用状況（令和5年度）

区分	計(人)	計(回数)
青年教養講座	1,079	133
青年サークル	1,129	180
青少年教育センター利用者会	114	9
社会教育課	2,309	105
青少年相談センター	3,335	302
富士市教育委員会	3,586	92
市役所関係	3,696	158
社会教育団体	2,198	119
その他	5,118	327
合 計	22,564	1,425

(6) 青少年相談センター

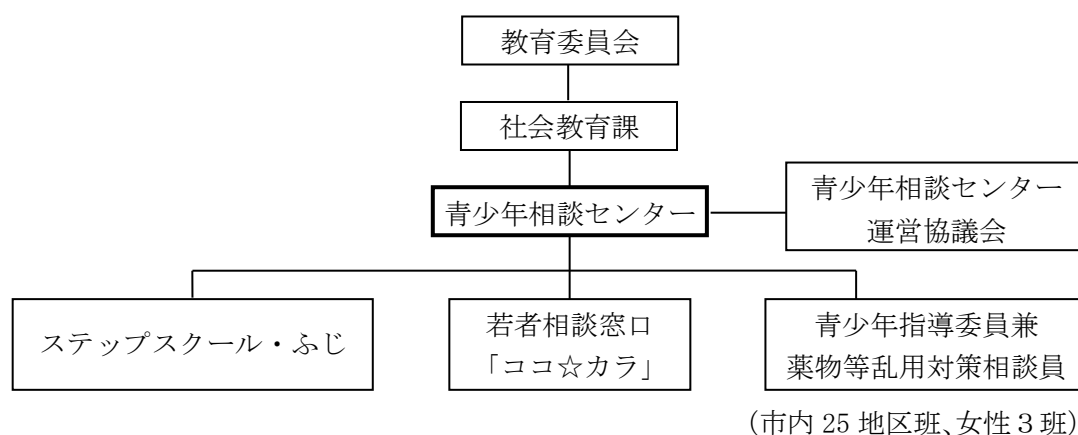
青少年相談センターは、次代を担う青少年の健やかな成長を支援するために、青少年ならびに保護者等を対象とした相談業務、不登校児童生徒を対象とした「ステップスクール・ふじ」、非行の未然防止を図る補導活動、青少年を取り巻く環境の浄化活動、そのほか関係機関・関係諸団体との連携の中で行う非行および不登校対策や、地域ぐるみで取り組む青少年健全育成活動等を推進し、青少年支援のセンターとしての役割を担っている。また、ニートやひきこもり、不登校など社会生活を営む上で困難を抱える若者やその家族を支援するため、若者相談窓口「ココ☆カラ」を開設している。

① 富士市青少年相談センターの組織・機構

設置主体 富士市（富士市教育委員会）

設置年月日 昭和 42 年 4 月 1 日

所在地 富士市八代町 1 番 1 号 TEL 52-4152 FAX 52-3737



② 富士市青少年相談センターの活動

ア 非行防止活動

青少年指導委員(126名)、青少年相談センター職員を中心に警察官、少年警察補導員、少年警察協助力員、まちづくり協議会青少年育成部門、民生児童委員、保護司、PTA役員等の協力を得て補導活動を実施している。

(7) 通常補導……地区内巡回補導、市街地補導

(4) 特別補導……祭典補導、県内一斉少年補導

イ 青少年健全育成活動

(7) 「富士市青少年の非行・被害防止強調月間」

- ・「社会を明るくする運動」と連携し、街頭啓発キャンペーンを実施
- ・広報、啓発活動
- ・健全育成諸行事、諸活動（講演会、パレード、啓発活動等）
- ・県内一斉少年補導、県内一斉立入調査、環境浄化活動等

(4) 「富士市子供・若者育成支援推進強調月間」

- ・地区生涯学習推進会等の団体主催による、地域における健全育成諸行事への協力

ウ 社会環境浄化活動

コンビニ、遊技場、玩具店、書店、マンガ喫茶、カラオケボックス等への立入調査をはじめ、青少年に有害な陳列物等の定期調査等を行っている。

エ 相談業務

青少年の健全な発達を支援するため、適切な助言や指導を行い、問題解決を図っている。相談

には「面談」と「電話相談」があり、「面談」では、来所・通所・訪問相談を行っている。また、臨床心理士による面談を実施している（要予約）。「電話相談」は相談員が「青少年相談ふじ（愛称「ほっとテレフォン・ふじ）」で相談に応じ、Eメールでの相談も受け付けている。更に、不登校児童生徒を支援するため「ステップスクール・ふじ」を開設している。

(ア) 面談……青少年、保護者、学校教職員など。（来所・通所・オンライン）

(イ) 電話相談……青少年相談ふじ「ほっとテレフォン・ふじ」（青少年、保護者）

(ウ) 訪問相談……学校訪問、家庭訪問など

◇相談日と時間 面談 月曜～金曜 9時00分～16時30分

電話相談 月曜～金曜 9時30分～16時30分

(エ) 「ステップスクール・ふじ」

不登校の児童生徒に場所と時間を提供し、一人一人に応じた支援を進める中で、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立していくことを目指していく。

個にあわせた学習支援、不安や悩みを取り除くための継続的な面談、仲間づくりや社会との関わりを学ぶ自然体験学習、青少年相談員による訪問指導等を実施している。

(オ) 「ほっとデジタル相談・ふじ」

小中学校全児童生徒が使用するタブレットを活用した相談を令和5年2月から実施している。

a 「ステップスクール・ふじ」開所日

☆毎週月曜日～金曜日の8時00分～18時00分までを基本としている。

☆子どもが自分のペースにあわせて利用できる。

（例えば午前中のみや、午後のみ、短時間のみ等の利用も可能）

☆土・日曜日・祝日は休み。長期休業中は、基本的に休み

☆給食はなし。昼食が必要な場合はお弁当を持参する。

b 「ステップスクール・ふじ」の特徴

☆一日の予定は、自分自身で決められる。

☆勉強がわからないところは相談員と一緒に考える。

☆悩みがある場合はその都度相談員が相談に乗る。

さわやかタイム	8:00～8:50	朝の活動
学 び 1	9:00～11:20	学びの時間
運 動 1	11:30～12:00	スポーツ活動
〈昼食・昼休み〉	12:00～13:00	昼食・休憩・自由時間
学 び 2	13:00～14:50	学びの時間
運 動 2	15:00～15:30	スポーツ活動
ふれあいタイム	15:30～18:00	交流活動

c 体験学習

☆自然の大切さや仲間づくり、他者とのかかわり方を学ぶために、1か月に1回程度、体験学習を行っている。（カレーづくり、ものづくり、スプリングコンサート、遠足等）

オ 子ども・若者育成支援事業

ニート・ひきこもり等の社会生活を営む上で困難を抱える子ども・若者について、関係機関と連携し、支援していく。

(ア) 子ども・若者支援協議会 代表者会議1回・担当者会議1回

(イ) 若者相談窓口「ココ☆カラ」

開所日時 火～土曜日 9時00分～17時00分

対 象 者 富士市在住・在学の、概ね中学校卒業時から39歳までの子ども・若者

事業内容 ・相談、居場所、体験活動、就労支援

・若者サポーター養成講座

・茶話会（家族会） ・合同相談会

カ 広報活動

青少年問題への関心を高めるためのチラシや、子どものしつけや家族のあり方を啓発するリーフレット等の配布及び「青少年相談センターだより」を発行（年4回）している。

キ 研修活動

青少年相談センター職員、学校関係職員、青少年指導委員、相談員の資質の向上を図るため、下記の研修を行っている。また、市民を対象に講座を開設し、望ましい「人との関わり方」について学習できる機会を設けている。

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| (ア) 青少年指導委員全体研修会 | (イ) 青少年指導委員ブロック研修会 |
| (ウ) 電話相談機関連絡会研修会 | (エ) 相談センター所員研修 |
| (オ) 不登校等児童生徒対策研修会 | (カ) 不登校等児童生徒の保護者教室 |
| (キ) 「ステップ・スクール・ふじ」の保護者・担任面談 | (ク) カウンセリング講座 |

ク 関係機関・団体との対策会議

学校・警察・児童相談所・こども家庭課などと常に緊密な連携を保ちつつ、問題行動を起こした少年やその家庭への指導・援助に努めている。具体的には、市の青少年問題を考える青少年問題協議会をはじめ、非行防止の具体策を協議する学校警察連絡協議会、小中学校生徒指導主任者会、中学校生徒指導研究会、青少年指導委員による補導措置会議への参加や、関係機関の共通理解を深めるための青少年対策関係機関連絡会、不登校児童生徒への対応を研究し対策を協議する不登校等児童生徒対策連絡会及び不登校等児童生徒対策研修会を開催している。

また、文部科学省・内閣府や静岡県の子青少年対策本部が打ち出す青少年対策の基本方針を確認しながら、県補導センター連絡協議会、東部補導センター連絡協議会、県電話相談機関連絡協議会等にも積極的に参加している。

③ 補足資料(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

★青少年指導委員会

青少年指導委員会は、地区班25班、女性班3班の計28班を組織し補導活動を行っている。

〈通常補導〉 月2回の通常補導では、地区班は19時から21時頃の間に地区内を、女性班は土曜の日中にゲームセンター等を巡回し補導活動を実施

〈祭典補導〉 大がかりなイベント(祇園祭・富士まつり・甲子秋まつり・毘沙門天大祭)の際、会場及びその周辺を巡回し補導活動を実施

〈大型店舗特別補導〉

大型店舗の店内、及びその周辺を巡回し補導活動を実施

令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の影響が残り、青少年の外出は少なかった。

総補導件数は74件(前年度の135件から61件減少)である。行為種別では「その他」の「帰宅」が最多で、駅やコンビニ、公園などで帰宅を促す声掛けがほとんどである。

※青少年指導委員会は令和6年3月で解散(青少年指導委員の補導活動は存続)

★青少年指導委員による補導活動

活 動 名	出動回数	参加人数	補導件数	特記事項
通常補導(地区巡回)	735	2,331	69	
祭典補導(祇園祭、富士まつり、甲子秋まつり、毘沙門天大祭)	4	205	5	
大型店舗補導、通学補導	1	23	0	通学補導荒天中止
補導措置会議	12	341	—	
合 計	752	2,900	74	

★県内一斉少年補導

参加人数 夏 季 664 人 冬 季 652 人

参加者

青少年相談センター職員、PTA役員、警察官・少年警察補導員・少年警察協助員・少年指導委員、教育委員会職員、民生児童委員・保護司、青少年指導委員、地区まちづくり協議会青少年育成部門、地区防犯協会役員、地域安全推進員 他

★補導状況

(単位：件)

		小学生	中学生	高校生	その他	有職少年 無職少年	合 計
飲	酒	0	0	0	0	0	0
喫	煙	0	0	0	0	0	0
深	夜 徘徊	0	0	0	0	0	0
不	良 交友	0	0	0	0	0	0
怠	学 ・ 怠 業	0	0	0	0	0	0
	シンナー等薬物乱用	0	0	0	0	0	0
不健全 娯 楽	ゲームセンター入場	0	0	0	0	0	0
	パチンコ店入場	0	0	0	0	0	0
	その他の風俗営業入場	0	0	0	0	0	0
	暴 走 行 為	0	0	0	0	0	0
	自転車の2人乗り・無灯火	0	0	4	1	3	8
	危 険 な 遊 び	0	0	0	0	0	0
そ の 他	帰 宅	0	15	38	6	0	59
	マ ナ ー	0	0	4	0	0	4
	そ の 他	0	0	0	3	0	3
	合 計	0	15	46	10	3	74

★来所相談及び通所・「ステップスクール・ふじ」

(単位：人)

相談対象者	人数	来 所 者	人数	相 談 内 容	人数
就学前・小学生	1,987	家 庭	614	学 校 生 活	0
中 学 生	3,584			対 人 関 係	2
高 校 生	12	学 校	397	進 路 ・ 適 性	0
有 職 少 年	4	利用・ステップ関係	4,584	※非社会的行動	5,608
無 職 少 年	0	諸 機 関	54	心 身 の 発 達	8
そ の 他	72	そ の 他	10	反社会的行動	0
				そ の 他	41
計	5,659	計	5,659	計	5,659

※非社会的行動は不登校

★利用相談件数・利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用相談 件数(件)	46	20	20	6	7	19	18	14	6	17	4	1	178
利用人数 延べ(人)	154	279	427	292	112	465	540	541	381	519	559	315	4,584

★電話相談「はっとテレフォン・ふじ」の受信状況

○受信件数 77 件 ○業務日数 238 日

○学校、その他・男女別受信状況

(単位：件)

	小学生	中学生	高校生	他の学生	有職	無職	保護者	祖父母	一般	雇不明	計	不明(無言)
男	0	2	7	1	0	1	1	1	0	1	14	46
女	0	0	0	0	0	0	13	1	2	1	17	
計	0	2	7	1	0	1	14	2	2	2	31	77

○学校、その他・内容別受信状況

(単位：件)

	小学生	中学生	高校生	他の学生	有職	無職	保護者	祖父母	一般	層不明	計
A学校生活	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B対人関係	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
C進路適性	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
D非社会的	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0	8
E心身発達	0	1	5	1	0	1	4	1	0	0	13
F反社会的	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	46
Gその他	0	1	1	0	0	0	2	0	1	2	7
計	0	2	7	1	0	1	14	2	2	48	77

*D非社会的は不登校、F反社会的は無言

★メール相談 相談総数 年間 3 件

★若者相談窓口相談件数

【新規相談】(主訴による分類)

年齢区分	家 庭				学 校			医療・福祉			社 会				そ の 他	計
	親子関係	虐待・暴力	非行・犯罪	その他	いじめ	学業・進路	その他	発達障害	精神疾患	その他	生活支援	就労支援	対人関係	その他		
就学前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学生	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15～19	6	1	0	0	0	36	0	0	3	1	2	6	3	0	2	60
20～29	2	1	0	0	0	1	0	0	2	1	3	17	2	0	3	32
30～39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	6	2	0	0	11
40～	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	6
計	9	2	0	0	0	38	0	0	5	3	7	33	9	0	5	111

【新規相談】(状況による分類)

年齢区分	不登校	ひきこもり				そ の 他	計	有 職	無 職	計
		自室内	家庭内	コンビニ等外出	趣味外出					
就学前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学生	0	0	0	0	0	2	2	0	2	2
中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15～19	21	0	8	3	0	28	60	1	59	60
20～29	0	0	5	6	0	21	32	4	28	32
30～39	0	0	1	1	0	9	11	3	8	11
40～	0	0	0	0	0	6	6	1	5	6
計	21	0	14	10	0	66	111	9	102	111

【継続相談】 年間 733 件

【合計相談件数】 年間 844 件

【居場所利用人数】 年間 延べ 3,408 人

【アウトリーチ】 年間 49 人に対して 400 回訪問

(7) 少年自然の家

少年たちが自然とのふれあいを通じて集団的な生活や活動をする中で、自然に対する心情や社会生活における基本的な態度を養うなど、その自発性、社会性を助長して、豊かな人間形成を図るための社会教育施設である。平成 28 年度から指定管理者制度を導入し、より一層の施設利用促進に努めていく。

① 教育目標

豊かな自然の中で学校や家庭では得がたい体験をさせることにより、次の目標の達成を図る。

- ・ 自然に直接ふれることにより、自然探求や野外活動に関心を持たせ、活動を通じて自然愛護の心を養うとともに、共生の心と健康の増進を図る。
- ・ 野外活動を通じて、自ら考え行動する態度を育てる。
- ・ 集団宿泊生活を通じて、規律を重んじる態度や奉仕の精神を養うとともに、助け合いの連帯意識を育てる。

② 施設の概要

所在地 富士市大淵 10847-1

T E L 0545-35-1697

F A X 0545-36-2799

ア 少年自然の家

昭和 49 年 10 月 1 日開設

建物面積 (2,697.16 m²)

鉄筋コンクリート造 3 階建

収容人員 250 名

- ・ 1 階
事務室 医務室 相談室 浴室 2 室
トイレ リネン室 宿直室 倉庫
ボイラー室等
- ・ 2・3 階
宿泊室 10 室 リーダー室 2 室 トイレ
リネン室
- ・ その他
丸火体育館 (鉄筋コンクリート造一部 2 階建
面積 916.4 m²)
食堂 研修室兼宿泊室 会議室 リーダー室
ボンベ室他



少年自然の家



丸火体育館



食堂

イ 丸火青少年の家

昭和 41 年 7 月 11 日開設

平成 21 年 4 月 18 日改築開所

建物面積 (264.55 m²)

木造平屋造

収容人員 60 名

(「ふじ」、「あしたか」の 2 部屋

各部屋定員 30 名、2 団体まで利用可能)

宿舍 炊飯棟 調理棟 トイレ 倉庫 広場



丸火青少年の家

③ 事業

丸火自然公園の豊かな自然環境と宿泊施設という特徴を生かし、青少年が自然体験学習を通して、社会性・協調性を養う機会を提供するものとして、指定管理者が事業を展開している。

平成28年度から利用団体の範囲の拡大を図り、学習活動のための施設利用を積極的に受け入れている。従前の利用団体（野外活動を目的とした、市内小学校5年生のみどりの学校をはじめとする市内外の幼稚園・小中学校、及び子ども会・ボーイスカウトなどの少年団体）の利用は、最優先に受け入れ、対応している。

利用に際しては、利用者には利用目的の明確化を求め、事前指導や協議の際には安全面への配慮に重点を置き、目的にあった活動展開ができるよう十分な支援を行う。

ア 継続事業

教育委員会より継承して指定管理者が令和5年度開催した事業は下表のとおりである。

事業名	期 日	対 象	人数	ね ら い
ししどて学級 年間5回	6月3日（土）	保護者 説明会	80	「ししどて」は、丸火に残されている猪を追い込む堤で、鎌倉時代から伝えられている。この歴史ある地で、自然をベースに、仲間づくりや自然活動など様々なプログラムを通じて、自立心や他者への思いやりの心を育む。
	①7月1日（土）～ 2日（日）	市内小学校 4～6年生		
	②8月18日（金）～ 20日（日）			
	③10月7日（土）～ 8日（日）			
	④11月11日（土）～ 12日（日）			
	⑤12月9日（土）～ 10日（日）			
星座教室	2月3日（土）～ 4日（日）	市内小学校 4～6年生	50	丸火から見える天体を観察し、宇宙の不思議さや星座を学び、星や宇宙に関する興味関心を高める。
春の家族自然 のつどい	4月16日（日）	市内在住・ 在勤の家族	50	自然観察、野草料理を通じて、自然愛護の心と家族の絆を育む。
秋の家族自然 のつどい	11月5日（日）	市内在住・ 在勤の家族	30	秋の丸火の自然休養林を散策し、紅葉の鑑賞、クイズ等を実施し、森の自然を堪能する。
冬の家族自然 のつどい	2月24日（土）	市内在住・ 在勤の家族	30	丸火自然公園で洞窟探検を含む謎解きラリーを実施し、冬の森を家族で楽しむ。



ししどて学級



星座教室



春のつどい

イ 自主事業

指定管理者が自主事業として令和5年度に実施した事業は下表のとおりである。

事業名	期 日	対 象	人数	ね ら い
利用団体指導者 研修会	4月11日（火）	小・中学校 の教諭等	34	少年自然の家の利用方法及び 活動プログラムと野外活動の 実技について研修する。
	6月11日（日）	少年団体等 の指導者	30	
防災キャンプ	3月9日（土）～ 3月10日（日）	親子	6組	体育館での宿泊や炊き出し 等、避難生活を体験して防災 について考える。
オリエンテーリング を楽しもう	11月3日（金祝）	小学生以上	100	丸火自然公園で初心者から経 験者までコースにあわせてオ リエンテーリングを楽しむ。
初めての親子 キャンプ	5月4日（木祝） ～5日（金祝）	親子	4組	青少年の家を拠点にテント泊 体験を行う。
丸火の森の音楽会	4月23日（日） 5月28日（日） 6月25日（日） 7月23日（日） 8月27日（日） 9月24日（日） 10月22日（日） 11月26日（日） 12月17日（日） 1月21日（日） 2月25日（日） 3月10日（日）	制限なし	30	ゴスペルやアコースティック 楽器を使ったコンサートを行 う。
星座観察会	5月27日（土） 6月25日（日） 7月22日（土） 9月24日（日） 10月21日（土） 11月19日（日） 12月14日（木） ※8月、1月、2月は 天候不順のため中止	小学生以上	各 30 12月 のみ 50	施設屋上での星座観察を通じ て、親子で星と親しむ。 曇天・雨天でもスライド上映 等を行う。
燻製づくり	3月3日（日）	制限なし	30	森のチップで自家製燻製づく りを体験する。
スパイスからの本格 カレーづくり	2月23日（金祝）	親子	30	親子で外遊びを楽しみなが ら、野外料理等を通じて家族 の絆を深める。
火おこし道場	9月30日（土）	小学生高学年	12	様々な火起こしの着火実験を 実践して、起こした火で野外 調理を楽しむ。

ちびっこ森の探検隊	8月22日（火） ※8月23日（水） 8月24日（木） 12月23日（土） 12月24日（日） 3月27日（水） 3月28日（木） ※荒天のため中止	年中・年長の 園児	各 28	丸火自然公園内で長期休み期間中の平日、日帰りの預かり保育を実施。参加者は作戦会議後秘密基地づくりなど丸火の自然を楽しむ。
ちびっこ森の探検隊 （小学生編）	9月23日（土） 2月12日（月祝）	小学校低学年	各 20	参加者と作戦会議を実施し、秘密基地づくりなど丸火の自然を楽しむ。
丸火でノルディック ウォーキング	4月22日（土） 5月24日（水） 6月24日（土） 7月19日（水） 8月30日（水） 9月27日（水） 10月21日（土） 11月15日（水） 12月16日（土） 1月24日（水） 2月17日（土） 3月12日（火）	中学生以上	20	丸火自然公園周辺でノルディックウォーキング（2本のポールを使って歩く運動）と自然を楽しむ。
家族でみどりの学校 体験	4月30日（日）	親子	24	「みどりの学校」を未経験の小学生と家族が体験する。



オリエンテーリングを楽しもう



ちびっこ森の探検隊



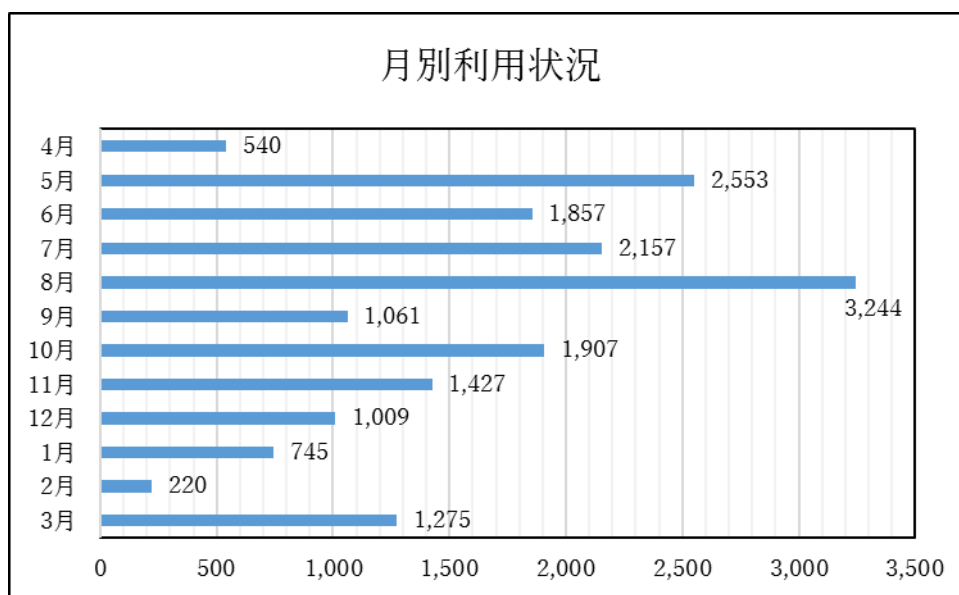
丸火でノルディックウォーキング

④ 利用状況

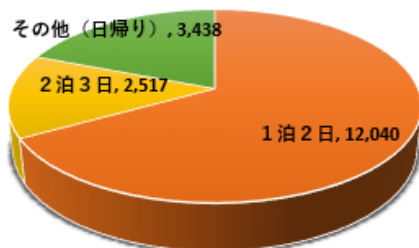
市内小学校5年生対象の「みどりの学校」をはじめ、市内外の小中学生、青少年団体、一般団体の利用があり、その数は延べ17,995人であった。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことにより、宿泊数の利用制限を撤廃した。利用する学校団体は宿泊利用が日帰り利用に変更となるケースが多かったが、小規模の一般団体の宿泊利用があり、昨年度と比較して延べ人数で4,559人増えた。

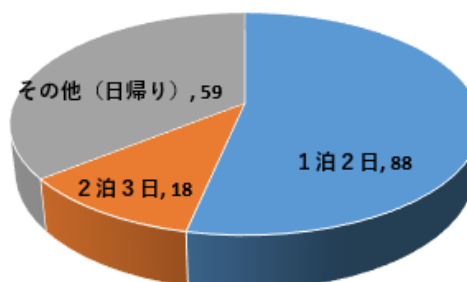
令和5年度 月別利用状況（少年自然の家）



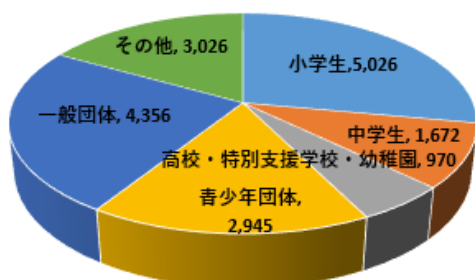
宿泊日数別延人数
(17,995人)



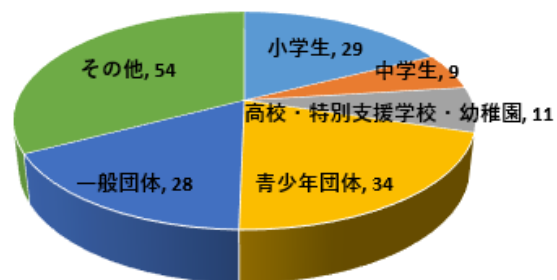
宿泊日数別団体数
(165団体)



利用団体別延人数
(17,995人)



利用団体別団体数
(165団体)



(8) 文化財の保護

市内には、有形・無形の文化財が数多く残されている。文化財は、市の歴史や文化を正しく理解するために欠かせないものであり、市民生活は文化財を始めとした歴史を基盤として成立している。

そこで、指定文化財を始めとする文化財を適切に保護・保存していくための「文化財保護管理事業」、祭礼や習俗等の民俗文化財や、地中に埋まっている埋蔵文化財等の「文化財調査事業」、歴史講座や文化財紹介図書の発行により文化財を周知し、理解を深めることを目的とした「文化財啓発事業」を実施している。

① 文化財の保護管理

先人が守り伝えてきた貴重な文化財を市民共有の財産として維持管理し、後世に継承するため、市所有（管理）文化財の保護・活用事業を実施した。民間が所有する文化財に対しては、補助事業及び助言等を行い、適正な保護・活用を促した。

ア 文化財保護審議会の開催

文化財の保存及び活用に関する重要事項を調査審議した。

回	開催日・会場	審議事項
1	令和5年6月2日（金） 市庁舎8階 政策会議室	・委嘱状交付 ・富士市指定有形文化財「ディアナ号の錨」の移設について ・令和5年度事業計画について
2	令和6年1月17日（水） 富士山かぐや姫ミュージアム講座室	・市指定史跡「雁堤」の道路拡幅工事について ・市指定有形文化財「ディアナ号の錨」の移設について ・文化財保存活用地域計画の進捗について ・市指定史跡「千人塚古墳」保存整備事業の進捗について
3	令和6年3月27日（水） 富士山かぐや姫ミュージアム講座室	・市指定史跡「千人塚古墳」指定内容変更について ・市指定史跡「雁堤」の道路拡幅工事について ・令和5年度事業報告について ・令和6年度事業計画について

イ 文化財保存活用地域計画推進協議会の開催

富士市文化財保存活用地域計画の概要説明及び計画の推進について説明・協議した。

回	開催日・会場	審議事項
1	令和5年8月21日（月） 市庁舎9階 第2委員会室	・委嘱状交付 ・富士市文化財保存活用地域計画の概要について ・計画の推進について
2	令和6年3月27日（水） 市庁舎9階 第2委員会室	・令和5年度富士市文化財保存活用地域計画における取組事業の評価の内容について

ウ 史跡保存整備推進委員会の開催

市内史跡の保存活用計画、保存整備事業について協議し、助言を受けた。

回	開催日・会場	審議事項
1	令和5年8月21日（月） 須津まちづくりセンター 2階 集会室ほか	・委嘱状・任命書交付 ・史跡浅間古墳保存活用計画の構成（案）、要旨について ・史跡浅間古墳・千人塚古墳関連事業について
2	令和6年2月1日（木） 市庁舎10階 全員協議会室	・史跡浅間古墳保存活用計画の構成（案）の変更について ・史跡浅間古墳保存活用計画（前半部分）の要旨について ・市指定史跡千人塚古墳整備事業の進捗について

エ 県指定文化財

県指定史跡「岩淵の一里塚」の塚上に生えるエノキの伐採、剪定を行った。

- (1) 西側のエノキ…サルノコシカケが多数繁殖し樹木内部に腐朽菌が浸透しており、倒木の危険性が高いため、一部を残し、大規模な伐採を行った。
- (2) 東側のエノキ…生育状況が良く、枝が近隣民家や電線に触れる恐れがあり、県道上にも枝が張り出しているため剪定を行った。



西側エノキ伐採作業中



西側エノキ 伐採後

オ 指定文化財等の保護管理

- ・民間所有の指定文化財（対象 40 件）に対して、所有者の維持管理と積極的な保存活用を促進するために文化財報償金を支出した。
- ・天然記念物薬剤散布作業（8 ヲ所）を樹木の特性に合わせて、年間 1 ～ 3 回実施した。
- ・千人塚古墳他 8 ヲ所で除草・清掃作業を実施した。

カ 文化財補助事業

- ・重要文化財古谿荘の防災設備保守点検に対して、文化財保存事業費補助金を交付した。
- ・重要文化財古谿荘の修理事業に対して、文化財保存事業費補助金を交付した。
- ・無形民俗文化財の伝承活動のために、鵜無ヶ淵神明宮の御神楽保存事業等の事業実施団体に対して文化財保存事業費補助金を交付した。

キ 千人塚古墳整備事業

保存活用計画、基本設計に基づき、整備工事の実施設計を行った。また、整備用地の確認調査を実施し、古墳の周溝と須津 J 12 号墳を確認した。

ク 国重要文化財「古谿荘」の保護管理・整備事業

平成 27 年度に策定した保存活用計画を基に、令和 3 年度から 10 か年をかけて所有者が修理工事を行っている。第 1 期工事として、令和 5 年度は管理棟、板蔵の部分解体修理、耐震補強等を所有者が行った。本市は補助金の支出のほか月 1 回の工程会議等に参加し、修理事業の支援を行っている。

ケ 国重要文化財「古谿荘」の修理工事現場見学会の実施

- ・令和3年度から令和12年度にかけて修理工事を行っている古谿荘において、第1期工事として修理中の管理棟、板蔵の現場見学会を所有者に協力して開催した。

- (1) 開催日 令和5年10月28日(土) (5回に分けて実施)
- (2) 参加人数 105人

② 文化財愛護と普及

各種講座等や案内看板の作成・修繕等を通して、文化財を市民に周知するとともに文化財愛護意識の醸成を図った。

ア 市政いきいき講座

- ・講座名 「まちの魅力再発見！文化財講座」(講座No.29)

令和5年度実績 12講座 333人参加

「発掘！地元の古代遺跡～富士のふもとの考古学講座」(講座No.30)

令和5年度実績 3講座 66人参加

「文化財を地域で守り、活かすためには」(講座No.31)

令和5年度実績 1講座 20人参加

イ 文化財説明板

《修繕》 3箇所

「鶴芝の碑」看板の文字消え修正、「本照寺のカヤ」標柱の文字消え修正、「ディアナ号の錨」看板内容修正

ウ 第37回ふるさと芸能祭の開催

広く市民に郷土芸能について関心をもってもらい、伝統の継承が促されることを目的に、市内の芸能団体に出演してもらい、市民に郷土の芸能を披露した。

- ・日 時 令和6年2月18日(日) 午後1時から午後4時
- ・会 場 富士市文化会館(ロゼシアター) 中ホール
- ・入場者数 約400人
- ・出演団体 【富士市民俗芸能連絡協議会所属7団体】

雨乞い芸能保存会、国久保熊野太鼓保存会、天間太鼓保存会、鮫島まとい・太鼓保存会、小木の里太鼓保存会、東比奈諏訪神社大龍の舞保存会、大漁木やり唄中丸保存会

- ・主 管 富士市民俗芸能連絡協議会

③ 埋蔵文化財の保護と発掘調査

文化財保護法に基づき埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の周知とその保存に努め、包蔵地内外で行われる土木工事に対して、試掘・確認調査や本発掘調査を実施した。また、発掘調査によって得られた資料は、整理・報告書作成事業を行い、記録保存の措置をとった。

ア 公共事業及び開発行為に伴う発掘調査

令和5年度に実施された発掘調査は57件で、確認調査を56件、本発掘調査を1件実施した。

【確認調査】

No.	遺跡名	調査面積 (㎡)	調査原因	調査期間	調査結果
1	中野沖田遺跡	79.727	店舗建設	4/5～6	古墳時代 (土器)
2	滝下遺跡	16.782	不動産売買	4/4	なし
3	三日市廃寺跡	3.345	共同住宅建設	4/17	なし
4	中原遺跡	243.868	工場建設	4/10～12	なし
5	三新田遺跡	7.392	個人住宅建設	4/6	なし
6	舟久保遺跡	2.128	個人住宅建設	4/12	なし
7	天間沢遺跡	4.971	個人住宅建設	4/19	平安時代 (土器)
8	亀窪遺跡隣接地	23.396	不動産売買	4/14	なし
9	善得寺廃寺跡	3.636	個人住宅建設	5/9	なし
10	比奈 1 古墳群	116.316	配水池整備事業	4/18～19	なし
11	川窪遺跡	6.821	不動産売買	4/26	なし
12	児森遺跡	22.930	宅地造成	4/27	古墳時代 (溝・土坑・ピット、土器)
13	東平遺跡	7.048	個人住宅建設	6/28	なし
14	富士岡 1 古墳群	6.165	個人住宅建設	5/25～26	古墳時代 (横穴式石室墳)
15	比奈 1 古墳群	156.969	店舗建設	6/5～7	なし
16	沖田遺跡	9.279	不動産売買	6/8	なし
17	川坂遺跡	17.983	不動産売買	6/21	なし
18	東平遺跡	9.233	個人住宅建設	6/13	なし
19	国久保遺跡	5.982	不動産売買	6/14～15	奈良・平安時代 (土器)
20	国久保遺跡	5.247	個人住宅建設	7/24	なし
21	神谷古墳群	33.563	公園整備	6/28～7/19	古墳時代 (横穴式石室墳、須恵器)
22	比奈 1 古墳群	58.430	店舗建設	7/12～18	なし
23	沢東 A 遺跡	14.555	不動産売買	8/17	なし
24	厚原横道下遺跡	4.721	事務所建設	7/28	なし
25	柏原遺跡	13.340	不動産売買	8/17～18	古墳時代 (土器)
26	天間沢遺跡	14.221	個人住宅建設	8/28	なし
27	宇東川遺跡	50.484	公園整備	8/24～25	縄文・古墳・奈良・平安時代 (竪穴建物・土坑、土器)
28	外原遺跡	1.200	個人住宅建設	8/24	なし
29	富士岡 1 古墳群	23.903	個人住宅建設	8/30～31	なし
30	東平遺跡	10.449	個人住宅建設	9/4	なし
31	舟久保遺跡	9.456	不動産売買	8/29	なし
32	善得寺城跡・東泉院跡	4.438	個人住宅建設	9/11	奈良・平安時代 (土器)

33	沖田遺跡	5.490	営業所建設	11/13	なし
34	国久保遺跡	17.958	不動産売買	9/14	奈良・平安時代 (竪穴建物、土器)
35	中野遺跡隣接地	56.347	不動産売買	11/1	弥生時代 (炉、土器)
36	花守遺跡	18.036	集合住宅建設	10/10	なし
37	東平遺跡	84.650	個人住宅建設	10/10～11	奈良・平安時代 (竪穴建物・土坑・ピット、 土器・陶磁器・金属製品)
38	祢宜ノ前遺跡	3.203	個人住宅建設	10/5	なし
39	東平遺跡	15.046	個人住宅建設	11/6	なし
40	東下天間古墳群	74.149	店舗計画	11/7～8	縄文時代 (土器)
41	善得寺城跡・東泉 院跡	7.525	個人住宅建設	10/23～25	平安時代～中世 (土器)
42	天間沢遺跡	5.893	個人住宅建設	11/2	なし
43	川窪遺跡	10.567	事務所建設	11/21	古墳時代 (溝・ピット、土師器)
44	天間沢遺跡	28.269	宅地分譲	11/29～30	なし
45	三新田遺跡	17.691	不動産売買	11/20	なし
46	神谷古墳群	5.512	公園整備	11/21～22	古墳時代 (須恵器)
47	富士岡1古墳群	10.337	浄化槽設置	12/25	なし
48	厚原遺跡	16.134	建売住宅建設	1/11	なし
49	東平遺跡	10.644	個人住宅建設	1/11	なし
50	沢上遺跡	4.203	個人住宅建設	2/14	なし
51	東平遺跡	4.935	個人住宅建設	1/18	奈良・平安時代 (ピット、土器)
52	中桁・中ノ坪遺跡	5.469	不動産売買	3/13	奈良・平安時代 (土器)
53	東平遺跡	18.023	宅地分譲	3/4～6	奈良・平安時代 (ピット・溝、土器)
54	舟久保遺跡	6.255	個人住宅建設	2/27	なし
55	中島遺跡	4.365	個人住宅建設	3/13～15	なし
56	水神堂遺跡	16.250	宅地分譲	3/13	奈良・平安時代 (土器)

【本発掘調査】

No.	遺跡名	調査面積(m ²)	調査原因	調査期間	調査結果
1	比奈1古墳群 石切平第2号墳	225.000	配水池築造	1/12～3/29	古墳時代 (横穴式石室・土坑、土器・金属製品・ガラス製品)



石切平第2号墳石室



市民を対象とした現地説明会

イ 埋蔵文化財整理・報告書作成事業

発掘調査が終了した遺跡の出土資料や記録の保存・整理作業を実施し、以下の報告書を刊行した。

報告書名	調査原因	調査年度	概要
富士市内遺跡発掘調査報告書ー令和4年度ー	確認調査ほか	令和4年度	令和4年度に実施した本調査、確認調査の調査成果を所収
天間沢遺跡	学術調査など	昭和47年以降	昭和47年以降に調査され、未報告であった地区の報告

指定文化財一覧 計 90 件(国指定8件 県指定 12 件 市指定 63 件 国登録7件) 令和6年3月31日現在

	種 別		名 称	員数	所在地	指定年月日
国指定	特別名勝		富士山		大淵ほか他市町村に及ぶ	特名 S27. 11. 22
	史跡					史跡 H23. 2. 7
	重要文化財	建造物	古谿荘 9 棟	9 棟	岩淵	H17. 12. 27
		彫 刻	木造地藏菩薩坐像	1 軀	松岡／瑞林寺	S57. 6. 5
		書 跡	紙本墨書法門百首	1 帖	平垣本町	S13. 7. 4
		工芸品	短刀 銘光包（名物乱光包）	1 口	（寄託）（財）日本刀剣美術館	S 8. 7. 25
		絵 画	金地著色春夏山水図 （伝雲谷等顔筆／六曲屏風）	1 双	（寄託）静岡県立美術館	S25. 8. 29
	史 跡		浅間古墳	1 基	増川	S32. 7. 1
県指定	建造物		旧稲垣家住宅 附棟札（文化元年） 2 枚	1 棟	広見公園	H21. 3. 23
	工芸品		太刀 無銘（伝左弘安）	1 口	天間	S37. 2. 27
	考古資料	中原第 4 号墳出土遺物		一括	市立博物館	R 3. 12. 27
		東平第 1 号墳出土遺物一括		一括	市立博物館	R 4. 12. 2
	史 跡	琴平古墳		1 基	中里	S33. 9. 2
		伊勢塚古墳		1 基	伝法／玄龍寺	S33. 9. 2
		庚申塚古墳		1 基	東柏原新田	S34. 4. 14
		岩淵の一里塚		1 対	岩淵	S61. 12. 5
	天然記念物	富知六所浅間神社の大クス		1 本	浅間本町	S30. 4. 19
		慶昌院のカヤ		1 本	中里	S46. 3. 19
富士岡地藏堂のイチョウ		1 本	富士岡	S46. 3. 19		
有形民俗文化財		浮島沼周辺の農耕生産用具	152 点	市立歴史民俗資料館	H 2. 3. 20	
市指定	有形文化財	建造物	五輪塔	2 基	市立博物館	S44. 8. 19
			ディアナ号の錨	1 錨	三四軒屋区公会堂南側	H 1. 12. 21
			瑞林寺伽藍	3 棟	松岡／瑞林寺	H 4. 12. 25
			旧松永家住宅	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			樋代官植松家住宅長屋門	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			樋代官植松家住宅	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			原泉舎	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			眺峰館	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			杉浦医院	1 棟	広見公園	H12. 8. 1
			稲葉家住宅	1 棟	岩淵	H22. 5. 19
		彫 刻	實相寺・木造仁王像（金剛力士像）	1 対	岩本／實相寺	S47. 8. 1
			實相寺・木造一切経蔵 七福神	1 点	岩本／實相寺	S47. 8. 1
			妙善寺観音堂俳句扁額	1 面	原田／妙善寺	S49. 9. 1
			木造広目天・多聞天立像	2 軀	原田／妙善寺	S49. 9. 1
			木造十一面千手観音坐像	1 軀	原田／妙善寺	S55. 9. 1
			木造薬師如来坐像	1 軀	比奈／医王寺	S55. 9. 1
		書籍・典籍・古文書	紙本墨書 稿本 田子のふるみち	1 帖	（借用）市立博物館	S59. 12. 24
			紙本墨書 福寿山 瑞林禅寺記	1 帖	松岡／瑞林寺	S59. 12. 24
			紙本墨書 高林山 法田禅寺記	1 卷	（寄託）市立博物館	S59. 12. 24
			紙本墨書 今泉村往古高拔差邑寶鑑	1 帖	市立博物館	S59. 12. 24
			中村家文書	897 点	（寄託）市立中央図書館	H 8. 3. 19
		實相寺一切経 宋版 4 巻、天海版 6, 174 巻		合計 6, 178 巻	岩本／實相寺	H21. 4. 21
		歴史資料	大宝印秋山家資料	1, 145 点	市立博物館	R 4. 3. 22
		考古資料	比奈東坂古墳出土品	一括	市立博物館	S44. 8. 19
			医王寺経塚遺物	一括	比奈／医王寺	S59. 12. 24

	種 別		名 称	員数	所在地	指定年月日
市指定	史 跡		千人塚古墳	1 基	神谷	S51. 7. 23
			稻荷塚古墳	1 基	船津	S51. 7. 23
			実円寺西第 1 号墳	1 基	三ツ沢	S51. 7. 23
			山ノ神古墳	1 基	東柏原新田	S51. 7. 23
			金原明善翁ら大規模植林地		桑崎	S53. 9. 1
			雁堤	1 箇所	岩本・松岡	S58. 6. 25
			竹採塚	1 基	比奈／竹採公園	H 1. 12. 21
			白隠禅師の墓	1 基	比奈／竹採公園	H 1. 12. 21
			善得寺墓群のなかの大勲策禅師の墓	1 基	今泉／善得寺公園	H 1. 12. 21
			善得寺墓群のなかの太原雪斎の墓	1 基	今泉／善得寺公園	H 1. 12. 21
	天然記念物		船津浅間神社のクス	1 本	船津	S45. 12. 21
			間門浅間神社のシイ	1 本	間門	S45. 12. 21
			今宮浅間神社のスギ	1 本	今宮	S45. 12. 21
			鵜無ヶ淵神明宮のクス	1 本	鵜無ヶ淵	S45. 12. 21
			十王子神社のイチョウ	1 本	今泉	S45. 12. 21
			十王子神社のクス	1 本	今泉	S45. 12. 21
			水の上のタイサンボク	1 本	今泉	S45. 12. 21
			本国寺のボダイジュ	1 本	今泉	S45. 12. 21
			曾我寺のカヤ	1 本	久沢	S45. 12. 21
			曾我寺のシイ	1 本	久沢	S45. 12. 21
			瑞林寺のモッコク	1 本	松岡	S45. 12. 21
			瑞林寺のヒイラギ	1 本	松岡	S45. 12. 21
			医王寺のマキ	1 本	比奈	S49. 9. 1
			一色のカヤ	1 本	一色	S49. 9. 1
			八幡穴（溶岩洞穴）	1 箇所	久沢	S52. 10. 3
			不動穴（溶岩洞穴）	1 箇所	大淵	S52. 10. 3
			厚原風穴（溶岩洞穴）	1 箇所	厚原	S54. 3. 15
			本照寺のカヤ	1 本	厚原	S56. 8. 1
			白髭神社のヒイラギ	1 本	大淵次郎長町	S56. 8. 1
			木之元神社のムクロジ	1 本	鈴川	S56. 8. 1
			常盤家のイヌマキ	1 本	岩淵	H23. 12. 22
			慈林寺のイヌマキ	1 本	中之郷	H23. 12. 22
			横割八幡宮のクスノキ	1 本	横割	H24. 4. 23
			浮島ヶ原のサワトラノオ群生地	1 箇所	中里	H27. 4. 21
	無形民俗文化財		鵜無ヶ淵神明宮の御神楽		鵜無ヶ淵一丁目	H21. 4. 21
			大北のカワカンジー		北松野	H23. 12. 22
			木島のナゲダイマツ		木島	H23. 12. 22
			岩淵鳥居講		岩淵	H29. 6. 21
国登録	有形文化財	建造物	旧小休本陣「常盤家住宅主屋」	1 棟	岩淵	H10. 9. 2
			旧岩淵火の見櫓	1 基	南松野	H18. 3. 27
			旧順天堂田中齒科医院診療所兼主屋	1 棟	吉原三丁目	H23. 7. 25
			旧加藤酒店店舗兼主屋	1 棟	本町	H27. 3. 26
			旧東泉院宝蔵	1 棟	吉原公園内（今泉）	H29. 10. 27
			旧六所家門及び塀	1 棟	吉原公園内（今泉）	H29. 10. 27
			岳南電車本吉原駅プラットホーム及びホーム上屋	1 式	岳南電車本吉原駅	R 3. 6. 24

(9) 博物館

① 施設の概要

ア 本館「富士山かぐや姫ミュージアム」

- 開 館 昭和 56 年 4 月 25 日
改修落成 平成 28 年 4 月 29 日
- 敷地面積 約 4,951 m²
(付属棟実習室、工芸室敷地面積を含む)
- 延床面積 本館 1,740 m²
付属棟 実習室 200 m²
工芸室 248 m²
- 本館施設・展示室 5・多目的室 1・
収蔵庫 2・講座室 1・ライブラリー・
事務室・調査研究室・空調機械室・
ボイラー室・機材庫他に防災・警備設備等



富士山かぐや姫ミュージアム
(富士市立博物館本館)

イ 分館「歴史民俗資料館」

- 開 館 平成 6 年 11 月 16 日
- 敷地面積 1,665 m²
- 延床面積 歴史民俗資料館 657 m²
収蔵庫 209 m²
- 施 設 1 階 展示室・体験コーナー・
事務室・トイレ
2 階 展示室・収蔵庫



富士市立歴史民俗資料館

ウ 分館「屋外展示（広見公園内）」

- 開 館 昭和 56 年 4 月 25 日
- 敷地面積 約 39,688 m²
- 延床面積
 - ・樋代官長屋門 69.20 m² (旧植松家表門) 木造平屋建寄棟造茅葺
 - ・原泉舎 74.40 m² (今泉妙延寺土蔵・今泉小学校前身の仮教場) 木造切妻造瓦葺土蔵
 - ・旧松永家住宅 180.37 m² 木造平屋建寄棟造瓦葺、付表門 (薬医門)
 - ・眺峰館 59.01 m² 木造三階建八角尖塔造銅板葺 (洋風建築)
 - ・東平遺跡高床倉庫 18.17 m² 掘立柱高床板倉造切妻式流板葺
 - ・東平遺跡竪穴住居 23.50 m² 竪穴板壁入母屋式茅葺
 - ・横沢古墳 201.00 m² 大淵横沢で発掘調査した円墳
 - ・万葉歌碑 「東歌」『万葉集』巻 14 所収の東歌 1 首「天の原 富士の柴山木の暗の 時移りなば逢はずかもあらむ」
 - ・杉浦医院 138.60 m² 木造二階建寄棟造銅板葺 (洋風建築)
 - ・樋代官植松家住宅 195.00 m² 木造二階建越屋根付瓦葺
 - ・旧独楽荘石倉 33.00 m² 木造切妻造瓦葺石倉
 - ・旧稲垣家住宅 160.39 m² 木造入母屋形式かぶと造茅葺
- 〈その他〉小糸のぶ文学碑、松永末子歌碑、水城孝歌碑、根方街道道しるべ、東海道・大宮街道道しるべ、仁藤春耕道しるべ、一字一石経王塔、室伏半蔵道しるべ、日露友好の碑

エ 分館「富士川民俗資料館」(稲葉家住宅)

- 開 館 昭和 47 年 3 月 改修落成 平成 30 年 3 月
- 敷地面積 380.86 m²
- 延床面積 稲葉家住宅 89.40 m²、収蔵庫 33.48 m²
- 構造ほか 木造入母屋造茅葺 市指定有形文化財(平成 22 年)



市指定有形文化財(平成 22 年)
「富士川民俗資料館」



国登録有形文化財(平成 10 年)
「小休本陣常盤家住宅主屋」

オ 博物館管理施設「小休本陣常盤家住宅主屋」

- 公 開 平成 16 年 3 月
- 延床面積 249.13 m²
- 構造ほか 木造平屋切妻造棧瓦葺 国登録有形文化財(平成 10 年)

カ 博物館外部収蔵庫

- 竣 工 平成 27 年 3 月
- 延床面積 428.72 m²
- 構 造 鉄骨造平屋建

② 展示

ア 常設展示

○展示室 1 テーマ「富士に生きる」

富士山南麓の地に生活してきた先人たちの歴史や文化を「富士に生きる」という大きなコンセプトのもと 7 つのジャンルで紹介。

- ①富士の舞台＝富士火山・海岸平野のできるまで
- ②富士の黎明＝富士市を代表する天間沢遺跡のジオラマ、旧石器時代から律令時代の市内遺跡出土資料
- ③動乱から泰平の世へ＝鎌倉から室町に至る動乱の時代の資料
- ④街道と宿場のにぎわい＝東海道・吉原宿の変遷
- ⑤水とのかたまり＝富士川治水に功を成した雁堤や浮島沼干拓の歴史
- ⑥富士川舟運と渡船＝富士川と岩淵河岸の歴史
- ⑦富士の災害＝富士火山や水害、地震被害の歴史とロシア軍艦ディアナ号の遭難

○展示室 2 テーマ「富士山の玉手箱」

富士山をモチーフとした名品の数々。「富士山を描く」、「富士山をかたどる」、「富士山を記す」等、富士山にまつわる 6 つのテーマを展示。

○展示室 3 テーマ「富士山とかぐや姫」

富士山南麓を舞台としたかぐや姫の伝承に焦点をあて、信仰の山・富士の姿を地域に根ざした視点から紐解く。

- ①竹取物語へのいざない
- ②富士山のかぐや姫
- ③かぐや姫と富士山縁起＝記された富士山のかぐや姫物語（卷子本富士山大縁起）
- ④東泉院と下方五社＝六所家総合調査より（日吉浅間神社並神主六所良邑境内絵図）
- ⑤富士のかぐや姫物語ゆかりの地を歩く＝描かれた富士山のかぐや姫物語
- ⑥富士山の女神
- ⑦富士山登山絵図＝描かれた富士山の信仰空間（富士山禪定図）
- ⑧村山修験の活動＝秋山家寄託資料 密教法具の展示
- ⑨岩淵鳥居講

○展示室 4 テーマ「竹取物語の広がり」

日本各地の竹取物語ゆかりの地や関連グッズの紹介。
静岡県世界遺産センターとの連携による富士山世界文化遺産の紹介。

イ 特別展示（展示室5・多目的室6）

常設展示以外の特別展、企画展、共催展、テーマ展等の展示会を随時開催している。

展示室5（特別展示室）は気密性の高い特殊な展示ケースを採用。貴重な資料を展示している。

○ライブラリー〈1階〉

県内外の博物館の出版物や富士山に関わる専門書・児童書を揃えている。

図書館にはあまり見られない本を閲覧することができる。また、パソコンにて、館蔵品や貴重な映像資料を検索・閲覧できるデジタルライブラリーが併設されている。

ウ 歴史民俗資料館 テーマ「富士に生きる」

○1階 展示室

富士市域は、駿河湾の海岸から富士川・潤井川等の河川によるなだらかな扇状地と東部の低湿地、富士山・愛鷹山へと続く斜面の間に広がる。

海岸の漁村から最北の山村までの標高差 800mの間、それぞれの地に適したくらしを営んだ人びとの姿を以下の6つのテーマに分けて紹介している。

- ①ハマのくらし（田子浦・元吉原沿岸）＝実物のシラス船や大漁旗、延縄漁用具等
- ②ドブツタのあるくらし（浮島ヶ原周辺）＝ドブツタ（湿田）での田植えのジオラマ等
- ③豊作への願い（浮島ヶ原周辺～加島平野）＝豊作を願う様々な行事
- ④タバシヨのくらし（加島平野）＝タバシヨ（田場所）の田植え用具、スキ等
- ⑤ヤマガのくらし（富士・愛鷹山麓）＝つるべ井戸のジオラマ、木樵、畑作用具等
- ⑥行き来する人々（地域の交流）＝ショイコ（背追子）や梶、秤等人や物の行き来に使う諸道具

○2階 展示室

富士山南麓の豊富な森林資源や水を利用して発達してきた紙のまち・富士の歴史や学校教育、子どもの遊びや紙のおもちゃ等を展示している。また、近代の戦争と戦時中のくらしについての展示も見ることができる。

「紙のまち」というフィルターを通して、富士市の近代と未来の姿を考える。

- ①手すき和紙＝和紙づくりの道具、原料等
- ②近代製紙の幕開け＝原田製紙1号機模型、佐野熊ナプキン、富士製紙会社関連資料等
- ③紙のまちへのあゆみ＝県製紙工業試験場資料、マードック賞受賞のメダル等
- ④子どもの遊びと学び＝穆清尋常高等小学校棟札、学習掛図（複製）等
- ⑤戦争とくらし＝軍服、青い目の人形メリー（写真展示）等の戦時資料



戦争とくらし

③ 事業（令和5年度）

ア 企画展等

- ①富士山世界遺産登録10周年記念展「富嶽真景 ー昭和の富士山写真家 清水緑ー」
- ②夏のテーマ展「おいでよ！縄文の富士」
- ③秋のテーマ展「学びの窓 150年」
- ④第60回企画展「東海道にかける富士の橋」
- ⑤春のテーマ展「伝えていくもの～博物館のNew Face～」
- ⑥富士山の玉手箱特集展示「武田弘氏寄贈富士山コレクション 彩り富士山～絵付けの陶磁器～」
- ⑦富士山の玉手箱特集展示「リトグラフに描かれた富士山」
- ⑧富士山の玉手箱特集展示「郷土を染める～小山もと子型染の世界と富士山～」
- ⑨富士山の玉手箱特集展示「武田弘氏寄贈富士山コレクション 富士山テレカの世界」

イ 講座・体験学習等

博物館陶芸室や染色室、実習室、旧稲垣家住宅等を会場に、感染症対策を講じながら各種講座・体験学習を行い、先人の知恵や技術を知り、生活体験に触れる機会を設けた。

富士山ネットワーク推進委員会の事業では、第 21 回目となる「富士山ぐるりんコンテスト」を実施した。

ウ 六所家総合調査

令和 2 年度末に刊行した一般向け概説書「富士山東泉院の歴史」をもって近世までの調査については一定の成果をみたが、令和 4 年度から引き続き近代資料の調査を実施した。

エ 富士市立博物館ボランティアの活動

令和 5 年度末で活動 17 年目となり、現在の登録メンバーは 30 名となっている。主な活動として、博物館主催事業や体験学習での指導・補助、館収蔵資料の整理、展示補助等、多岐に渡る博物館業務で活動している。

④ 出版物（平成 24 年度以降）

年度	出版物名	種別、判型等
平成 24	第 51 回企画展『富士市にまつわる物語絵』 『六所家総合調査報告書 民俗』	企画展解説書 A4 35P 報告書 A4 112P
平成 25	第 52 回企画展『縄文の美～土器の文様と飾り～』 富士山世界文化遺産登録記念特別展『鳥の目で見た富士～鳥瞰図の世界～』 『六所家総合調査報告書 古文書①』	企画展解説書 A4 16P 特別展解説書 A4 30P 報告書 A4 184P
平成 26	春のテーマ展『富士山×絵葉書 平川コレクションに見る富士の姿』 第 53 回企画展『富士山の下に灰を雨らす 富士の噴火と古墳時代後期の幕開け』 『六所家総合調査報告書 書画』 『六所家総合調査報告書 聖教』	展示会解説書 A4 23P 企画展解説書 A4 49P 報告書 A4 120P 報告書 A4 450P
平成 27	『六所家総合調査報告書 古文書②』 リニューアルオープン記念展『富士のある風景』	報告書 A4 520P 企画展解説書 変形 35P
平成 28	第 54 回企画展『東洋美術史の父 大村西崖』 六所家総合調査だより特別号①「護持院隆光と東泉院精海」	企画展解説書 A4 60P 調査だより A4 32P
平成 29	リニューアルオープン 1 周年記念展『富士登山列伝 頂に挑むということ』 『富士山かぐや姫ミュージアム 常設展示総合ガイドブック』 第 55 回企画展『産業の種蒔く人―伝法中原 4 号墳と古代のエンジニアたち』 『六所家総合調査報告書 古文書③』 六所家総合調査だより特別号②「東泉院の神道資料」	記念展解説書 A5 32P 概説書 A5 変形 92P 企画展解説書 A5 20P 報告書 A4 520P 調査だより A4 37P
平成 30	富士山世界遺産登録 5 周年記念展『かぐや姫の里と白隠さん』 第 56 回企画展『富士が見守る交流の道―古代東海道と富士山ジャンクション―』	記念展解説書 A4 24P 企画展解説書 A5 変形 40P
令和元	第 57 回企画展『東海の軍を發す―伝法 東平 1 号墳とヒミツの武器』	企画展解説書 A5 変形 30P
令和 2	六所家総合調査「富士山東泉院の歴史」	概説書 A4 140P
令和 3	第 58 回企画展『トイレの紙さま～おしりふきふき いまむかし～』	企画展解説書 A5 変形 29P
令和 4	第 59 回企画展『河東をめぐる戦国時代』	企画展解説書 A4 20P
令和 5	第 60 回企画展『東海道にかける富士の橋』	企画展解説書 A4 40P

⑤ 利用状況（令和5年度）

ア 博物館施設利用状況

年間開館日数	304 日
年間利用者数	59,220 人
一日平均利用者数	195 人
利用者累計(昭和56年度～)	1,971,036 人



第60回企画展「東海道にける富士の橋」

イ 令和5年度 事業別利用者数

(7) 自主展観事業

事業名	開催期間	人数(入館者数)
富士山世界遺産登録10周年記念展「富嶽真景ー昭和の富士山写真家 清水緑ー」	3月11日～7月2日	13,652 人
夏のテーマ展「おいでよ！縄文の富士」	7月15日～9月24日	5,979 人
秋のテーマ展「学びの窓 150年」	10月7日～1月8日	8,437 人
第60回企画展「東海道にける富士の橋」	1月20日～3月10日	5,016 人
春のテーマ展「伝えていくもの～博物館の New Face～」	3月11日～7月2日	1,113 人 (令和6年3月31日現在)

(イ) 各種講座等教育普及活動

講座・教室名	開催日	回数	人数
古代人の暮らし ー古代の知恵に学ぶー	7月30日、8月11日、11月23日	3回	101 人
たんけん！はくぶつかん！	7月26日	1回	56 人
戦時中の食事	8月6日	1回	10 人
お月見お供え団子作り	10月22日	1回	16 人
富士の型染体験	10月9日	1回	22 人
かまど飯を食べよう!!	9月9日、3月9日	2回	28 人
稲葉家で学ぶ富士川の歴史と文化	10月28日、11月26日	2回	34 人
茅葺き農家の葺き替え見学会	12月2日	1回	24 人
七草粥作り	1月7日	1回	15 人

(ウ) その他の事業

イベント名	開催日	人数
博物館の日(手すきハガキづくり、火おこし体験、博物館クイズ 他)	5月、7月、9月、11月、3月の日曜日に実施	1,501 人
かやぶき農家の工芸まつり	5月20日～6月11日、博物館管理施設利用団体の作品展示、販売・体験を通して工芸に親しんでいただく。	1,136 人
かやぶき農家の癒しのおんがく会	4月、5月、9月、10月、11月の日曜日に実施	560 人

(I) 幼稚園・保育園・小中学校等との連携による体験学習への支援

小・中学校

支援内容	施設数	延回数・延人数・点数
見学対応	24 校	27 回 1,923 人
紙すき体験	3 校	3 回 126 人
縄文土器作り等古代体験（火おこし体験、勾玉含む）	5 校	5 回 329 人
むかしのくらし体験（かまど体験等）	10 校	10 回 860 人
資料貸出（火おこしセット、日常生活用品等）	1 校	1 回 7 点

幼稚園・保育園

支援内容	施設数	延回数・延人数
見学対応	2 園	2 回 132 人
陶芸体験	1 園	1 回 14 人

高等学校・大学

支援内容	施設数	延回数・延人数
見学対応	1 校	1 回 10 人
古代体験（土器づくり）	1 校	1 回 10 人

その他施設

支援内容	施設数	延回数・延人数
古代体験（土器づくり、火おこし）	2 か所	2 回 68 人
紙すき体験	2 か所	2 回 64 人
むかしのくらし体験（かまど体験等）	1 か所	1 回 13 人
出前講座・講演会等	8 か所	10 回 302 人

⑥ 資料・図書収集状況（令和5年度末現在）

収蔵資料総合計数 ※視聴覚資料の数には委託制作ビデオを含む。

	館所蔵				寄託	借用	合計
	寄贈	購入	収集	移管			
民俗	14,107	89	0	2,091	343	15	16,645
美術工芸	5,955	1,032	0	96	69	15	7,167
歴史	22,093	621	0	1,481	1,376	6	25,577
考古	3,211	3	0	4,214	2	711	8,141
紙関係	1,882	394	0	61	1	22	2,360
自然	25	0	0	98	1	0	124
視聴覚	335	106	204	11	0	0	656
その他	8,061	1	0	0	143	0	8,205
合計	55,669	2,246	204	8,052	1,935	769	68,875

※六所家関係資料、山崎家関係資料、森家関係資料は、整理中のため未計上

※武田氏関係資料（富士山コレクション）は、寄贈分類「その他」で受入れ、今後整理作業を進め、正式な分類に振り分ける予定

(10) 教育文化スポーツ奨励賞

教育、文化及びスポーツの振興に寄与する市民等の活動を奨励するため、教育、文化及びスポーツの振興に優れた業績をあげているもので、将来一層の発展が望まれる市内の個人又は団体を表彰する。

令和5年度受賞者

◆小針 陽葉（スポーツ・陸上競技）

富士市立高等学校陸上競技部に在籍し、令和4年の国民体育大会及びJOCジュニアオリンピックカップU18大会での100メートル優勝をはじめ、令和5年の東海高校総体では、100メートル、200メートル、走り幅跳びで3冠を達成するなど、優秀な成績を収めている。今後も活躍が大いに期待される。

◆西川 愛華（スポーツ・空手道）

空手道の競技者として、高校、大学、社会人の全国大会等で、多くの優秀な成績を収めている。また、指導者としても、礼儀や人への感謝を重んじる指導理念に基づき、選手を育成するとともに、空手道の楽しさを伝え、普及に努めている。今後も活躍が大いに期待される。

◆一般財団法人 小原流富士支部（文化・華道）

長年、文化芸術の振興に貢献している。富士市総合文化祭への出展のほか、新富士駅内に「いけばな」を展示し、市民や富士市を訪れる人々の心に潤いを与えている。また、支部研究会や花展を開催するなど、技術向上のため日々研鑽を積んでいる。今後も活躍が大いに期待される。

◆富士市弓道協会（スポーツ・弓道）

長年、スポーツの振興に貢献している。設立当初から58年間にわたり、幅広い年齢層を対象とした弓道教室を開催し、精神の修養と地域交流を図っている。また、会員の技術の向上や後進の育成にも努め、有段者や称号者を多く輩出している。今後も活躍が大いに期待される。

◆富士市民踊会（文化・民踊）

長年、文化芸術の振興に貢献している。富士市総合文化祭への出演のほか、地区行事等において伝統民踊を披露している。また、日頃から、富士市民音頭「富士ばやし」の普及に努め、全日本民踊指導者連盟が選ぶ「たのしい民踊」への登録に尽力した。今後も活躍が大いに期待される。

V 資料編

1 富士市教育行政のあゆみ（略記）

令和6年5月1日現在

年	月	日	事 項
昭和21	3	5	米国陸軍省から派遣された教育使節団一行 27 名が来日 （日本教育制度の基本改革を行うべく諸項目の勧告）
	12	27	教育使節団に協力するため教育刷新委員会が設けられ第一回建議を行う市町村及び府県に一般地方行政から独立して教育行政を行う公選による教育委員会を置き、府県間の教育行政の不均衡の是正を行うことを勧告
	22	3	31 「教育基本法」「学校教育法」が公布
	4	1	新制度による小・中学校の六・三制が発足
23	4	1	吉原市誕生（小学校3校・吉原、今泉、伝法、中学校1校・吉原）
	7	15	「教育委員会法」が公布
24	1	12	「教育公務員特例法」が公布
	6	10	「社会教育法」が公布
25	4	30	「図書館法」が公布
	5	30	「文化財保護法」が公布
	12	1	吉原市に教育委員会が置かれ、事務局に1室3課を置く 同時に公選による教育委員が就任
26	12	1	「博物館法」が公布
	12	6	富士公民館開館
27	10	1	富士町、鷹岡町、田子浦村、岩松村に教育委員会が置かれ、それぞれ公選による教育委員が就任
	11	1	教育委員会法の全面的実施により全国の市町村にもれなく教育委員会が設置される
28	1	10	教育制度の基本及び教育・学術・文化関係の基本的重要施策を調査審議する機関として中央教育審議会が発足
29	3	31	富士市誕生 富士町、田子浦村、岩松村が合併 小学校4校：富士第一、富士第二、田子浦、岩松、中学校3校：富士、田子浦、岩松
	10	1	富士市公選による教育委員が就任
30	2	11	元吉原、須津、吉永、原田の各村が吉原市に合併 幼稚園3園：元吉原、昭和、原田 小学校9校：吉原、今泉、伝法、神戸、元吉原、須津、吉永第一、吉永第二、原田 中学校6校：吉原第一、吉原第二、穆清、原田、元吉原、須津 大淵村が吉原市に合併（幼稚園3園、小学校11校、中学校7校）
	4	1	大淵第二小学校を開設（児童数・124名）
	4	3	（大淵小学校より独立、大淵第二小学校となる）
	4	15	大淵幼稚園を開園
31	4	1	浮島村西部三区（船津、西船津、境）が吉原市に合併
		2	吉原市立吉原東小学校を創立、同小学校、須津中学校へ編入

年	月	日	事 項
昭和31	6	30	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」公布
	10	1	教育委員が任命制となり、各市町村に長の任命する教育委員が就任 (富士：井上俊夫、滝川武司、初見五郎、田杉豊作、涌田隆一) (鷹岡：石川軍治、西村寿、村上勝次郎、都築千代治、山本英彦)
	10	3	(吉原：佐野熊次郎、林玄嗣、渡辺仙太郎、水野精一、大石英)
34	12	28	公民館の設置及び運営に関する基準が告示
35	4	1	吉原第三中学校を開校 (吉原市：穆清、原田両中学校を統合して創立 生徒数・929 名)
	10	1	田子浦公民館、岩松公民館を開館
36	4	1	富士南中学校を開校 (生徒数 1 年生・273 名)
	6	16	「スポーツ振興法」が公布
37	4	1	吉原東中学校を開校 (生徒数 2 年生・56 名、1 年生 74 名)
	4	10	吉原市立商業高等学校を開校 (新入生・244 名)
	9	1	静岡県立吉原林間学園が開設 児童福祉法に基づく情緒障害児短期治療施設。同時に特殊学級として治療学級を大淵第一小学校に併設
39	2	11	吉原市立図書館を開館 (41. 4. 1 富士市立中央図書館に改称)
41	7	1	鷹岡公民館を開館
	7	11	吉原市立青少年の家を開設
	11	1	富士市誕生 吉原、富士、鷹岡 2 市 1 町合併 幼稚園 7 園、小学校 17 校、中学校 12 校、商業高校 1 校
42	4	1	青少年補導センターを開設
43	6	1	「富士市立公民館の設置及び管理等に関する条例」制定
	9	26	「富士市立公民館の設置及び管理等に関する条例施行規則」制定
44	5	31	田子浦公民館を改築竣工
45	1	1	南幼稚園を開園 (25. 5. 5 私立東芝幼稚園として創立されたものが富士市に移管)
	11	1	須津公民館、原田公民館、大淵公民館、吉永公民館を開館 広見小学校を開校 (児童数・954 名)
	12	1	元吉原公民館を開館、
47	4	1	浜幼稚園を開園 天間幼稚園を開園
48	1	13	東公民館を開館 (東小学校体育館に併設)
	4	1	丘小学校を開校 (児童数・504 名) 伝法公民館、今泉公民館を開館
	6	1	市民プールを開設 (敷地面積 11, 935 m ² 、プール水面積 2, 235 m ²)
49	4	1	岳陽中学校を開校 (生徒数・236 名) 富士駅南公民館を開館
	10	1	少年自然の家を開設
51	4	1	神戸公民館を開館
	7	11	野球場を開設 (敷地面積 25, 000 m ² 、収容人員 13, 400 人)

年	月	日	事 項
昭和 52	4	1	富士見台小学校を開校（児童数 433 名、学級 12 学級、教職員 22 名）
53	4	1	勤労者体育センターを開設（敷地面積 5,329 m ² 、建物面積 2,174 m ² ） 富士南小学校を開設（児童数 1,116 名、学級 28 学級、教職員 42 名） 県立富士東高等学校が開校 広見公民館を開館
54	4	1	天間小学校を開校（児童数 716 名、学級 19 学級、教職員 23 名）
55	11	1	西図書館を開館
56	3	25	樋代官長屋門、原泉舎移築復原竣工
	3	31	吉永第二小学校・吉原第三中学校の勢子辻分校を閉校 （明治 39 年 2 月 10 日鵜無ヶ淵尋常小学校・穆清中学校の勢子辻分校として創立。昭和 56 年 3 月児童生徒数は 7 名）
	4	1	吉原北中学校を開校（生徒数 401 名、学級 10 学級、教職員 23 名） 機構改革により文化振興課を設置（体育保健課をスポーツ振興課に改称） 事務局 5 課、1 出先機関並びに教育機関として公民館 15 館、図書館 2 館、博物館、少年自然の家、青少年補導センター及び商業高校、幼稚園 9 園、小学校 22 校、中学校 14 校となる 富士南公民館を開館
		25	富士市立博物館を開館
57	2	1	吉原公民館を開館
	4	1	富士市教育文化奨励賞授与要綱制定
	6	1	陸上競技場開設 公認 3 種陸上競技場 陸上競技場全体面積 25,000 m ²
58	2	8	横沢古墳移築復原竣工
	3	25	富士市教育文化奨励賞授与規則制定（57 年制定同要綱廃止）
	4	1	富士見台公民館を開館 視聴覚ライブラリーを開設（社会教育課内）
59	4	1	丘公民館、天間公民館を開館 庭球場開設（全体面積 15,000 m ² ） 機構改革により青少年課を新設（富士市勤労青少年ホームも所管）、スポーツ振興課、文化振興課を統合して文化体育課を設置（市民会館、体育館等も所管）及び青少年補導センターを青少年相談所に改称
59	4	1	事務局 5 課、教育機関として公民館 20 館、図書館 2 館、博物館、少年自然の家及び青少年相談所並びに商業高校、幼稚園 9 園、小学校 22 校、中学校 14 校となる
	7	22	第 1 回富士市青少年の船が三宅島を寄港地として実施（研修生 74 名スタッフ 16 名、計 90 名）
61	4	1	青少年センター開設（富士市勤労青少年ホーム廃止）
	6	27	弓道場開設（全体面積 1,500 m ² ） 総合運動公園内に運動広場開設（全体面積 9,900 m ² ）
62	3	10	東公民館移転新築（東小学校より独立）
		30	博物館工芸室、常設展示替
	4	1	東図書館を開館（吉永公民館改築併設）

年	月	日	事 項
平成元	4	1	岩松北小学校を開校（児童数 581 名、学級数 17 学級、教職員 31 名） 温水プール開設（全体面積 2,114.43 m ² ）
2	4	18	富士文庫を開館（鷹岡市民プラザ併設）
3	3	1	富士市立体育館改築竣工
	4	1	機構改革により文化体育課を分離し、文化振興課と体育振興課を設置 事務局 6 課、教育機関として公民館 20 館、図書館 4 館、博物館、少年自然の家及び青少年相談所並びに商業高校、幼稚園 9 園、小学校 23 校、中学校 14 校となる
4	4	1	吉永北公民館を開館
5	3	1	吉原商業高等学校新校舎竣工
	4	25	富士中央小学校を開校（児童数 469 名、学級数 15 学級、教職員 29 名）
6	4	16	3 歳児保育を開始（昭和幼稚園、浜幼稚園）
	11	1	富士市立歴史民俗資料館開館
7	10	4	新富士市立中央図書館を開館
8	6	15	砂山公園プールオープン 愛称名「富士マリンプール」
9	3	25	富士市歴史民俗資料館収蔵庫新築竣工
	4	1	富士市生涯学習推進プラン「ふじトゥモロウスクール」発刊
10	4	1	青葉台小学校を開校（児童数 434 名、学級数 12 学級、教職員数 26 名）
12	4	1	機構改革により社会教育課、青少年課を統合し、生涯学習課を設置 事務局 5 課、教育機関として公民館 22 館、図書館 4 館、博物館、少年自然の家、青少年相談所及び青少年センター並びに商業高校、幼稚園 9 園、小学校 25 校、中学校 14 校となる
		16	中央図書館今泉分室開館
	8	10	中央図書館分館開館
13	4	1	機構改革により文化振興課、体育振興課を統合し、文化スポーツ課を設置 事務局 4 課、教育機関として公民館 23 館、図書館 4 館、博物館、少年自然の家、青少年相談所及び青少年センター並びに商業高校、幼稚園 9 園、小学校 25 校、中学校 14 校となる 青葉台公民館を開館
14	4	1	富士北公民館を開館
15	3	20	田子浦公民館を増築し、「中央図書館田子浦分室」を設置
	12	10	「スポーツ振興計画」実施計画を作成
16	4	1	教育総務課総務担当を企画総務担当に改編 機構改革により文化スポーツ課を分離し、文化振興課とスポーツ振興課を設置 事務局 5 課、教育機関として公民館 24 館、図書館 4 館、博物館、少年自然の家、青少年相談所及び青少年センター並びに商業高校、幼稚園 9 園、小学校 25 校、中学校 14 校となる
18	2	1	「富士市子ども読書活動推進計画」策定
19	9	28	「富士市まちづくりセンター条例」制定

年	月	日	事 項
平成20	4	1	機構改革により公民館がまちづくりセンターの名称に変わり、市民部まちづくり課へ、幼稚園が福祉部こども保育課へ移管。それに伴い、生涯学習課が社会教育課に改編。また、学校教育課に教育指導室を設置
		4	西図書館を富士市交流プラザ内に移転開館
		20	中央図書館大淵分室開館
	11	1	富士川町との合併により、富士川体育館、富士川河川敷憩いの広場運動施設、富士川学校給食センターを設置。また、小学校 27 校、中学校 16 校となる。
	11	5	中央図書館富士川分室開館
22	3	31	「スポーツ振興計画」の第二期計画書（計画期間：平成23年度～平成32年度）を作成
23	3	22	「富士市教育振興基本計画」を策定
	4	1	「第二次富士市子ども読書活動推進計画」を策定 伝法小学校に肢体不自由特別支援学級を開設 富士市立高等学校を開校（吉原商業高等学校から学科改編、開校式 4/7）
	6	24	「スポーツ振興法」が全部改正され「スポーツ基本法」が公布
	8	1	学校ＯＡ化推進事業により校務システム開始
24	4	1	電話相談「青少年相談ふじ」の愛称を「ほっとテレフォン・ふじ」とする。
	8	5	「第 29 回富士市青少年の船」実施→平成 25 年度以降の開催の中止を決定
25	11	1	「富士市文化振興基本計画」を策定
	12	23	全日本大学女子選抜駅伝競走（富士山女子駅伝）開催
26	8	11	第 1 回青少年体験交流事業「キズナ無限∞の島」開催（研修生 136 名、スタッフ 38 名）
27	2	18	富士川第二小学校をコミュニティ・スクールに指定
	3	11	富士市立博物館屋外収蔵庫竣工
		31	青少年センターを閉館
	4	1	機構改革により学務課を新設 富士市教育プラザを開所（落成式典 4/6） 教育プラザ内に教育研修センター、特別支援教育センター、 青少年教育センター、青少年相談センターを開設
		28	教育プラザに若者相談窓口を設置
28	2	22	「富士市教育振興基本計画 後期実施計画」を策定
	4	1	少年自然の家・青少年の家を指定管理へ
		29	富士山かぐや姫ミュージアム落成記念式典
	8	1	学校ＯＡ化推進事業により校務システム更新
	11	1	富士市文化会館にふじ・紙のアートミュージアムを開設
29	6	21	吉原小学校、伝法小学校、富士第二小学校、吉原第一中学校及び富士川第二中学校に学校運営協議会を設置
	8	5	中学校英語科教員を米国オーシャンサイド市へ研修派遣
30	1	22	富士市いじめ防止基本方針策定
	2	21	富士市小中連携・一貫教育基本方針策定
	4	1	富士見台小学校に外国人児童生徒支援のための国際教室を開設
	8	11	小学校教員 1 人、中学校英語科教員 1 人を米国オーシャンサイド市へ研修派遣
	10	1	学校図書システム及び小中学校 I C T 機器等の更新

平成31	4	23	須津小学校、田子浦小学校、鷹岡小学校及び富士見台小学校に学校運営協議会を設置
令和元	8	10	小学校教員1人、中学校英語科教員1人を米国オーシャンサイド市へ研修派遣
2	3	3	新型コロナウイルス感染症予防のため、3月19日まで市立小・中学校の臨時休業措置実施
	3	4	新型コロナウイルス感染症予防のため、3月19日まで市立高校の臨時休業措置実施
	3	31	浜幼稚園、元吉原幼稚園を閉園
	4	1	神戸小学校、元吉原小学校、東小学校、大淵第一小学校、富士第一小学校、富士南小学校、天間小学校、富士川第一小学校に学校運営協議会を設置
	4	9	新型コロナウイルス感染症予防のため、5月21日まで市立小・中学校及び市立高校の臨時休業措置実施
	5	17	新型コロナウイルス感染症予防のため、市立高校において在宅生徒とのオンラインを介したホームルームや授業形式の学習などを開始
	5	22	新型コロナウイルス感染症予防のため、5月29日まで市立小・中学校の分散登校実施
	5	22	市立高校の通常登校開始
	6	1	市立小・中学校の通常登校開始
3	12	25	GIGAスクール構想用タブレット整備（中学校整備完了）
	3	25	GIGAスクール構想用タブレット・大型提示装置整備（小学校整備完了）
	4	1	まちづくりセンター講座を、市民部まちづくり課による補助執行から社会教育課の直接執行へと改める。
			広見小学校、丘小学校、富士中央小学校に学校運営協議会を設置
	8	25	新型コロナウイルス感染症予防のため、8月31日まで市立小・中学校の夏季休業を延長
	9	1	新型コロナウイルス感染症予防のため、9月10日まで市立小・中学校の時差式分散登校実施（緊急事態宣言中）
	10	1	大型提示装置整備（中学校整備完了）
4	3	31	大淵幼稚園、南幼稚園を閉園
	4	1	機構改革により、市民部文化振興課から分離した文化財課、及び博物館の所管を開始
			富士市立富士川第二小学校、及び富士市立富士川第二中学校による施設一体型小中一貫校「富士川第二小中一貫校 松野学園」を開校
			今泉小学校、吉永第一小学校、吉永第二小学校、原田小学校、大淵第二小学校、岩松小学校、岩松北小学校、青葉台小学校に学校運営協議会を設置
	6	15	市立図書館に電子図書館システム「ふじ電子図書館」を導入し、電子書籍貸出サービスを開始
	8	30	GIGAスクール構想用タブレット追加整備（小学校1・2年生用）
5	2	1	移動図書館「ふじ号」を旧車両から更新、軽自動車2台体制での運行を開始 タブレットを活用した「ほっとデジタル相談・ふじ」を開設
	3	31	GIGAスクール構想用タブレット整備（市立高校整備完了）
			田子浦小学校に外国人児童生徒支援のための国際教室を新設
			原田幼稚園を閉園
	4	1	学校給食公会計化開始

6	8 4	11	大淵第二小学校を大淵第一小学校に編入統合 （明治 37 年 4 月 1 日大淵尋常高等小学校に大坂分教場として創立。令和 4 年度末の児童数は 23 人） 元吉原中学校、須津中学校、富士中学校、田子浦中学校、富士南中学校、鷹岡中学校に学校運営協議会を設置 富士市立中学校部活動地域移行検討懇話会を設置 青少年体験交流事業「キズナ無限∞の島」をリニューアルし、「無限∞のキズナ」として研修地を変更して実施（研修生 83 人、スタッフ 19 人）
		1	吉原東中学校を吉原第三中学校に編入統合 （昭和 37 年 4 月 1 日に吉原第三中学校から分離独立して誕生。令和 5 年度末の生徒数は 99 人） 市内全ての公立小・中学校が中学校併設型小学校及び小学校併設型中学校とし、全中学校区で小中一貫教育を開始 吉原第二中学校、吉原第三中学校、大淵中学校、岩松中学校、岳陽中学校、吉原北中学校に学校運営協議会を設置し、全ての公立小・中学校がコミュニティ・スクールとしての学校運営を開始

2 富士市教育委員会委嘱の各種名簿

※時点を記載していないものについては、令和6年6月1日現在の名簿となります。

※任期途中で人事異動等により就任した委員の任期は、前任者の残任期を引き継いでいます。

※各種名簿の備考欄に記載されている役職等については、委員就任時の役職等を記載しています。

(1) 富士市教育委員会自己点検・評価に関する外部評価検討会委員名簿

任期 自 令和5年4月1日
至 令和7年3月31日

No.	氏 名	備 考
1	島 田 桂 吾	静岡大学大学院教育学研究科准教授
2	石 川 誠	静岡県校長会事務局 元富士市校長会会長
3	工藤 千麻琴	富士商工会議所青年部副会長 元富士市立高等学校学校運営協議会委員
4	星野 恵美子	特定社会保険労務士 青少年教育指導者

(2) 富士市いじめ問題対策推進委員会委員名簿

任期 自 令和5年4月1日
至 令和7年3月31日

No.	氏 名	備 考
1	永 房 典 之	大学教授
2	佐 野 良 行	弁護士
3	高 木 啓	医師
4	鈴 木 隆 広	臨床心理士
5	齋 藤 朝 子	社会福祉士

(3) 富士市いじめ問題対策連絡協議会委員名簿

任期 自 令和6年4月1日
至 令和7年6月30日

No.	氏 名	備 考
1	村松 敦視	富士市校長会会長（富士南中学校校長）
2	望 月 敏 行	富士市教育研究推進会小学校生徒指導部部長（岩松北小学校校長）
3	神尾 充浩	富士市教育研究推進会中学校生徒指導部部長（吉原第三中学校校長）
4	奥谷 悟	静岡地方法務局富士支局長
5	佐藤 直行	静岡県富士児童相談所育成課長
6	朝比奈 利充	富士警察署生活安全課長
7	服 部 英 之	富士市PTA連絡協議会会長
8	高 木 豊	富士市福祉部障害福祉課長
9	本 多 直 人	富士市こども未来部こども未来課長
10	沓 澤 真 弓	富士市こども未来部こども家庭課長
11	味岡 俊雄	富士市教育委員会教育次長
12	吉 田 和 洋	富士市教育委員会社会教育課長兼青少年教育センター所長
13	田 中 亘	富士市教育委員会青少年相談センター所長
14	櫻 井 祥 行	富士市立高等学校校長
15	若 田 泰 一	富士市教育委員会学校教育課長

(4) 富士市学校結核対策委員会委員名簿

任期 自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

No.	氏 名	備 考
1	伊 藤 正 仁	静岡県富士保健所長
2	望 月 衛	富士市医師会代表（望月医院）
3	堀 場 映 子	富士市学校医代表（松野こどもクリニック）
4	遠 藤 繁	結核専門医（遠藤内科医院）
5	福 島 潤 子	富士市校長会（富士市立天間小学校長）
6	田 中 なおみ	養護教諭代表（富士市立富士川第二小学校）

(5) 富士市学校給食運営審議会委員名簿

任期 自 令和6年4月1日
至 令和8年3月31日

No.	氏 名	備 考
1	服 部 英 之	富士市PTA連絡協議会会長
2	橋 本 仁	富士市PTA連絡協議会副会長
3	小 櫛 和 子	富士市学校給食等地場産品導入協議会会長
4	佐 野 美 幸	公募委員
5	勝 又 妃 花	公募委員
6	大 村 倫 生	学識経験者（富士市薬剤師会代表）
7	和 泉 清 明	学識経験者（公認会計士）
8	大 石 萌 香	静岡県富士保健所管理栄養士
9	小 野 田 清 美	富士市校長会（富士市立富士第二小学校長）
10	望 月 香 織	富士市校長会（富士市立吉原北中学校長）

(6) 富士市社会教育委員名簿

任期 自 令和6年6月1日
至 令和8年5月31日

No.	氏 名	備 考
1	堤 幸 士	富士市立原田小学校 校長
2	井 上 淳	富士市立岩松中学校 校長
3	齋 藤 清 隆	富士市まちづくり協議会連合会 会長
4	辻 村 典 枝	富士市文化連盟 会長
5	山 野 政 宏	富士市スポーツ協会 会長
6	中 澤 公 一	富士市子ども会世話人連絡協議会 会長
7	服 部 英 之	富士市PTA連絡協議会 会長
8	戸 田 正 明	日本ボーイスカウト静岡県連盟 副理事長
9	上 野 朋 子	富士市立高等学校 教頭
10	猿 田 真 嗣	学識経験者
11	菅 井 良 美	学識経験者
12	太 田 眞 弓	学識経験者
13	山 田 千 津 子	学識経験者
14	渡 辺 美 恵 子	学識経験者
15	武 内 美 貴 乃	学識経験者

(7) 富士市図書館協議会委員名簿

任期 自 令和5年6月1日
至 令和7年5月31日

No.	氏 名	備 考
1	鈴 木 守	常葉大学教育学部生涯学習学科教授
2	渡 辺 美 恵 子	きらり交流会議委員長
3	榮 賀 隆 幸	富士市PTA連絡協議会顧問
4	福 本 拓 子	富士・子どもの本を学ぶ連絡会
5	窪 田 か づ 江	富士市立図書館音訳ボランティア
6	木 三 田 哲 一	公募委員
7	本 多 佐 和 子	公募委員
8	田 中 尚 志	富士市校長会（富士市立広見小学校校長）

(8) 富士市子ども読書活動推進協議会委員名簿

任期 自 令和5年7月1日
至 令和7年6月30日

No.	氏 名	備 考
1	村 山 功	静岡大学学術院教育学領域教授
2	狩野窪 高江	富士・子どもの本を学ぶ連絡会
3	榮 賀 隆 幸	富士市PTA連絡協議会顧問
4	望 月 早	静岡県立富士特別支援学校教諭
5	大 庭 公 洋	富士地区私立幼稚園協会 (学校法人 国際教育機構 認定こども園 わかば幼稚園園長)
6	山 崎 宮 子	富士市民間保育園連盟 (社会福祉法人岩松育英福祉会 松岡保育園園長)
7	遠 藤 正 人	公募委員
8	齋 藤 由 美	公募委員
9	小 林 亜由美	公募委員
10	田 中 尚 志	富士市校長会（富士市立広見小学校校長）
11	池 田 直 子	公立保育園・幼稚園長会（蓼原保育園園長）
12	勝 又 誠	富士市立高等学校情報図書課教諭

(9) 富士市青少年問題協議会委員名簿

任期 自 令和5年12月1日
至 令和7年11月30日

No.	氏 名	備 考
1	小長井 義正	富士市長
2	森 田 嘉 幸	富士市教育長
3	萩 野 基 行	富士市議会産業教育委員長
4	鈴 木 康 弘	富士公共職業安定所長
5	山 登 康 治	富士健康福祉センター参事兼富士児童相談所所長
6	土 屋 規 之	富士健康福祉センター福祉課長
7	朝比奈 利充	富士警察署生活安全課長
8	望 月 香 織	富士市立吉原北中学校校長
9	櫻 井 祥 行	富士市立高等学校校長
10	高 橋 潤 子	県立富士特別支援学校副校長
11	太 田 眞 弓	富士市社会教育委員会議副委員長
12	半 田 育 子	富士市民生児童委員
13	鈴 木 ひさ子	富士地区保護司会副会長
14	石 川 伸 宏	富士市社会福祉協議会常務理事兼事務局長

(令和6年3月31日現在)

(10) 富士市青少年相談センター運営協議会委員名簿

任期 自 令和5年6月1日
至 令和7年5月31日

No.	氏 名	備 考
1	櫻井 祥行	富士市立高等学校長
2	清 泰 雅	富士市青少年指導委員
3	朝比奈 利充	富士警察署生活安全課長
4	沓澤 真弓	富士市こども未来部こども家庭課長
5	永井 知数	富士市PTA連絡協議会副会長
6	遠藤 清嗣	富士市まちづくり協議会連合会副会長
7	丸山 陽一	富士市社会福祉協議会主査
8	齋藤 由美	公募委員
9	本多 佐和子	公募委員
10	吉川 智子	富士市民生委員児童委員協議会 富士北地区 主任児童委員
11	堤 幸 士	富士市校長会（富士市立原田小学校校長）
12	遠藤 啓之	学識経験者

(11) 富士市子ども・若者支援協議会委員名簿

（令和6年度委員）

No.	氏 名	備 考
1	鈴木 康弘	富士公共職業安定所長
2	山登 康治	静岡県富士児童相談所長
3	土屋 規之	静岡県富士健康福祉センター福祉課長
4	朝比奈 俊充	富士警察署生活安全課長
5	味岡 俊雄	教育委員会教育次長
6	玉舟 正弥	福祉部福祉総務課長
7	遠藤 弘夫	福祉部生活支援課長
8	高木 豊	福祉部障害福祉課長
9	沓澤 真弓	こども未来部こども家庭課長
10	伴野 晃仁	保健部健康政策課長
11	岡田 裕一	産業交流部商業労政課長
12	若田 泰一	教育委員会学校教育課長
13	吉田 和洋	教育委員会社会教育課長
14	田中 亘	教育委員会青少年相談センター所長
15	石川 伸宏	富士市社会福祉協議会常務理事兼事務局長

(12) 富士市教育文化スポーツ奨励賞選考委員会委員名簿

(令和5年度委員)

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	菅 井 良 美	富士市社会教育委員長	5	山 田 幸 男	学識経験者(前富士市教育長)
2	辻 村 典 枝	富士市文化連盟会長	6	山 野 政 宏	富士市スポーツ協会会長
3	松 本 玲 子	学識経験者	7	山 本 秀 和	富士市スポーツ推進委員会委員長
4	森 田 嘉 幸	富士市教育長	8	若 月 佳 妙	富士市校長会(東小学校校長)

(13) 富士市文化財保護審議会委員名簿

任期 自 令和5年5月1日
至 令和7年4月30日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	秋 山 憲 行	富士自然観察の会 樹木医	6	菊 池 邦 彦	東京都立産業技術高等専門 学校名誉教授
2	池 谷 初 恵	伊豆の国市文化財調査員 日本貿易陶磁研究会員	7	田 島 整	上原美術館主任学芸員 伊東市・下田市文化財保護審議会委員
3	大 高 康 正	静岡県富士山世界遺産 センター教授	8	新 妻 淳 子	静岡文化芸術大学准教授
4	金 指 とも子	駿河郷土史研究会役員	9	松 田 香 代 子	愛知大学非常勤講師 日本民俗学会員
5	河 内 えり子	佐野美術館学芸グループ長 三島市文化財保護審議会委員	10	山 本 玄 珠	東海大学客員研究員 日本地質学会員、静岡県地学会員

(14) 富士市立博物館協議会委員名簿

任期 自 令和5年6月1日
至 令和7年5月31日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	田 中 尚 志	富士市立広見小学校校長	6	高 井 忠 満	富士市介護保険事業者 連絡協議会副部長
2	大 橋 幸 治	富士市立丘小学校校長	7	外 立 ま す み	日本民具学会会員
3	小 澤 緑	富士自然観察の会会長	8	渡 邊 康 弘	日本考古学協会会員
4	加 藤 昭 夫	駿河郷土史研究会会長	9	佐 野 美 幸	公募委員
5	田 中 伸 佳	静岡県工業技術研究所富士 工業技術支援センター長	10	本 多 佐 和 子	公募委員

(15) 富士市立中学校部活動地域移行協議会委員名簿

任期 自 令和6年6月1日
至 令和8年5月31日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	服 部 英 之	富士市PTA連絡協議会会長	6	村 田 真 一	学識経験者 (静岡大学准教授)
2	橋 本 仁	富士市PTA連絡協議会副会長	7	神 尾 充 浩	富士市中学校体育連盟会長 (吉原第三中学校校長)
3	山 野 政 宏	富士市スポーツ協会会長	8	萩 原 慎	富士市中学校体育連盟理事長 (大淵中学校教諭)
4	辻 村 典 枝	富士市文化連盟会長	9	望 月 香 織	富士市中学校文化連盟会長 (吉原北中学校校長)
5	佐 野 美 幸	公募委員	10	原 田 和 久	富士市校長会 (岳陽中学校校長)

(16) 富士市文化財保存活用地域計画推進協議会委員名簿

任期 自 令和5年7月1日
至 令和7年6月30日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	武 内 充 則	瑞林寺副住職	6	渡 邊 麻 里	公募委員
2	米 山 博 子	富士商工会議所 総務部 総務課 係長	7	滝 沢 誠	筑波大学 人文社会系 教授
3	鈴 木 誠 典	富士山観光交流ビューロー 主査	8	加 藤 昭 夫	駿河郷土史研究会会長
4	齋 藤 清 隆	富士市まちづくり協議会 連合会会長	9	菊 池 吉 修	静岡県スポーツ・文化観光部文化局 文化財課文化財地域支援班 班長
5	佐 久 間 恵	公募委員			

(令和6年3月31日現在)

(17) 富士市史跡保存整備推進委員会委員名簿

任期 自 令和5年7月1日
至 令和7年6月30日

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	鈴 木 英 之	須津地区まちづくり協議会副会長 須津ふるさと愛好会会長	5	若 狭 徹	明治大学文学部 教授
2	池 谷 初 恵	富士市文化財保護審議委員	6	高 橋 知 奈 津	奈良文化財研究所 文化遺産部 遺跡整備研究室 主任研究員
3	滝 沢 誠	筑波大学 人文社会系 教授	7	望 月 秀 一	富士市立須津小学校 校長
4	禰 亘 田 佳 男	大阪府立弥生文化博物館 館長 元文化庁主任調査官	8	畔 柳 修	浅間神社氏子総代

(令和6年3月31日現在)

3 富士市の社会教育関係団体一覧表

団 体 名	加入団体数	所 管 課	電 話
代 表 者 名	会員数	事 務 局 所 在 地	
富 士 市 P T A 連 絡 協 議 会	41	学務課	51-0123 内 2747
会 長 服部 英之	17,861 人	〒417-8601 富士市永田町 1 丁目 100 番地	
富 士 市 子 ど も 会 世 話 人 連 絡 協 議 会	23	社会教育課	55-0560
会 長 中澤 公一	5,728 人	〒417-0024 富士市八代町 1 番 1 号	
ボーイスカウト富士地区協議会	7	社会教育課	55-0560
協議会長 鈴木 孝治	297 人	〒417-0024 富士市八代町 1 番 1 号	
ガールスカウト富士地区連絡協議会	3	社会教育課	55-0560
代 表 米田 容子	50 人	〒417-0024 富士市八代町 1 番 1 号	
富 士 市 文 化 連 盟	96	文化スポーツ課	51-0123 内 2807
会 長 辻村 典枝	2,312 人	〒417-8601 富士市永田町 1 丁目 100 番地	
富 士 市 民 俗 芸 能 連 絡 協 議 会	7	文化財課	30-7850
会 長 内山 義和	216 人	〒417-0061 富士市伝法 66 番地の 2	
富 士 市 ス ポ ー ツ 協 会	40	文化スポーツ課	53-6045 (スポーツ協会)
会 長 山野 政宏	20,272 人	〒417-0041 富士市御幸町 8 番 1 号	
富 士 市 ス ポ ー ツ 少 年 団	56	文化スポーツ課	51-0123 内 2694
本 部 長 伊藤 幸雄	1,318 人	〒417-8601 富士市永田町 1 丁目 100 番地	
女 性 ネ ッ ト ワ ー ク ・ 富 士	1	市民活躍・男女共同参画課	51-0123 内 2336
会 長 吉村 てるゑ	135 人	〒417-8601 富士市永田町 1 丁目 100 番地	

ふじの教育

令和6年度版

令和6年6月発行

編集・発行 富士市教育委員会

富士市行政資料登録番号

R 6 — 1 3